ちひろ美術館の40年

1977～2017

40 years of Chihiro Art Museum

平和で、豊かで、美しく、可愛いものがほんとうに好きで、
そういうものをこわしていこうとする力に限りない憤りを感じます。
今の世の中、いろんなものが失われていってるでしょう。
とても素朴なんだけれどたいせつなもの、
それが絵本の中にはあるんです。（いわさきちひろ　1972年）

Contents

目次

4 早わかり！ ちひろ美術館の40年

6 感謝をこめて
（公財）いわさきちひろ記念事業団理事長　山田洋次

7 ちひろさんの心を大切に
ちひろ美術館（東京・安曇野）館長、ユニセフ親善大使　黒柳徹子

8 ちひろ美術館の使命　開館40年にあたって
ちひろ美術館常任顧問　松本猛

9 サンドイッチの味と絵描きの命
（公財）いわさきちひろ記念事業団評議員　松本善明

10 ちひろ美術館 40 年によせて
作家　中島京子

人間が自然体になれる、ちひろの絵
平塚市美術館館長　草薙奈津子

11 「物語」が失われても
ライター・エディター、永青文庫副館長　橋本麻里

『窓ぎわのトットちゃん』タイ語版から33年
翻訳家・通訳　プッサディー・ナワウィチット

12 ゲストブックより
14 来館者感想ノートより

16 ちひろ美術館
40年のあゆみ

28 ちひろ美術館　建物の変遷

30 展示・企画展
40年のあゆみ

45 Collection
ちひろ美術館コレクション

46 いわさきちひろ
48 いわさきちひろの生涯
50 日本の絵本画家
55 海外の絵本画家
59 絵本とイラストレーションの歴史資料
60 収蔵作家一覧

62 Photo Album
ちひろ美術館と絵本画家たち

62 教育普及活動
64 国際交流事業

70 いわさきちひろ　ブックリスト

80 あとがき
（公財）いわさきちひろ記念事業団事務局長、
安曇野ちひろ美術館副館長　竹迫祐子

80 2016年度　ちひろ美術館評議員・理事・監事

表紙　はなぐるま　1967年／p.1　黄色い傘の少女　1969年／p.2　緑の風のなかで　1973年／p.4　ピンクのセーターの少女　1970年

早わかり！ちひろ美術館の4

1977 いわさきちひろ絵本美術館開館
初代館長は劇作家の飯沢匡

1981 『窓ぎわのトットちゃん』（講談社）刊行

トットちゃん、登場！

1983 いわさきちひろ絵本美術館
新館オープン

復元アトリエができました

1986 企画展「木にとまりたかった木のはなし」原画展開催

1987 開館 10 周年！

1991 欧米を中心に 10ヵ国を巡り、
コレクションに努める。現在は
世界 34 の国と地域 207 人の
画家による約 2 万 7,200 点を所蔵

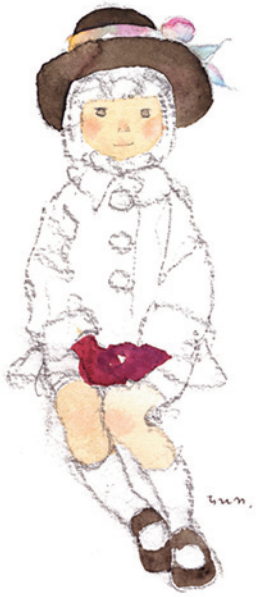
1994 ちひろ展 100 回記念
「ちひろの花ことば」展開催

海外の
美術館での最初の
ちひろ展！

1995 第 2 代館長に黒柳徹子就任

1996 米国ノーマン・ロックウェル美術館にて、
ちひろ展開催

1997 ちひろ美術館開館 20 周年、安曇野ちひろ美術館オープン
いわさきちひろ絵本美術館（東京）の呼称を
「ちひろ美術館・東京」に変更



0年

40 years of Chihiro Art Museum

2000
（財）いわさきちひろ記念事業団
理事長に山田洋次就任

開館
25周年！

2001
安曇野ちひろ美術館新館オープン

2002 安曇野館にて、夏休みの
中学生ボランティアの受け入れスタート
ちひろ美術館・東京リニューアル・オープン

2004 「いわさきちひろ没後 30 年
わたしが選んだちひろ展」開催

子どもたちの
“居場所”
となる美術館に

2005 東京・安曇野両館にて、
高校生以下の入館料を無料に

2007 東京館が 30 周年、
安曇野館が 10 周年を迎える

2016 安曇野館に子どものための展示室
「トットちゃんの部屋」オープン
安曇野ちひろ公園内に、
「トットちゃん広場」が完成

「電車の教室」
も再現！

2017 東京館が 40 周年、
安曇野館 20 周年を迎える

2018 いわさきちひろ生誕 100 年
メモリアルイヤー！

ちひろの誕生日は
1918 年
12月15日です

未来へ・・・

感謝をこめて

（公財）いわさきちひろ記念事業団理事長　山田洋次

北アルプスを仰ぎ見る安曇野館、その穏やかに傾斜した敷地のとなりに広々とした松川村営の安曇野ちひろ公園があって、その中ほどに長野電鉄から寄贈された大正末期と昭和初期に製造されたレトロな電車が二台、黒柳徹子さんの母校であるトモエ学園の電車の教室を模してデンと鎮座しています。昨年の７月、この「トットちゃん広場」オープニングの行事が華やかに行われましたが、松本善明さんをはじめ、ちひろ美術館の創立に関わる人たちは、今から 40 年前にちひろの住宅の一隅にスタートした時のささやかであっただろう開館式を想起して、さぞ感慨無量だったことでしょう。

高名な画家やコレクターの名前を冠した美術館は数多くありますが、私たちの美術館は大事に保管されていたいわさきちひろのほとんど全部である１万枚近くの絵本原画を元にしてスタートし、家族連れでのんびり過ごせる居心地の良い空間であり、アットホームで人間的なサイズであることをコンセプトとして今日にいたっています。しかも世界中の優れた絵本作家の原画コレクションが充実していて童画の収蔵では世界のトップレベルであることは、ささやかな自慢です。

私たちの美術館のもうひとつの特徴は、ひたすら赤ん坊や幼い子どもを描き続けたちひろが生涯をかけて念じ続けたこと――かよわい子どもたちが安心して生きていける世の中であってほしい、そのひとりひとりの個性の成長が大事に守られなければならない、そのためには、何よりもまず世界が平和でなくてはならない、戦争は絶対に許さない――というテーマを、経営の方針として大切にしているということだと思います。

美術館の冬の時代にあって、われわれの小さな美術館も決して安定経営とは言えないけど、とも角、安曇野館の新設や東京館の新築を成し遂げ、子どもの絵本美術館として世界に知られるようにまでなったのは、ひとえに私たちの仕事に賛成し惜しみなく応援して下さった観客の皆さんのおかげです。

40 周年にあたり、改めてお礼申し上げます。

ちひろさんの心を大切に

ちひろ美術館（東京・安曇野）館長、ユニセフ親善大使　黒柳徹子

ちひろさんが亡くなって3年目に誕生した「ちひろ美術館・東京」が開館40年を、「安曇野ちひろ美術館」が開館20年を迎えました。40年も経っているのに、美術館を愛してくださって、いろいろなところからおおぜいの方が来てくださり、ちひろさんの絵が好きだといってくださる。本当にありがたいことだと思っています。おじいちゃまおばあちゃま、お父さんお母さん、そして大人になったお子さんたちが、そのお子さんまでつれて、4世代でご来館くださるかたもいらっしゃいます。素敵なことだと思います。

40年間で世の中はずいぶん変わってきました。子どもたちは機械を見て育っています。日本の子どもたちは豊かではあっても、本当に幸せなのか、と危ぶむ声が出てきています。いつも、子どもの幸せを願っていたちひろさんにとって、きっと心を痛めるだろうと思えることもいっぱい起こっています。

子どもの、真っ白な画用紙のような心に何を与えるかは、大人にかかっています。初めて目に入ってくるものは、美しいものであってほしい。ザラザラしていないもの。繊細でやさしいちひろさんの絵を見てもらって、心やさしい気持ちの子どもに育ってほしい。

私が子ども時代、トモエ学園で過ごしていた頃は戦争のなかでした。同じ時代に、ちひろさんは青春時代を過ごしていらっしゃいました。ちひろさんの絵のなかには、かわいい子どもたちを決して泣かさないよう、「平和」をずっと続けてほしいという願いがこめられています。世の中が絶対に戦争に巻き込まれるようなことにならないように、子どもたちが未来を夢見て、そして安心して生きていける世の中であってほしい。

今も世界には戦火や貧困にさらされている子ども、豊かさのなかに暮らしながら暴力にさらされている子どもがたくさんいます。こんな時代だからこそ、ちひろさんや世界中の絵本画家が描いた「やさしさ」「美しさ」を伝えていきたい。

これからもみんなでがんばりますので、この美術館がずーっと続けていかれますように。みなさま、どうぞ、よろしくお願いいたします。

ちひろ美術館の使命　開館40年にあたって

ちひろ美術館常任顧問　松本 猛

撮影：島崎信一

ちひろ美術館は 1977 年、二つの理念を掲げて活動を始めました。一つは「子どもの幸せと平和」。もう一つは「絵本文化の発展」です。

この 40 年の間に、世界経済は発展し、科学技術は長足の進歩を遂げました。コンピューターとインターネットの普及は人間社会を効率よく便利なものに変えたように見えます。しかし、それは本当に子どものしあわせにつながる文明の発達だったのでしょうか？　2011 年には東日本大震災が起こり、福島の原発事故が発生しました。これは、効率化と経済最優先の現代社会への警鐘だったといえるのではないでしょうか。

いわさきちひろは、経済成長の代償に、人間は心の豊かさを失うのではないかと危惧し、自分は、今の日本から失われたいろいろなやさしさや美しさを描く、と語っています。ちひろ美術館は、ちひろの意思を引継いで子どもの幸せにつながる豊かさとは何かを探り、発信し続ける必要があります。

平和についても、世の中は前進しているのでしょうか？　2003 年のイラク戦争後、テロはなくなるどころか多発し、不安な世界情勢が続いています。その根底には世界の経済格差が潜んでいます。しかし、各国の動きを見ると格差を容認する保護主義や極右勢力が力を伸ばしています。日本でも立憲主義が危機にさらされています。

絵本は美術という世界共通言語を通してさまざまな国や地域の文化を表現し、子どもから大人までが享受できる世界です。子どもたちが世界の多様な文化に関心を持ち、尊重するようになれば、ひいては国際交流、国際平和にもつながるといえるでしょう。ちひろ美術館の世界の絵本原画コレクションは、そういう思いも込めて作品を収集し、公開しています。

絵本文化についていえば、この 40 年で大きな変化がありました。ちひろ美術館が開館した当初は、絵本を美術と認識している人はほんのわずかでしたが、今では 40 近い絵本専門美術館ができ、公立美術館での絵本展も盛んになりました。この動きは世界にも波及しつつあります。20 年前には絵本学会も設立され、絵本の多様な側面の研究も進んでいます。こうした絵本を取り巻く動きの中心の一つにちひろ美術館の存在があったことは誇りにしたいと思います。

急激な文明の発達のなかで私たちはいま、立ち止まって、人間が自然の一部であることを自覚し、多様な文化を持つ国や地域が互いに尊重しあい、共存する道を探らなければならない時代に生きています。絵本は、子どもたちがものを考え、感じ、さまざまな文化を認識するための大切な世界です。ちひろ美術館の使命は、この絵本文化を守り、発展させていくことにあるでしょう。

サンドイッチの味と絵描きの命

（公財）いわさきちひろ記念事業団評議員　松本善明

ちひろ美術館が今年40周年を迎える――。ということは、ちひろが亡くなってから、もう43年もの歳月が流れたということです。僕は未だに、そのことを実感できていないように思います。今も、ちひろが生きている気がする。

僕の暮らすシニアハウスでは、風呂場の脱衣所にちひろのカレンダーが掛けられています。だから、風呂のたびにちひろの絵を見る。そうすると、そのたびにちひろに会ったような気がする。そして、あれ、この人ほんとうに死んだんだっけ、といろいろなことを思い出すんです。

生前のちひろは、いつも絵を描いていました。子どもの頃は、道に次々と蝋石で絵を描いていくから、蝋石の絵を追っていけばちひろの居場所がわかる、そんな子だったそうです。結婚してからも、描いていないのはトイレと食事のときくらいか、というほど、絵ばかり描いていました。出かけるときも常にスケッチブックを携えていて、電車の中でも誰かを描いていました。向こうがそれに気づくと、ちょっと頭を下げて……そんな姿も懐かしく思い出されます。

けれどもじつは、何よりも忘れがたいのは、ちひろのサンドイッチの味かもしれません。大学を卒業した年の夏頃、神田の共産党支部の会議で、僕はおかっぱ頭のひとりの女性に出会った。それがちひろでした。「絵描きです」と名乗る彼女がどんな絵を描くのか知りたくて、ある日、ちひろの家を訪れたのですが、そのとき、彼女がサンドイッチを出してくれたんです。ちょっと辛子が効いていて、なんとも言えず美味しかった。戦後間もなく、まだ食べ物もあまりない時代のことで、独りものの僕は、外食券食堂でちょっと食べるのがせいぜい、という暮らしです。それからも「絵を見せてください」といって、ちひろの家に行っては、サンドイッチをごちそうになりました。

それからしばらくして、僕たちは結婚しましたが、あんなに早く逝ってしまうとは思ってもいませんでした。55年の人生であれだけの作品を残したちひろです。もしも長生きしていたら、きっと世界的な巨匠になっていたに違いないと思います。ちひろ亡き後、僕はいろんな国を訪ねてたくさんの絵を見る機会にも恵まれましたが、彼女の絵ほど、希望を感じさせる絵はありません。ちひろの絵は夢でいっぱいなんです。戦争反対を声高に叫ぶわけではないけれど、ちひろの絵を見ていれば、戦争にはつながらない。人間第一なんです。人間が豊かに、戦禍なんかに巻き込まれないで生きることの大切さを、ちひろは絵で語っている、そしてこれからも語り続けていくんだと思います。

絵が生きているから、ちひろは死なない。風呂場でちひろの絵を見ては、絵描きの命は長いものだと、しみじみ感じています。

ちひろ美術館40年によせて

作家　中島京子

©文藝春秋

初めて訪ねたのは、大学生のころで、それでも30年以上前のことになります。いつ伺っても、ふんわりとやさしい気持ちになる特別の空間です。

わたし自身、多くの方と同じように、ちひろ絵本に囲まれた幸福な子ども時代を送りました。『おにたのぼうし』『おふろでちゃぷちゃぷ』『ゆきのひのたんじょうび』『赤い蝋燭と人魚』など、数々の名作絵本が脳裏に浮かびます。敗戦後の焦土の日本を立て直して一息つき、人々の暮らしに余裕が生まれて少しずつ文化の大切さが浸透していくころ。ちひろ絵本が次々に子どもたちに読まれていった60年代から70年代というのは、そうした時代でもあったと思います。また、ちひろ自身も作品を通してそうしたように、市民が反戦の声を上げるような運動も、広く支持されていたと思います。ちひろ美術館の「ちひろのアトリエ」コーナーを訪ねると、その洗練されて教養の豊かさの感じられる空間に、あのころの空気を感じ、懐かしさといとおしさを覚えます。

20年になるという安曇野の美術館は、じつはまだ訪ねていないのです。夏休みに遊びに来る、絵を描くのが大好きな姪甥といっしょに、ぜひ行ってみたいと考えています。

人間が自然体になれる、ちひろの絵

平塚市美術館館長　草薙奈津子

岩崎ちひろの原稿を依頼された時には驚きました。というのはそれまで私は絵本とは全く無関係だと思っていたからです。私の専門は近代・現代日本画であり、大観や御舟や土牛などです。はたしてきちんとした原稿を書けるかしらと、ドキドキしながらお引き受けしたことを今でもよく覚えています。

あわてて一生懸命勉強しました。そしてちひろがたらし込み（宗達に始まるとされる琳派の没骨描法）を使っていることに気づき、俄然ちひろの画家としての態度に興味と関心を抱くようになりました。柔らかい色調も魅力ですし、描かれている子供たちも本当に可愛い。よく見、そして創って描いていると思いました。

私の母はちひろが大好きで、美術館から頂いたカレンダーを持って行ってあげると、とても喜んでいました。亡くなった時ベッドの横にポツンと掛かっていたちひろカレンダーに言いしれぬ寂寥を感じました。そしてどうして日本人はこんなにちひろ作品が好きなんだろうと思いました。

赤ちゃんを見ると誰でもが可愛いと思うのではないでしょうか。私もそうです。そしてかわいいということに理由も理屈もありません。ちひろ作品もそうです。私などつい美術史的に考えてしまうのですが、ちひろ作品だと、もっと素直に、自然に接することができるのです。人間が自然体になれる、それがちひろ芸術が多くの人々に愛される所以ではないかと思っています。

「物語」が失われても

ライター・エディター、永青文庫副館長　橋本麻里

曲がりなりにも美術の周辺で書くことを生業にしている筆者が、ただただ絵の美しさに惹きつけられた初めての対象は、いわさきちひろの絵本であった。そのことをはっきりと思い出したのは 2012 年、『芸術新潮』のいわさきちひろ特集に編集・執筆で関わった時だ。『あかいくつ』『にんぎょひめ』など、かつてこども部屋の本棚にあった懐かしい絵本に再会し、「色褪せぬ」という言葉がこれほどふさわしい作品はなく、なるほど、芸術誌で取り上げるにふさわしい画家だったのだ、と認識を新たにした。

そしていま、不思議にも、面白くも思うのは、伊藤若冲であれ刀剣であれ、今日の美術における流行が、作品そのものの質以外に、作家や作品にまつわる物語性に左右されるという「物語消費」――マーケティング用語を当てはめることには抵抗もあるが――の傾向があるにもかかわらず、それこそ物語に寄り添って描かれたちひろの挿画が、本体である物語とも、ちひろ自身のドラマティックな人生ともまったく独立に評価され、長く愛され続けてきたことだ。いつか物語が失われ、作家自身も忘れ去られ、依るべき一切のものが消え失せたとしても、その絵は残るだろう。そしてそのような確信を与えてくれる画家は、決して多くはない。

『窓ぎわのトットちゃん』タイ語版から33年

翻訳家・通訳　プッサディー・ナワウィチット

ちひろ美術館・東京の開館 40 周年及び安曇野ちひろ美術館の開館 20 周年、おめでとうございます。

私は 1968 年から 1978 年まで日本に留学しました。一年間の日本語教育を受け、1969 年から 1975 年までお茶の水女子大学家政学部（今は生活科学部と改名されましたが）児童学科に在籍しました。その間、日本や西洋の児童文学作品に触れることが出来ました。日本で出版された絵本や児童書を手にする度、日本の子供たちが羨ましく思いました。

帰国してから NHK テレビの仕事や国際交流基金の仕事をしながら今のバタフライ出版社のお手伝いをすることになりました。当時の編集長がある日バンコクの日本の本屋で『窓ぎわのトットちゃん』の英語版を見つけました。イギリスで教育を受けた編集長は翻訳したいと言っていましたが、その話を国際交流基金のお仕事で知り合ったグラフィックデザイナーの柴崎さんにしたところ英語ではなく日本語から翻訳した方が良いのではないかとアドバイスしてくれました。柴崎さんが写真家の田沼先生を紹介して下さったので黒柳さんに会い、『窓ぎわのトットちゃん』のタイ語版を出すことが出来ました。

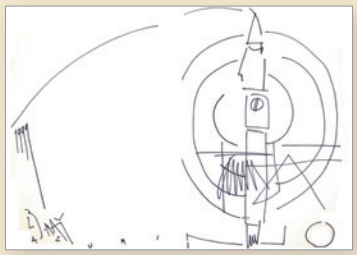
その出会いから 33 年が経ちました。子どものころにタイ語で読んだ人たちは今親になってもトットちゃんの物語といわさきちひろさんが描いた愛らしいトットちゃんたちが大好きだと言っています。タイ人のちひろファンにとって、いわさきちひろさんは無邪気で可愛らしい「子どもの美」と夢の世界のような「水彩画の美」をこの世に残してくれた遺産だと言えるでしょう。

From the Guestbook ゲストブックより

2005 年 3 月 23 日
アンソニー・ブラウン（イギリス）

2003 年 6 月 13 日
ブライアン・ワイルドスミス（イギリス）

1995 年 11 月 5 日
ヘレン・オクセンバリー（イギリス）



1999 年 5 月 23 日
クヴィエタ・パツォウスカー（チェコ）

1998 年
ドゥシャン・カーライ（スロヴァキア）

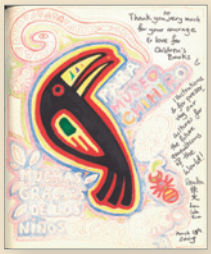
ユゼフ・ヴィルコン（ポーランド）

2009 年 7 月 11 日
アンドレア・ペトルリック・フセイノヴィッチ（クロアチア）

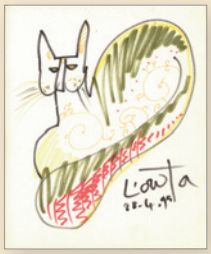
2004 年 12 月 14 日
ユーリー・ノルシュテイン（ロシア）

1992 年
エリック・カール（アメリカ）

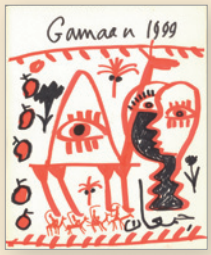
クラウディア・レニャッツィ（アルゼンチン）



2009 年 3 月 14 日
ウェン・シュウ（コスタリカ）



1995 年 4 月 28 日
セイフ・エディーン・ロウタ（スーダン）



1999 年
フセイン・ジャマアーン（スーダン）

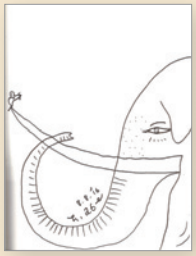
2002 年 5 月 23 日
武建華（中国）

2008 年 7 月 6 日
ボロルマー・バーサンスレン
（モンゴル）

各国の絵本画家、絵本関係者からの訪問を受ける
ちひろ美術館のゲストブックには、多彩なメッセージが残されています。

2016 年 3 月 16 日
チョ・ウンヨン（韓国）

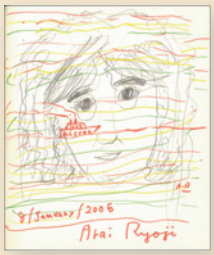
2006 年 4 月 13 日
パク・チョルミン（韓国）



2016 年 8 月 8 日
あべ弘士（日本）

2010 年 9 月 30 日
伊藤秀男（日本）

1993 年 11 月9日
丸木俊（日本）

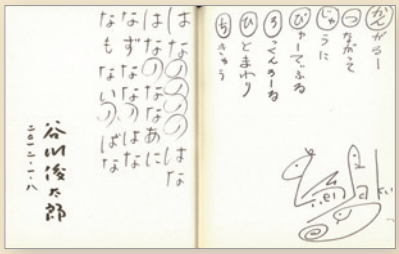


2006 年 1 月 8 日
荒井良二（日本）

2013 年 1 月 27 日
出久根育（日本）

1995 年 12 月 19 日
瀬川康男（日本）

2008 年 8 月 24 日
西村繁男（日本）



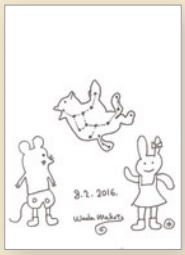
2012 年 1 月 8 日
谷川俊太郎・谷川賢作（日本）

長新太（日本）

1999 年 8 月 21 日
田島征三（日本）

2010 年 1 月吉日
武田美穂（日本）

2003 年 6 月 7 日
与勇輝（日本）



2016 年 8 月 2 日
和田誠（日本）

来館者感想ノートより

1977.9.11［東京］

思っていたよりちっちゃなずっとちっちゃな美術館でした。私、ほっとしています。はいる時くつぬいで……なんだかちひろさんのお家に遊びにきたような、そんな感じ。そこにはちひろさんはいないのだけれど、みんな集まってくるのはあたたかい人ばかり。日だまりがあって、ちっちゃな安らぎがある。とってもとってもステキです。また、そのうち絵本に会いたくなったら、あたたかい気持ちにあいたくなったら、学校の帰りでもよります。 ほんとうにほんとうにありがとう。

1983.9.29［東京］

今日は父と来ました。はじめは行くか行かないかで悩んでいたようでしたが、絵を見始めると私よりハッスルして、「これは関東大震災あとの絵だ」とか「お父さんの子どもの頃も、よくこんなことがあったなあ」なんて、本当になつかしそうに話すのです。童心に帰った父の笑顔は「来てよかった」と言っているようで、私はとってもうれしかった！

1995.1.11［東京］

僕は 25 歳。大阪で証券マンをしています。いつもシビアな環境の中で力を出し尽くした後、帰宅してから部屋にかかっているちひろさんのカレンダーを見て、我に返るような感じです。心温まる、そして不思議な力を与えてくれる絵ですね。

1998.5.23［安曇野］

家族 5 人で東京福生から来ました。ここのように障害者にもやさしい所ってあまりなくて、一緒に楽しめないことが多いのですが、今日は足の悪い主人と一緒に見学できたのが何よりうれしかったです。

2000.8［安曇野］

戦争の絵をみていたら、美術館だということも忘れて、泣き出してしまいました。悲しくて、せつなくて……2度とこんなことはしてはいけないと、改めて思いました。 百の言葉より、千の言葉より、たった一言、たった一枚の絵で、伝えたいことを伝えられるちひろさんはやはり素晴らしいと思います。 これから、私はどんどん成長して、大きくなっていきます。その中で、今まで感じた小さかった頃の気持ちを忘れず、生きていきたいと思いました。

2002.12.15［東京］

再オープンの当初は、遠い知人の娘さんが知らぬ間に成長していて、久しぶりに会った時のような軽い戸惑いもありましたが、以前の美術館の時より足しげく通っている自分に気が付きます。何気なく立ち寄って、ホッと一息つける空間がこの町にある喜び……引っ込み思案だった少女が社交的な大人の女性に成長したような不思議な驚き。いつまでも変わらないちひろさんの絵と、変わっていくちひろ美術館。その 2 つが 1 つになって、この魅力的な空間があるのだと、思います。ちひろさん、お誕生日おめでとう。

2005.8.25［東京］

初めて来たわりには昔から知っていたような感じがしました。ちひろさんの絵はあたたかくて優しくて、不思議な絵です。中学の宿題で来たのに、当初の目的を忘れてちひろさんの世界に引き込まれていきました。

2006.7.15［安曇野］

長時間ドライブのせいか、ついウッドチェアーでウトウトしてしまいました。目がさめて恥ずかしかったのですが、実は美術館の趣旨に沿っていたのですね。改めてこの美術館のコンセプトの確かさに感歎いたしました。

2008.3.23［安曇野］

こども病院に 3 ヶ月入院している二女を今日は夫に看てもらい、春休みのひととき、長女とふたり、穏やかな気持ちで過ごさせていただいています。こども病院にもちひろさんの絵がいたるところに飾られ、気持ちを和ませてくれます。やさしい春の花……いいですね。

2008.4.26［安曇野］

初山滋さんの絵を見に来ました。素晴らしかったです。色使い、色彩感覚、あまりに素敵で体の力が抜けて、倒れそうになりました。絵を見た後、体の中を流れる血や空気が全て変わったように感じた。絵をずっと見ていたいです。

2008.10.24［安曇野］

「絵本の歴史」、すばらしかった。他のどこでも見たことがありません。世界がひろがってすてきな企画です。一度では頭に入りきりません。後日、また訪れたいと思っています。

2008.12.4［東京］

今日は、建物見学が来館の一番の目的でした。この建物を見ている間、すごく穏やかな気持ちでした。自然・建築・ちひろさんの絵、ひとつひとつの関係性から生まれる時間を過ごせたからだと思います。絵や建築、いろいろなことで人が幸せな気持ちになれるものを創りだせることの素晴らしさを、改めて実感しました。来年から設計の仕事をします。この建物に負けないくらい、素敵な建築を設計したいと思います。

ちひろ美術館にご来館いただいた方々に、感想や思いを自由に綴っていただくノート「ひとことふたことみこと」。
開館以来、多くの来館者の声を集めてきたそれらのノートは、現在では、両館であわせて800冊以上。
合本・製本されて大切に保管されている「ひとことふたことみこと」から、抜粋してご紹介します。

2010.5.4 〔安曇野〕

武石で２泊し、東京に帰ることにしていましたが、母子の希望で美術館によることができました。何冊読んでも「もう少し見る」と次から次へと絵本を探ってくる長女、まねをして絵本を見つけてくる次女、館内の雰囲気に日常の慌ただしさから解放されている母と父、忙しい世の中において力となるのはやはり自然と、美しいものを感じる心なのだと実感しています。

2010.7.1 〔安曇野〕

ヨコノリスポーツマニアな彼が、美術館につきあってくれるなんて思わなかった。しかも、絵本を読むのに熱中してる。

2011.6.12 〔東京〕

3.11 東日本大震災で被災し、福島原発事故で放射能汚染の恐怖におびえ、心休まる日がありませんでした。でも昨日、姪の結婚式で上京し、久々に楽しい時間を過ごし、今日美術館で癒され、これからの生活に少しだけ勇気を持って行けそうな気持ちになりました。子どもは未来の宝です。放射能の健康被害は、数十年後の子どもたちの将来を脅かす、恐ろしい事象です。どうか一日も早く原発事故が収束し、以前のような平穏な生活が戻りますように。天国のちひろ先生、見守っていてください。

2011.11.26 〔東京〕

次男とふたりで来ました。ちひろさんのアトリエ、昭和40年代の匂いを感じさせる懐かしい情景でした。僕の周りにもこんな雰囲気の部屋、あったなあ。息子をほったらかしにして、一人感慨にふける父でした。

2013.3.1 〔安曇野〕

手から手へ展、作品と寄せられたメッセージに力強い叫びを感じました。本当に今、なんとかしなければ地球が壊れてしまう……そんな叫びとともに、誰かのことを抱きしめられる手のぬくもりも同時に伝わりました。私たちの手は壊すためではなく繋がるためにあるのだと。

2013.9.1 〔東京〕

入院の外泊に、人生２度目の来館。このまま美術館から病院へ戻ります。ひとりの闘病は辛くさびしいですが、ここを訪れて、少し心が軽くなった気がします。やさしい時間のながれるこの空間に連れてきてくれた母に、そして温かい心にしてくれたちひろさんに感謝します。
春から社会人になりますが、今日感じた気持ちを忘れずに生きていきたいです。

2014.3.14 〔東京〕

初めての来館ですが、繰り返し訪れる方の気持ちが分かりました。ぼーっと過ごせる場所なのですね。復元アトリエ横の i-pad で聴ける、夫善明さんのインタビューがたいへん良かった。サンドイッチが食べたくなります。昔の感想ノートが製本されていて、かつて来館した人のことばを眺めているのも、なんだかふしぎな気分になります。

2014.3.26 〔東京〕

楽しかったです。色の洪水です。よくわからなかったのに目に焼き付いている絵もあります。わかりやすいことが全てではないんですね。またパツォウスカーさんの絵に会いたいです。

2015.3.1 〔安曇野〕

白馬方面から、車を走らせて来館しました。途中、左手に電車にカバーがかかっているのを見つけ、「もしや、トットちゃんの電車では?」と、楽しみに入館しました。来年、また、３月１日に来ます。本物のトットちゃんに会えるかしら？ 下の娘が、この４月、小学校に入学します。元気だけど早生まれの小さい娘。“なじめなかったらどうしよう”“ついていけなかったらどうしよう”と考え込むたびに、昔読んだ「窓ぎわのトットちゃん」を思い出します。

2016.1.9 〔東京〕

多動で常動音声（しかも人間離れした）のある自閉症の子の親です。美術館など静けさを求められる場所にはあまり縁がありませんでしたが、とうとうその娘といっしょに来館することができました。また来たいです。

2016.8.12 〔安曇野〕

あそんだり、スイーツ食べてピクニック気分になれたりとても楽しかったです。広場も芝生だからころんでもいたくなくて、子どもが遊ぶにはとてもさいてきな場所でした。 電車の教室の近くの休憩所も、木の新しい香りで、とてもいごこちが良かったです。安曇野ちひろ公園サイコー!

いわさきちひろ絵本美術館

ちひろ美術館40年のあゆみ

1997年に開館した安曇野ちひろ美術館

40 years of Chihiro Art Museum

いわさきちひろが暮らした東京・練馬に誕生した「ちひろ美術館・東京」と、長野・安曇野に展開したもうひとつの拠点「安曇野ちひろ美術館」。絵本文化の発信地として活動を続けてきた40年の歩みを振り返ります。

1977年　いわさきちひろ絵本美術館（現ちひろ美術館・東京）開館当初のエントランス

1974

8月●いわさきちひろ、肝臓がんのため死去
10月●銀座「画廊はばたき」でちひろの遺作展を開催

1975

6月●いわさきちひろ記念事業団設立準備委員会発足
9月●没後1周年記念「いわさきちひろ愛と夢の原画展」を日本橋高島屋で開催（以後80年4月までに全国のデパートで72回の原画展を開催）

1976

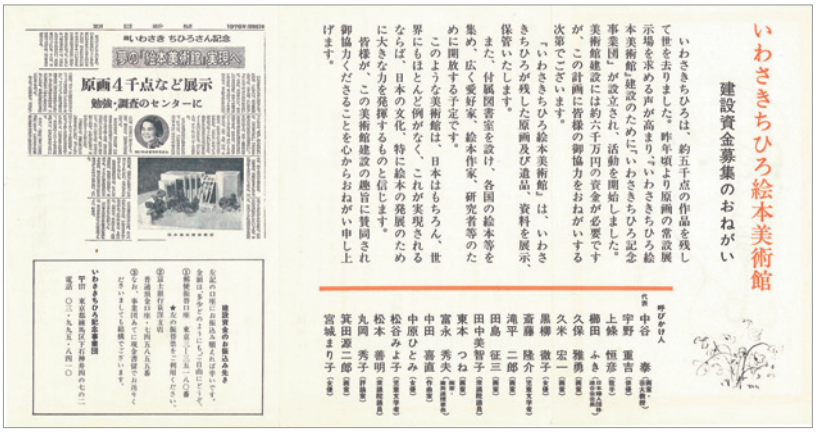
6月●**いわさきちひろ記念事業団設立**
（初代理事長・中谷泰）
10月●いわさきちひろ絵本美術館建設募金開始（9ヵ月間で賛同署名3万余名一般寄付1,200名より622万余円が寄せられる）
●平和の願いを伝える「いわさきちひろカレンダー」を原水爆禁止日本協議会と協力して制作開始（79年より現在の形となり、毎年30万～40万部普及）

いわさきちひろ絵本美術館開館式後のレセプション

1977

1月●いわさきちひろ絵本美術館着工（ちひろ美術館A棟／設計・早川洋）
9月●**いわさきちひろ絵本美術館開館**（初代館長・飯沢匡）
10月●「日曜美術館」で「私といわさきちひろ」放映（NHK教育テレビ／出演・黒柳徹子）
●いわさきちひろ絵本美術館開館記念コンサート開催（以後、ちひろ美術館コンサートを9年間で50回開催）
11月●いわさきちひろ記念事業団、財団法人として認可される

開館式で挨拶する飯沢匡館長



いわさきちひろ絵本美術館
建設資金募集のおねがい

いわさきちひろは、約五千点の作品を残して世を去りました。昨年頃より原画の常設展示場を求める声が高まり、「いわさきちひろ絵本美術館」建設のために、「いわさきちひろ記念事業団」が設立され、活動を開始しました。美術館建設には約六千万円の資金が必要ですが、この計画に皆様の御協力をおねがいする次第でございます。

『いわさきちひろ絵本美術館』は、いわさきちひろが残した原画及び遺品、資料を展示、保管いたします。

また、付属図書室を設け、各国の絵本等を集め、広く愛好家、絵本作家、研究者等のために開放する予定です。

このような美術館は、日本はもちろん、世界にもほとんど例がなく、これが実現されるならば、日本の文化、特に絵本の発展のために大きな力を発揮するものと信じます。

皆様が、この美術館建設の趣旨に賛同され御協力くださることを心からおねがい申し上げます。

呼びかけ人
代表 中谷 泰（初代理事長）
宇野 重吉（俳優）
上條 恒彦（歌手）
柳田 ふき（日本母親大会）
久保 雅勇（俳優）
久米 宏一（俳優）
黒柳 徹子（女優）
斎藤 隆介（元東京学芸大）
滝平 二郎（画家）
田島 征三（画家）
田中美智子（元国際婦人会）
東本 つね（元婦人会）
富永 秀夫（元婦人会）
中田 喜直（作曲家）
中原ひとみ（女優）
松谷みよ子（元東京学芸大）
松本 善明（衆議院議員）
丸岡 秀子（評論家）
箕田源二郎（画家）
宮城まり子（女優）

叫いわさき ちひろさん記念
夢の「絵本美術館」実現へ
原画4千点など展示
勉強・調査のセンターに

建設資金のお振込み先
①郵便振替口座 東京一二五一八八番
★左の口座に直接お振込み頂けますと、全額ほぼそのままにちひろ一百周にどうぞ。
②富士銀行荻窪支店
普通預金第口座 一七四八八八番
③ゆうちょ銀行荻窪三七四五八八番
★左の振替用紙をご利用ください。
いわさきちひろ記念事業団
〒167 東京都杉並区下井草四の七の二
電話 〇三一九九五一八四一〇

「いわさきちひろ絵本美術館建設資金募集のお願い」中面

1978

4月●**いわさきちひろ絵本美術館、登録博物館となる**
6月●「外国絵本を読む会」開催
（以後7回連続で毎週開催）
9月● 開館1周年記念特別展
「いわさきちひろとアンデルセン展」開催

1979

2月●**「窓ぎわのトットちゃん」雑誌連載開始**
（文・黒柳徹子／絵・いわさきちひろ／月刊誌「若い女性」79年2月号から80年12月号まで／講談社）
6月●第1回ちひろ美術館セミナー「いわさきちひろの世界」開催（以後5回連続で毎週開催）
7月●福井県立美術館にて「いわさきちひろ展−野の花の心」開催（公立美術館での最初のちひろの個展）
9月●開館2周年記念特別展「現代絵本画家展」開催

「ちひろ平和Ｔシャツ」ポスター

1981

1 月●第 1 期増築工事（B棟）着工
3 月●『窓ぎわのトットちゃん』刊行（講談社）
8 月●都市センターホールにて講演会「考えて見ませんか　へいわときょういく」開催（小山内美江子氏より「ちひろ平和Tシャツ」が提案される）

1982

4月●第2回国連軍縮総会に先立ち、核兵器廃絶と軍縮の実現を願って特別展「世界中の子どもみんなに平和としあわせを」を開催、来館者に反核署名を呼びかける（5万3,000余の署名が寄せられる）
11月●1983 年 4 月まで 6 回にわたり、平和について考える平和通信「ひとつぶの種」を発行

新館オープンに際し、復元アトリエの除幕をする飯沢匡館長（右）と松本善明副理事長

新築された新館（C棟）

1983

2 月●第2期増築工事（C 棟）着工
9月●**いわさきちひろ絵本美術館新館オープン**
●特別展「夢二からちひろへ―子どもの心を持ちつづけたイラストレーターの歴史」開催

1984

9 月●開館 7 周年記念特別展「子どもをみつめて―佐藤忠良・いわさきちひろ展」開催
●『いわさきちひろ全集』刊行開始（第 1 期 5 巻／ほるぷ出版／絶版）

「佐藤忠良・ちひろ展」に来館したロダン美術館館長（中央）と佐藤忠良氏

『いわさきちひろ全集』刊行に向けての色校作業

1985

4 月●核兵器廃絶を求めるヒロシマ・ナガサキからのアピールへの賛同署名を来館者に呼びかける（97年までに14万8,000名）
9 月●BIB（ブラティスラヴァ世界絵本原画展）での戦後 40 年記念シンポジウム「イラストレーションにおける子どもと平和について」にパネラーとして副館長・松本猛参加
●『いわさきちひろ全集』刊行開始（第 2 期 6 巻／ほるぷ出版／絶版）
●エリック・カール氏より作品「おんどり」の寄贈を受ける（世界の絵本画家コレクション第 1 号）

1986

3月●企画展「木にとまりたかった木のはなし」原画展開催
7月●子どもの本世界大会記念特別展「戦後絵本の歩み展」開催

1987

3月●大阪大丸ミュージアム梅田にて「いわさきちひろ展Ⅰ」開催（翌88年まで全国5美術館を巡回、32万人の入館者数を記録）
9月●開館10周年を迎える（8月末現在延べ入館者数約81万人）
12月●エントランス、前庭を増築

新しくなったエントランス

1988

1月●月刊誌「本」1月号より、ちひろの評伝「つば広の帽子をかぶって」連載開始（飯沢匡・黒柳徹子著／講談社、89年5月号まで）
「ババール原画の世界展」開催（初めての外国作品展覧会）
7月●特別展「輝く瞳をみつめて！一田沼武能・いわさきちひろ展」開催（ユニセフ共催／入館料の1割をユニセフに寄付）
9月●プレミ・カタロニア（バルセロナ世界絵本原画展）に国際審査員として副館長・松本猛参加（クヴィエタ・パツォウスカー氏がグランプリを受賞）

1989

2月●詩画集『あかちゃん』『おかあさん』（サトウハチロー著／講談社）、『つば広の帽子をかぶって』（飯沢匡・黒柳徹子著／講談社）、『18枚のポートレート』（俵万智・山田洋次他著／新日本出版社）刊行
4月●ちひろの絵を「毎日夫人」表紙に使用、現在に至る

1990

2月●特別展「色彩と空間の魔法使いーパツォウスカー展」開催
3月●山口県立美術館にて「いわさきちひろ展Ⅱ」開催（以後全国17美術館を巡回、65万人の入館者を記録）
9月●特別展「赤羽末吉遺作展」開催（翌年姫路市立美術館、ふくやま美術館にて開催）

新設した前庭での開館10周年記念レセプションにて。前列左より黒柳徹子、中原ひとみ氏、山田洋次

1991

4月●（財）いわさきちひろ記念事業団第2代理事長に箕田源二郎就任
●伊勢丹美術館にて「いわさきちひろ展Ⅲ」開催（3週間で10万人を越える入館者数を記録。91年、95年に6美術館を巡回、35万人の入館者を記録）
5月●アメリカ（5月）、ヨーロッパ（10月）を中心に10ヵ国を巡り、コレクションに努める。
11月●開館15周年記念特別企画として海外絵本画家シリーズを7回連続で開催（ちひろ美術館コレクションを中心に海外の作品を展示／93年1月まで）

1992

2月●北海道立近代美術館にて「いわさきちひろと絵本の世界展」開催（ちひろの作品とともにちひろ美術館コレクションの中から30点余を公開）

キューバ大使から作品寄贈を受ける。左より松本猛、箕田源二郎理事長、松本由理子（1992年）

1993

3 月●長野県北安曇郡松川村に新ちひろ美術館建設決定
9 月●安曇野ちひろ美術館（仮称）設計を内藤廣に依頼

新美術館の基本構想を発表した記者会見

1994

2 月●ちひろ展 100 回記念「ちひろの花ことば」展開催
日本テレビ「知ってるつもり?! いわさきちひろ」放映
7 月●「ちひろ・再発見の集い」を東京會舘で開催（安曇野ちひろ美術館建設計画を発表。あわせて全国の書店でちひろのブックフェア開催）

安曇野ちひろ美術館の上棟式の際の餅まき

1995

2 月●第 2 代館長に黒柳徹子就任
4 月●「パツォウスカー展Ⅱ」を大丸ミュージアム梅田、伊勢丹美術館他 3 会場にて開催
5 月●安曇野ちひろ美術館着工

安曇野館予定地視察へ向かう車内にて。左から内藤廣、松本由理子、高橋明也、面出薫

1996

11 月●ノーマン・ロックウェル美術館（アメリカ）にてちひろ展開催（海外の美術館での最初のちひろ展）

安曇野ちひろ美術館竣工式。松本猛館長と黒柳徹子名誉館長

1997

3 月●画集『ちひろ美術館』（全12巻+別巻／講談社）刊行開始
4 月●**安曇野ちひろ美術館開館**（初代館長・松本猛）
●ロゴマークとロゴタイプ作成（デザイン・佐藤卓）、いわさきちひろ絵本美術館（東京）の呼称を「ちひろ美術館・東京」に変更
6 月●「新日曜美術館」（NHK 教育テレビ）で「安曇野ちひろ美術館への旅」（出演・高田宏、俵万智、山田洋次）
9 月●**ちひろ美術館・東京、開館20周年**
（8月末現在延べ入館者数 175万人）
12 月●安曇野ちひろ美術館、登録博物館となる

安曇野ちひろ美術館
第 1 展示室より中庭を望む

安曇野ちひろ美術館、開館のセレモニー。右より小川世史子、岩崎準子（ちひろの妹たち）

開館から4ヵ月で、安曇野ちひろ美術館の入館者は20万人を超えた

1998

2月●安曇野アートライン構想発表
3月●絵本画家、故・赤羽末吉の全遺作約6,800点が遺族より寄贈される

寄贈式。左より松本猛、箕田源二郎、黒柳徹子、赤羽研三氏

1999

4月●ちひろ美術館公式ホームページ開設
7月●ちひろの黒姫山荘の一般公開始まる（長野県上水内郡信濃町の黒姫童話館の南側の森に移築）
●朝日新聞（ASA）額絵シリーズ「ちひろと世界の仲間たち」スタート（翌年「ちひろと世界の仲間たちⅡ」）
12月●福井県武生市（現・越前市）天王町に「いわさきちひろ生誕の地」記念碑建立

2000

2月●（財）いわさきちひろ記念事業団第3代理事長に山田洋次就任
6月●公共広告機構、子ども読書年キャンペーンにちひろの線画が採用される

第7回友の会交流会 小西正保、池田春子対談（2000年12月）

安曇野ちひろ美術館新館のオープニング・セレモニー。松川中学校生徒によるユゼフ・ヴィルコン作「歌うドラゴン」の演奏

2001

1月●ちひろ美術館・東京、工事のため一時閉館。（2000年12月までの延べ入館者数約195万人）
3月●**安曇野ちひろ美術館新館**（現・世界の絵本館）**オープン**　記念特別展Ⅰ「ナンセンス絵本の王様　長新太の世界」開催
9月●新ちひろ美術館・東京着工（設計・内藤廣）

2002

1月●ちひろ美術館コレクション「いわさきちひろと日本の絵本画家たち」展を伊勢丹美術館で開催（他2館へ巡回）
4月●安曇野館にて松川村保健センターと連携した「あかちゃんと絵本の出会い」活動開始
7月●**安曇野館にて中学生ボランティアスタート**　夏休み期間中開催の展示に関連し、松川中学校の生徒による作品解説や実演を行う。その後毎年夏休み恒例の取り組みとなる
●安曇野館にて「アートラインサマースクール」開校（安曇野アートライン推進協議会と松川村、武蔵野美術大学との共催。以後2012年まで毎夏開催）
9月●**開館25周年を記念して、新ちひろ美術館・東京オープン**
開館記念展「時をこえる視点　いわさきちひろ・山本正道」開催
●東京館にて、館長・黒柳徹子講演会「世界の子どもたちは、今」開催（その後、2003、2004、2007、2011年に開催）

新ちひろ美術館・東京のオープニング・セレモニー

新・東京館に再現された「ちひろの庭」

新・東京館外観

2003

3月●アメリカによるイラク攻撃に抗議して、ちひろの「NO WAR」ステッカー（デザイン・福田繁雄）を配布開始（2ヵ月で受け付けた申し込み枚数は約15万枚）

5月●東京館にて「山田洋次セレクション・シネマ倶楽部」第1期スタート（以後2006年の第5期まで開催）

11月●いわさきちひろ作品の代表作のデジタル・アーカイブをスタート（2017年2月現在で約460点）

デジタル・アーカイブの一貫としてのピエゾグラフを制作（協力：セイコーエプソン／写真は2014年）

2004

3月●NHK「新日曜美術館　いわさきちひろ　戦場の少女を見つめて」放映

●NHKBS-hi「ちひろが残してくれたもの～いわさきちひろ没後30年」放映

5月●**中国での初めてのいわさきちひろピエゾグラフ展を開催**（中国・大連市の遼寧師範大学芸術学院美術系美術館にて）

6月●18ヵ国語で「平和」ということばが入った「ちひろ平和Tシャツ」を制作（デザイン・福田繁雄）

8月●長野県松本市にある城山公園に、ちひろ記念碑「ちひろの椅子」完成

9月●『ちひろBOX』（ちひろ美術館編／講談社）刊行

●東京・安曇野両館にて、全国の方々から寄せられた4,000余通のリクエストをもとに、「いわさきちひろ没後30年　わたしが選んだちひろ展」開催

●東京館、平成16年度第45回BCS賞（日本建築業協会賞）を受賞

10月●BS-i「私の美術館　ちひろ美術館～愛を絵筆にたくして～」放映（その後、DVD化）

11月●ちひろの出生地である福井県武生市（現・越前市）に、「ちひろの生まれた家」記念館オープン

ちひろ没後30年記念黒柳徹子講演会（於・イイノホール）

松本市城山公園のちひろ記念碑「ちひろの椅子」

2005

5月●安曇野館にて「出前授業」「出前講座」スタート

長野県立こども病院（安曇野市）での水彩技法ワークショップの様子（写真は2014年）

7月●**高校生以下の入館料を無料に**（東京・安曇野両館）

9月●韓国にて、ちひろ美術館の絵本の歴史資料と、いわさきちひろのピエゾグラフを展示する（パジュ市子どもの本フェスティバルにて）

11月●ベトナムで初めてのいわさきちひろピエゾグラフ展を開催（ベトナム女性博物館［ハノイ市］とベトナム南部女性博物館［ホーチミン市］にて）

12月●東京館の全館バリアフリーの取り組みが、第29回練馬区障害者福祉大会にて表彰される

ベトナム女性同盟、ちひろ美術館・東京に来館（2006年4月）

2006

5月●東京館にて「ありがとう！チョーさん長新太展ナノヨ」開催（刈谷市美術館他3館に巡回）

6月●長野県立こども病院でいわさきちひろのピエゾグラフ展スタート

7月●『ちひろの絵のひみつ』（ちひろ美術館・編／講談社）、『井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法』（井上ひさし・文／講談社）刊行

●共同通信の配信記事「ちひろの画法体験して」が全国各紙に掲載

12月●ベトナムホーチミン市でいわさきちひろピエゾグラフ展を開催（戦争証跡博物館他1館にて）

2007

3月●**ちひろ美術館・東京が開館30周年、安曇野ちひろ美術館が開館10周年を迎える**
両館で記念展を1年間にわたってそれぞれ開催
●別冊太陽『いわさきちひろ』（平凡社）刊行
●（財）いわさきちひろ記念事業団の主務官庁が東京都教育委員会から文部科学省に移管される
●開館30周年・10周年の特別企画として「年間パスポート」発行（以後、毎年継続）
4月●東京館での「えほんのじかん」が通算100回目を迎える（協力：ねりま子どもと本ネットワーク）
●安曇野ちひろ美術館、開館10周年を迎える（3月末現在延べ入館者数228万人）

安曇野館の開館10周年式典

安曇野館の開館10周年を記念した感謝デーでの響岳太鼓の演奏

8月●安曇野ちひろ美術館にて「夕暮れミュージアム」をスタート（以来、毎年開催）
9月●ちひろ美術館・東京、開館30周年を迎える（8月末現在延べ入館者数225万人／以来、年1度の入館無料デーを設置）

夜21時まで開館する安曇野館の「夕暮れミュージアム」

2008

7月●東京女子医科大学病院でいわさきちひろのピエゾグラフ展示スタート（安曇野の長野県立こども病院に次いで、東京の病院施設での初めてのピエゾグラフ展示）
10月●ちひろのベトナム語版絵本『戦火のなかの子どもたち』『母さんはおるす』のチャリティ出版
●東京・安曇野の両館にて、生誕100年記念「夢と記憶の画家　茂田井武展」を開催
11月●ちひろ縁の方々の証言を映像で記録するための撮影をスタート（足かけ3年にわたり、全国の50人近い方々に取材を行う／監督：海南友子）

病院内でのピエゾグラフ展を開催（写真は長野県立こども病院／2006年）

2009

2月●安曇野ちひろ美術館にて、新収蔵棟の増築、展示室と事務室の改修工事、授乳室新設
6月●安曇野館にて、韓国の絵本画家グループを受入れ、研修を実施（以来、ほぼ毎年開催し、交流を深める）
7月●絵本画家、故・茂田井武の遺作（約770点）が遺族より寄贈される

2010

1月●ちひろカレンダーの大判が全国カレンダー展の中小企業団体中央会会長賞、卓上版が日本印刷産業連合会会長賞を受賞
5月●東京・安曇野両館にて「生誕100年記念・赤羽末吉展 ── 絵本は舞台だ！──」を開催
●NYで開催される国連核不拡散条約再検討会議を前に、各国から平和を願う人々が集うパレードに参加
7月●台湾で初めてのいわさきちひろピエゾグラフ展を開催（国立台湾図書館［台北］にて）
10月●安曇野館での特別展にあわせ、国の重要文化財《銅造菩薩半跏像》（松川村・観松院蔵）を展示

松川村に、ちひろのスケッチポイントを示す看板が設置される（2010年11月）

2011

3 月●東京・安曇野両館にて、『窓ぎわのトットちゃん』の 30 周年を記念した展覧会を開催
●3.11 東日本大震災。黒柳徹子からの緊急メッセージ「東日本大震災に寄せて」を HP で発表
5 月●東京・安曇野両館の近隣に避難を余儀なくされた東日本大震災の被災者に優待券を発送（罹災証明持参で入館料を無料に）
6 月●安曇野ちひろ美術館第 2 代館長に黒柳徹子が就任
7 月●長野県松本市で行われる国連軍縮会議にあわせ、松本市美術館で開催された平和祈念特別展に参加
8 月●人が初めて訪れる美術館でありたいというちひろ美術館の活動コンセプトを「ファーストミュージアム」ということばで新たに発信

2012

1 月●（財）いわさきちひろ記念事業団／ちひろ美術館（東京・安曇野）の「支援会員制度」スタート
3 月●ちひろ美術館友の会が 35 年の歴史に幕を下ろす
6 月●「芸術新潮」7 月号にて、「特集いわさきちひろ」が組まれる

映画「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」公開に先駆けて開かれた記者会見。左より松本猛、松本善明、黒柳徹子、中原ひとみ氏、海南友子氏

7 月●初のドキュメンタリー映画「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」が公開。あわせて全国 108ヵ所の書店でブックフェアを開催
8 月●ちひろ NO NUKES ステッカーを配信

ちひろ NO NUKES ステッカー

2013

2 月●ドキュメンタリー映画の自主上映会がスタート
4 月●公益認定を受け、公益財団法人いわさきちひろ記念事業団として、新制度に移行
●日本郵便発行の特殊切手「季節のおもいでシリーズ 第 2 集」にいわさきちひろの作品が採用される
8 月●東京館に続き、安曇野館にて博学連携の一環として「教員内見会」をスタート
10 月●「特定秘密保護法」の廃止を希望する平和のステッカーを配信
●芸術作品をオンラインで鑑賞できるGoogleアートプロジェクトにちひろ美術館が参加
11 月●朝日新聞「be」ランキングにて、「好きな日本の絵本作家」第 1 位にいわさきちひろが選ばれる

子どもの発達をやさしく促しながら、音とことばへの感性を育ててくれる東京館での「わらべうたあそび」（2013 年）

映画のチラシ

2014

3月●東京・安曇野両館にて、年間を通してちひろの没後40年記念展を開催

●安曇野館にて、ちひろの作品と記念撮影ができる「撮影スポット」を新設

5月●『窓ぎわのトットちゃん』朗読と対談の集いを、講談社講堂にて開催。同日、松川村・安曇野ちひろ公園「トットちゃん広場」の記者発表が行われる

撮影スポットでジャンプする佐藤卓（写真は2015年）

「トットちゃん広場」の記者発表。左より、松川村村長・平林明人氏、山田洋次、黒柳徹子、内藤廣

7月●東京・安曇野両館で、公式Facebookスタート

●絵本『窓ぎわのトットちゃん』1･2巻セット（文・黒柳徹子 / 絵・いわさきちひろ / 講談社）刊行

8月●（財）日本青年団にて、ちひろが戦中、「女子青年団だより」のために描いたと思われる作品が見つかる

●安曇野館にて、朝8時から開館する「朝のミュージアム」スタート（以来、毎年開催）

10月●安曇野ちひろ公園・トットちゃん広場予定地へ電車2両が移設される

●安曇野ちひろ公園･トットちゃん広場のFacebookページを開設

12月●『まるごとちひろ美術館』（監修･高橋明也［三菱一号館美術館館長］／編集・ちひろ美術館／東京美術）刊行

安曇野館の「あかちゃんと絵本の出会い」活動

2015

1月●日本小児科学会の「子どもの総合医」広報ポスターに、ちひろの「母の日」が採用される

●東京・安曇野両館にて、「戦後70年特別企画」展を開催

4月●トットちゃん広場オープンにむけ「トットちゃん広場検定」をスタート

5月●安曇野ちひろ美術館にてInstagramをスタート

8月●『井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法』（講談社）の電子書籍の配信スタート

●NHK「日曜美術館アートの旅　みつけよう、美　夏編」にて東京・安曇野両館が紹介される

12月●いわさきちひろ生誕100年となる2018年に向けたプロジェクトが始動

●Googleのホリデーロゴ Doodleに、ちひろの生誕97周年を記念したデザインが採用される

ちひろの絵を使ったDoodle

安曇野館では、早朝に電車を迎えるお泊り会を開催

安曇野館の子どもの展示室（トットちゃんの部屋）

日本郵便発行の特殊切手「童画のノスタルジーシリーズ」第２集（2016）

2016

３月●安曇野ちひろ美術館に、子どもの展示室（トットちゃんの部屋）新設

●安曇野館にて、無線 LAN サービス（Free Wi-Fi）開始

●安曇野館にて、近隣市町村別に入館無料デーを設定

４月●国立成育医療研究センター、子どもホスピス「もみじの家」にピエゾグラフ作品を展示

５月●東京館にて企画展「村上春樹とイラストレーター」開催

７月●**安曇野ちひろ公園に「トットちゃん広場」がオープン**

松川村が公園の北側を拡充整備し、子どもたちが「食」「農」「いのち」について学べる場所に。トットちゃん広場には、『窓ぎわのトットちゃん』に登場するトモエ学園の講堂や電車の教室が再現

電車の教室からチンドン屋さんを呼ぶ黒柳徹子

ちひろ生誕 100 年ポスター案

2017

ちひろ美術館・東京開館 40 周年、安曇野ちひろ美術館開館 20 周年

３月●安曇野館にて、企画展「高畑勲がつくるちひろ展　ようこそ！ちひろの絵のなかへ」「奈良美智がつくる　茂田井武展　夢の旅人」開催（５月に東京館でも開催予定）

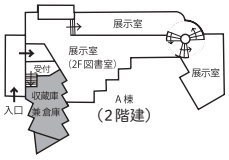
2018

いわさきちひろの生誕 100 年

ちひろ美術館 建物の変遷

ちひろ美術館・東京

1977～



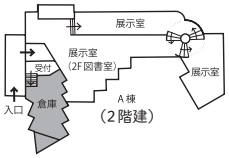
1977 年　開館当時の入口

1977年1月、いわさきちひろの自宅の一角にいわさきちひろ絵本美術館（A 棟）着工（設計・早川 洋）。9 月にいわさきちひろ絵本美術館が開館。2 階建ての建物で、1 階に展示室と受付、2 階に図書室があった。

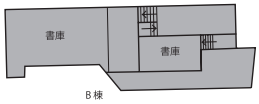
1977 年　開館当時の外観

1977 年　展示室

1981～



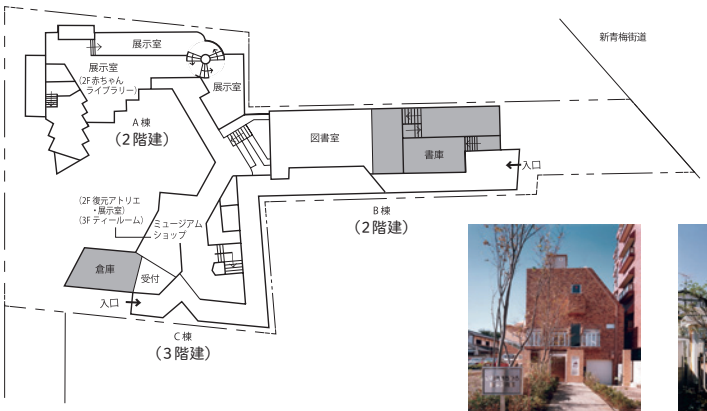
1981年1月、第1期増築工事（B 棟）着工。別棟として収蔵庫と書庫ができる。バックヤードの拡張であったため、公にはしていなかった。



1981 年　B 棟外観

1981 年　B 棟 2 階の収蔵庫

1983～



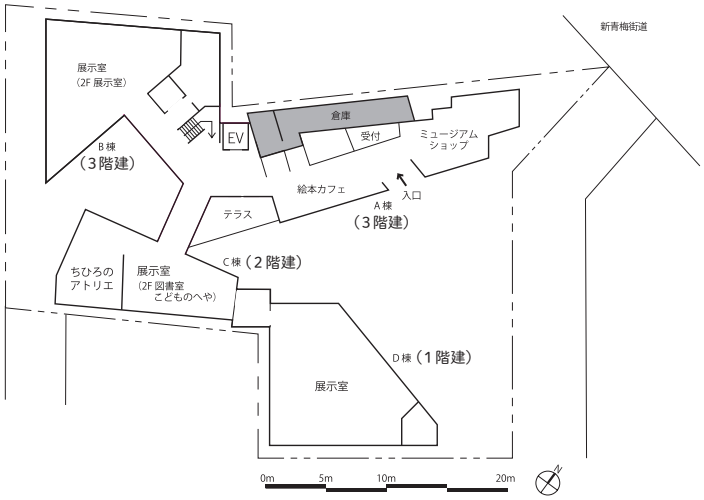
1983年2月、第2期増築工事（C 棟）着工。9月、新館オープン。非公開であった B 棟もつなぎ、3つの棟からなる大きな建物となった。A 棟1階には2つの展示室。2階には赤ちゃんライブラリー、B 棟の半地下になった1階には図書室、2 階には収蔵庫、新しくつくられた C 棟には 1 階に受付とミュージアムショップ、2 階にちひろの復元アトリエと展示室、3 階にティールームがつくられた。1987 年には、エントランスと前庭も増築。

1983年
新青梅街道側入口

1987年　新エントランス

1987年　前庭

2002～



2001年1月、リニューアル工事のために一時閉館。
9月に新ちひろ美術館・東京着工（設計：内藤 廣）
2002 年9月、開館25周年を記念して、新ちひろ美術館・東京が開館。以前の建物の迷路のような雰囲気を引き継ぎ、4 つの棟をつないだ構成の建物となる。（敷地面積 1,154.51㎡／建築面積 551.04㎡）

2002 年　リニューアル後の外観

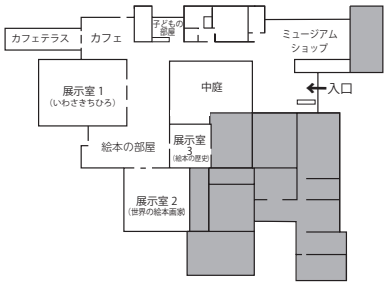
2002 年　中庭

安曇野ちひろ美術館

開館当初の安曇野館

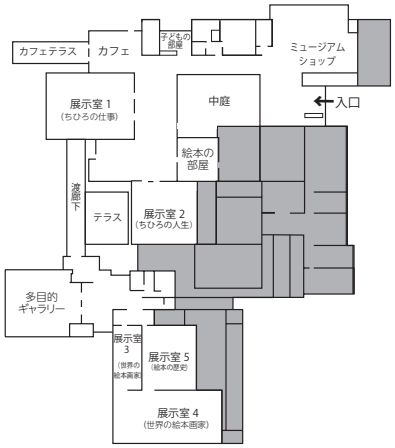
1993 年夏に行われたプロポーザルコンペで内藤廣が安曇野ちひろ美術館の設計を手がけることが決まった。村営の安曇野ちひろ公園（36,500㎡）の設計も同時に進められ、環境と建物の一体化が計られた。1997 年 4 月、外観の大きさがもっとも抑えられる切妻の連続屋根を用いた美術館が完成した。建物の中心には中庭が据えられ、それを囲んでちひろと世界の絵本画家の展示室や、図書室、ミュージアムショップや絵本カフェなどのスペースが配置された。

1997～



ちひろの作品を展示する展示室1

2001～



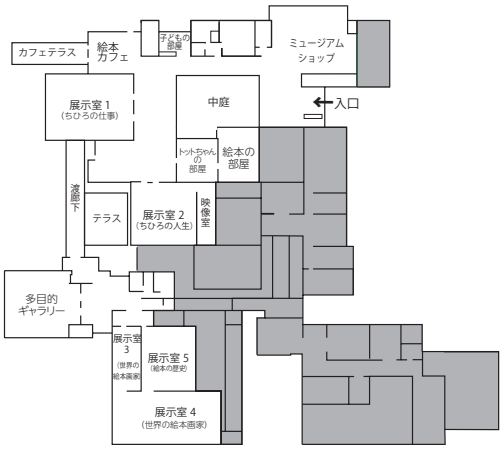
絵本の歴史の展示室 5

予想を上回る来館者を迎え、2001 年には新館を増築し、展示室が拡充された。本館には「ちひろの仕事」「ちひろの人生」、新館には「世界の絵本画家」「絵本の歴史」の展示室と「多目的ギャラリー」がつくられ、活動の幅が広がった。

来館者のためのくつろぎスペース

自由に絵本を楽しめる絵本の部屋

2009～



2009 年、収蔵作品数が充実していくなかで、収蔵庫と資料研究室等のある新収蔵棟を増築。これにより、当初 1,580㎡だった建物が、3,200㎡に広がった。

2016～

トットちゃん広場に再現された「電車の教室」

2016年につくられた子どもの展示室（トットちゃんの部屋）

2016年に開設された映像室

2016 年 7 月、安曇野ちひろ公園（松川村村営）北側エリアが拡充され、「食」「農」「いのち」を体験的に学べる53,500㎡の公園となる。新しいエリアには体験農園や『窓ぎわのトットちゃん』の世界を再現した「トットちゃん広場」が誕生した。

展示・企画展 40年のあゆみ

いわさきちひろが暮らした東京・練馬に誕生した「ちひろ美術館・東京」と、
長野・安曇野に展開したもうひとつの拠点「安曇野ちひろ美術館」。
両館で、いわさきちひろ展、世界の絵本画家コレクション展、企画展、
そして絵本の歴史展示に精力的に取り組んでいます。

40 years of Exhibitions

ちひろ美術館・東京 1977-1996

1977

● 9月11日—10月31日
開館記念 ちひろ代表作展Ⅰ
『あかちゃんのくるひ』『戦火のなかの子どもたち』他

● 11月3日—12月20日
開館記念 ちひろ代表作展Ⅱ
『ゆきのひのたんじょうび』『ゆきごんのおくりもの』他

1978

● 1月6日—2月27日
開館記念 ちひろ代表作展Ⅲ
『おにたのぼうし』『つるのおんがえし』他

● 3月2日—4月10日
開館記念 ちひろ代表作展Ⅳ
『ことりのくるひ』『母さんはおるす』他

● 4月13日—5月29日
光と風の中で…『あかまんまとうげ』『たけくらべ』他

● 6月1日—7月31日
あじさい色の世界
—『あめのひのおるすばん』『ふたりのぶとうかい』—
同時展示 ヨーロッパのスケッチ

● 8月3日—9月11日
夏の日ざしの中で…
『ぽちのきたうみ』『わたしがちいさかったときに』他

● 9月14日—10月30日
《開館1周年記念特別展》
いわさきちひろとアンデルセン展

ちひろが繰り返し描いたアンデルセンをテーマとした展覧会。最初にパンフレットを制作したのがこの展覧会だった

● 11月2日—12月18日
ちひろの描いた日本の心—『ひさの星』『赤い蝋燭と人魚』—
同時展示 日本のスケッチ

1979

● 1月5日—2月26日
パステル画の世界
—1970年のちひろの世界を訪ねて—

● 3月1日—4月15日
『戦火のなかの子どもたち』『あかいふうせん』展

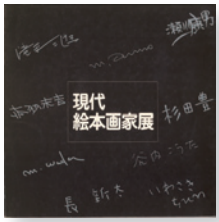
● 4月17日—5月31日
ちひろの描いたあかちゃん展

● 6月1日—7月15日
ちひろの描いた『青い鳥』『アルプスの少女ハイジ』展

● 7月17日—8月12日
ちひろの描いた夏の子どもたち展

● 8月14日—9月9日
ちひろの描いた「子どものしあわせ」表紙絵展

● 9月11日—10月7日
《開館2周年記念特別展》
現代絵本画家展 前期



現代の日本の絵本を代表する8名の画家—赤羽末吉、安野光雅、瀬川康男、滝平二郎、杉田豊、谷内こうた、長新太、和田誠の作品をちひろ作品とともに紹介。初の企画展となる

● 10月9日—11月4日
《開館2周年記念特別展》現代絵本画家展 後期

● 11月6日—12月26日
ちひろの描いた枯葉色の世界

1980

● 1月4日—2月17日
ちひろの描いた冬の子どもたち

● 2月19日—3月30日
ちひろの描いた花と子どもたち

● 4月1日—5月18日
ちひろの描いた子ども百態

● 5月20日―6月29日
ちひろの旅の記録PARTⅠ―ソビエトの旅―
同時展示 雨の日の子どもたち

● 7月1日―8月3日
マリン・カラー　透明な世界へ
『ぽちのきたうみ』『人魚姫』展

● 8月5日―9月21日
《開館3周年記念特別展》
ちひろ平和への願い
―つぶらな瞳　ちいさな手

はじめてちひろの平和への願いをテーマにした展覧会。以後、ちひろ美術館では繰り返し平和をテーマにしたちひろ展に取り組んでいる

● 9月23日―11月9日
秋の風『あかいふうせん』展

● 11月11日―1月11日
自然をみる心―小谷スケッチと絵本『りゅうのめのなみだ』
山辺・黒姫スケッチと絵本『万葉のうた』

1981

● 1月13日―3月1日
油彩・デッサン・ポスター展

● 3月3日―4月19日
花のささやき　春の風

● 4月21日―5月31日
ちひろの描いた妖精たち

● 6月2日―7月19日
絵本『ひさの星』『たけくらべ』展

● 7月21日―9月20日
《特別展》き・こ・え・る・で・し・よ・う…
ささやくひとみ　ちひろの心

● 9月22日―11月8日
絵本『あかいくつ』『はくちょうのみずうみ』展

● 11月10日―12月26日
白い冬にさいた3つの愛の花
―『愛かぎりなく』『雪の女王』
『ゆきのひのたんじょうび』―

1982

● 1月5日―2月21日
絵本『つるのおんがえし』『うらしまたろう』展

● 2月23日―4月18日
ちひろの描いたあかちゃん絵本 ―『おふろでちゃぷちゃぷ』
『もしもしおでんわ』『あかちゃんのうた』―

● 4月20日―6月20日
《特別展》世界中のこども　みんなに
平和としあわせを

ちひろの願いを象徴することば「世界中のこども　みんなに　平和としあわせを」に賛同する手塚治虫、みつはしちかこ、福田繁雄、佐藤忠良ら15人の作品とともにちひろの作品を展示

● 6月22日―7月25日
雨の日の詩

● 7月27日―9月12日
夏の日の想い出

● 9月14日―10月31日
秋の光と風の中で

● 11月2日―12月26日
ちひろの描いた3つのアンデルセン
―ファンタジーの部屋・『絵のない絵本』・石畳の街―

1983

● 1月4日―2月20日
雪の詩

● 2月22日―4月10日
萌黄色の世界

● 4月12日―5月29日
なつかしの絵本展

● 5月31日―7月17日
絵本『あめのひのおるすばん』展
同時展示『こどものせかい』表紙絵他

● 7月19日―8月31日
絵本『わたしがちいさかったときに』展
同時展示 絵本『にんぎょひめ』他

● 9月15日―11月27日
《新館オープン記念特別展》
夢二からちひろへ ―こどもの心を持ちつづけた
イラストレーターの歴史―

初代館長・飯沢匡が企画し、大正から昭和にかけて絵雑誌「子供之友」で活躍した竹久夢二、武井武雄、初山滋、村山知義ら童画家たちの作品を紹介

● 12月1日―1月29日
■ちひろの描いた　子ども百態展
同時展示 ■『わたしのえほん』他

1984

● 2月5日―3月25日
■絵本『青い鳥』『にじのみずうみ』展
同時展示 ■ヨーロッパスケッチ

● 3月27日―5月20日
■ちひろの描いたあかちゃん展
同時展示 ■初期素描・スケッチⅠ

● 5月23日―7月8日
■絵本『たけくらべ』『ひさの星』展
同時展示 ■初期素描・スケッチⅡ

● 7月11日―9月2日
■《没後10年記念特別展》
いわさきちひろの歩み展

● 9月8日―11月28日
■《開館7周年記念特別展》
こどもをみつめて―佐藤忠良・いわさきちひろ展

同時代に生き、彫刻と絵画という異なる表現ながら、子どもをテーマとした作品を生み出したふたりの作家の作品を紹介

● 12月1日―1月27日
■絵本『しらゆきひめ』『白鳥の湖』展
同時展示 ■初期素描・スケッチⅢ

1985

● 2月3日―3月31日
■絵本『おやゆびひめ』『ふたりのぶとうかい』展
同時展示 ■初期素描・スケッチⅣ

● 4月2日―6月2日
■ことりのさえずり　春の花展
同時展示 ■初期素描・スケッチⅤ

● 6月8日―7月28日
■絵本『にんぎょひめ』『りこうなおきさき』展
同時展示 ■初期素描・スケッチⅥ

● 8月1日―10月13日
■《戦後40年特別展》
いわさきちひろ　愛と平和の世界　ピカソ
―平和のためのポスター・リトグラフ

● 10月16日―12月1日
■いわさきちひろパステル画の世界
同時展示 ■初期素描・スケッチⅦ

● 12月4日―1月26日
■絵本『赤い蝋燭と人魚』展
同時展示 ■初期素描・スケッチⅧ

1986

● 2月1日―3月16日
■信州といわさきちひろ展

● 3月19日―5月18日
■ちひろの描いた教科書展
■「木にとまりたかった木のはなし」原画展

武井武雄の絵、黒柳徹子の文による絵本の原画の展覧会

● 5月21日―7月20日
■立原えりかとちひろの世界展

● 7月23日―9月15日
■《特別展》子どもの本世界大会記念
戦後絵本の歩み展
―絵本表現の可能性を求めて―前期

子どもの本世界大会（IBBY）の日本での開催にあわせて企画された展覧会。茂田井武、初山滋、赤羽末吉ら45人の画家たちの作品を紹介した

● 9月18日―11月9日
■《特別展》子どもの本世界大会記念
戦後絵本の歩み展
―絵本表現の可能性を求めて―後期

● 11月12日―1月18日
■浜田廣介とちひろの世界展
同時展示 ■宮崎学写真展−伊那谷の動物たち

1987

● 2月1日―4月5日
■松谷みよ子と2人の画家
―瀬川康男といわさきちひろ展

● 4月8日―6月7日
■《開館10周年記念特別展》
いわさきちひろ展Ⅰ子供を描いた画家ちひろ

● 6月9日―8月9日
■《開館10周年記念特別展》
いわさきちひろ展Ⅱちひろの心をたずねて

● 8月11日―9月27日
■《開館10周年記念特別展》
いわさきちひろ展Ⅲちひろの描いた童話の世界

● 10月1日―11月23日
■子ども、その美しい瞬間をみつめて
―与勇輝といわさきちひろ展

● 11月26日―12月26日
■ちひろの描いた女性像
―小説のヒロインから母親像まで
■冬の子ども

1988

● 1月5日―1月17日
■ババール原画の世界

フランスの絵本作家ブリュノフ親子によるババールの原画を展示した、ちひろ美術館では初めての外国作家の展覧会

■冬の子ども

● 2月10日―4月10日
■ちひろの描いた花と子ども
■絵本『にじのみずうみ』展

● 4月13日―6月26日
■まぼろしの『窓ぎわのトットちゃん』原画展

1979年から2年間月刊誌「若い女性」に連載された「窓ぎわのトットちゃん」に掲載するために、黒柳徹子が選んだちひろの原画を展示した

■ガラスの魔術・ペーパーウェイト
―黒柳徹子コレクション―

● 7月1日―9月11日
■《特別展》輝く瞳をみつめて！
―田沼武能・いわさきちひろ展

● 9月15日―11月13日
■ちひろの秋
■「ブーフーウー」の源流
―飯沢匡 世界のぶたコレクション

● 11月17日―1月22日
■《特別展》幻想へのいざない……
ビネッテ・シュレーダー展

ドイツの絵本画家ビネッテ・シュレーダーの国外で初となる大規模な展覧会を開催した

■ちひろの絵本展

1989

● 2月2日—4月16日
■『風になる』出版記念展
俵万智とちひろの世界
■ちひろの部屋

● 4月20日—7月2日
■ちひろの描いたあかちゃん展
■島添昭義・見たて遊びの世界

● 7月6日—9月10日
■《いわさきちひろ評伝
『つば広の帽子をかぶって』出版記念特別展》
ちひろのみつめた世界

● 9月14日—11月26日
■ちひろの筆—和仮名から水彩へ—

● 11月30日—1月21日
■ちひろが奏でる　色と音のハーモニー
■絵本の宝石箱　武井武雄・造本芸術の粋

1990

● 2月1日—4月15日
■《特別展》色彩と空間の魔法使い
パツォウスカー展

チェコ（当時はチェコ・スロバキア）のクヴィエタ・パツォウスカーを最初に日本で紹介した展覧会。以後繰り返しパツォウスカー展に取り組んでいる

■ちひろの描いた花の精

● 4月19日—6月24日
■ちひろの雨の色—水に映る色彩とその表現
■ ORIGAMIC MAGICAL ZONE
茶谷正洋・中沢圭子折り紙建築の世界

● 6月28日—9月2日
■《特別展》アートする絵本たち
1980年代の日本の絵本展

絵本の動向と社会状況を概観し、時代を映した絵本表現を紹介する展覧会として1980年代を代表する絵本画家たちを紹介。以降、1990年代、2000年代と、10年ごとに継続して取り組む

■ちひろの絵本代表作展

● 9月6日—11月11日
■《特別展》赤羽末吉遺作展

赤羽末吉の生前に企画されたが、1990年に画家が亡くなり、遺作展となった展覧会。この展覧会の取り組みをきっかけに1998年、全遺作が遺族より寄贈された

■ちひろの窓・構図の魅力

● 11月15日—1月20日
■帰一没後60年　岡本帰一とちひろ展

1991

● 2月10日—4月7日
■ちひろの庭・・・季節を彩る草花
■大沢節子・押し花の世界

● 4月11日—6月30日
■ちひろの詩—少女はちひろの自画像だった

● 7月4日—9月1日
■ちひろ・夏の子どもたち—輝く光のなかで
■移ろう風を形にして—中野滋彫刻展

● 9月5日—11月24日
■絵本とスケッチで織りなす　ちひろ・欧州の香り
■色彩の美・文字の美・意匠の美　芹沢銈介・絵本の世界

● 11月28日—1月19日
■ちひろ・冬の子どもたち
■マッチ売りの少女原画展
■ 開館15周年記念・世界の絵本画家シリーズ①
E.マルチネスの不思議な動物たち

1992

● 2月11日—4月19日
■絵本にみる　ちひろ・日本の叙情
■開館15周年記念・世界の絵本画家シリーズ②
オルセンの描いたアンデルセン展

● 4月23日—6月28日
■いわさきちひろ代表作展Ⅰ
ちひろ・子どもの情景
■開館15周年記念・世界の絵本画家シリーズ③
絵本『てぶくろ』の画家 E.M.ラチョフ展

● 7月2日—9月6日
■いわさきちひろ代表作展Ⅱ
未来に生きる人たちへ

■開館15周年記念・世界の絵本画家シリーズ④
子どもの本のアメリカンイラストレーション

開館 15 周年特別企画として、海外絵本画家シリーズを 7 回連続で開催、ちひろ美術館コレクションを中心に海外の作品を展示した

● 9 月 11 日 — 11 月 15 日
■いわさきちひろ代表作展Ⅲ
ちひろの紫
■開館15周年記念・
世界の絵本画家シリーズ⑤
子どもの本の王国
チェコ・スロバキアのイラストレーション

● 11 月 19 日 — 1 月 17 日
■ちひろ・雪の絵本
■開館15周年記念・世界の絵本画家シリーズ⑥
ポーランド・フィンランド・ロシアのイラストレーション

1993

● 2 月 11 日 — 4 月 18 日
■ちひろ・花と子ども
■開館15周年記念・
世界の絵本画家シリーズ⑦
イギリスのイラストレーション

● 4 月 22 日 — 6 月 27 日
■絵本『ことりのくるひ』展
■ロシアの心　タチヤーナ・マーヴリナ展

● 7 月 1 日 — 9 月 5 日
■《特別展》ちひろの愛したシネマ&ミュージック

● 9 月 9 日 — 11 月 14 日
■ちひろのドローイング
■大正の童話雑誌『赤い鳥』の画家ー清水良雄展

● 11 月 18 日 — 1 月 16 日
■絵本『青い鳥』展
■紙の宝石— 書票の魅力

1994

● 2 月 11 日 — 4 月 24 日
■ちひろ展 100 回記念　ちひろの花ことば

● 4 月 28 日 — 7 月 17 日
■没後 20 年記念　ちひろのアンデルセン

● 7 月 21 日 — 10 月 10 日
■《没後 20 年特別展》ちひろ再発見— 後期の変貌—

● 10 月 15 日 — 11 月 13 日
■没後 20 年記念　いわさきちひろ代表作展
— 初期素描から絶筆まで—

● 11 月 17 日 — 1 月 16 日
■《没後 20 年特別展》ちひろとローランサン、コルヴィッツ— 少女の心　母のまなざし—

ちひろが若いころから心ひかれたふたりの女性画家、ローランサンとコルヴィッツ。3 人の作品を展覧し、ちひろの内で、ふたりの画家がどのように昇華されていったのかを探った

1995

● 2 月 11 日 — 4 月 23 日
■子どものしあわせ表紙絵展 — ちひろ・12年の軌跡
■ 1995・ちひろ美術館コレクション展Ⅰ
ヤヌシュ・グラビャンスキ展 — 生命の瞬間 —

● 4 月 27 日 — 7 月 16 日
■安曇野ちひろ美術館着工記念　ちひろ思い出の信州
■ 1995・ちひろ美術館コレクション展Ⅱ
ユゼフ・ヴィルコン展 — ヒューマンな動物たち —

● 7 月 20 日 — 10 月 10 日
■《戦後50年特別展》
いま、世界の子どもたちに

ちひろの描く子どもと世界中の子どもたちの写真を展示し、国連で採択された「子どもの権利条約」を紹介した

● 10 月 14 日 — 1 月 15 日
■ちひろ・12か月の詩
■1995・ちひろ美術館コレクション展Ⅲ
ドゥシャン・カーライ展 — 異次元の夢 —

1996

● 2 月 10 日 — 4 月 14 日
■《特別展》八島太郎の世界
—アメリカに生きた日本人絵本作家の軌跡
■ちひろのあかちゃん展 — 母のまなざし—

● 4 月 18 日 — 7 月 14 日
■ちひろ・光と風をみつめて
■ちひろと宮沢賢治をむすぶもの
■原田和男・鉄の響展

● 7 月 18 日 — 10 月 6 日
■ちひろ・絵本にみる愛のかたち
— CGアニメーション制作の試み

● 10 月 10 日 — 1 月 15 日
■あなたが出会ったちひろの絵展
■グリーティングカード展 — 世界の絵本作家から—

ちひろ美術館・東京 1997-2017

■ちひろ展／■コレクション展／■企画展

1997

● 2月11日—4月20日
■《開館 20 周年記念展Ⅰ》
画集『ちひろ美術館』出版記念展Ⅰ　花のパレット
■インターナショナルコレクション展Ⅰ　赤羽末吉展
■増村征夫写真展Ⅰ　春を告げる花たち

● 4月24日—7月13日
■《開館 20 周年記念展Ⅱ》
画集『ちひろ美術館』出版記念展Ⅱ　夢みる少女
■インターナショナルコレクション展Ⅱ　谷内こうた展
■増村征夫写真展Ⅱ　星降る安曇野

● 7月17日—10月5日
■《開館 20 周年記念展Ⅲ》
画集『ちひろ美術館』出版記念展Ⅲ　子どもたちの季節
■インターナショナルコレクション展Ⅲ　パツォウスカー展
■増村征夫写真展Ⅲ　安曇野 風の色

● 10月9日—1月15日
■《開館 20 周年記念展Ⅳ》
画集『ちひろ美術館』出版記念展Ⅳ　旅ものがたり
■インターナショナルコレクション展Ⅳ　瀬川康男・絵本の世界

1998

● 2月11日—4月19日
■画家 いわさきちひろ

● 4月23日—7月12日
■ちひろが描いたアンデルセン
■ラチョフ、マーヴリナ追悼展

● 7月16日—10月4日
■ちひろ・母と子の絵本
■中谷千代子展 —どうぶつたちの詩—

● 10月8日—1月15日
■ちひろの絵本づくり
■中国の絵本作家たち

1999

● 2月11日—4月18日
■ちひろ 銀色の線
■大正の絵雑誌『コドモノクニ』展

● 4月22日—7月11日
■ちひろの技法　水墨画との接点
■赤羽末吉　絵本の世界

● 7月15日—10月3日
■吉田ルイ子が選ぶ　ちひろとルイ子展

● 10月7日—1月16日
■ちひろの少年
■茂田井武展
—印象のレンズ—

戦後間もない時期に活躍した茂田井武の初めての展覧会。以後繰り返し茂田井武展に取り組み、2009年には遺族より作品が寄贈された

2000

● 2月11日—4月16日
■ちひろの色彩
■ 1990 年代の日本の絵本展

● 4月20日—7月9日
■安野光雅セレクション　ちひろとあんの展

● 7月13日—10月3日
■人間・いわさきちひろ

● 10月5日—12月27日
■ちひろの秋
■イギリスの少女の夢—バーナデット・ワッツ

2002

● 9月7日—11月17日
■時をこえる視点—いわさきちひろ・山本正道

東京館のリニューアルオープンを記念する特別展として、時を超えて大切なものを見つめ続けるちひろと、彫刻家・山本正道の二人展を開催した

● 11月20日—1月31日
■思い出を絵本に—ゆきのひのたんじょうび・わたしのえほん
■コレガ長新太ナノヨ展

2003

● 3月1日—5月11日
■ちひろの春の庭
■小さな花にこころをかさねて　大沢節子・押し花の世界

● 5月14日—7月13日
■絵本『ことりのくるひ』展
■—もの想う人形たち—与勇輝展（～6月15日）
■世界の美しい鳥たち（6月17日～）

● 7月16日—9月28日
■—海辺の子ども— 絵本『ぽちのきたうみ』/ ちひろの油彩
■—紙の町のおはなし—クヴィエタ・パツォウスカー

● 10月1日—11月16日
■—少女・母・画家—いわさきちひろ展
■ジャン・ギョクニル展　～描かれたトルコの神秘～

● 11月19日—1月31日
■ちひろ・母と子の絵本　絵のなかの物語
■まど・みちおの絵—行間の宇宙—

2004

● 3月2日—5月9日
■ちひろと安曇野 / ちひろの描いた暮らし
■光と風と木の葉のモビール　齊藤桂一展
■増村征夫写真展—あずみの—

安曇野ちひろ美術館 1997-2017

■ちひろ展／■コレクション展／■企画展

1997

● 4月19日—7月1日
■開館記念展・春　■世界の絵本画家

● 7月3日—9月16日
■夏—輝く子ども　■世界の絵本画家

● 9月18日—11月30日
■秋—ひとりの時間
■E.M.ラチョフ追悼展
■流木と廃材の詩　田中英幸展

1998

● 2月1日—4月14日
■春を待つ子どもたち　■赤羽末吉・雪の絵本展

● 4月17日—6月30日
■花の季節　■赤羽末吉・大地と蒼空の絵本展

● 7月3日—9月15日
■ちひろ生誕80年記念　ちひろ・平和への願い
■クヴィエタ・パツォウスカー展

● 9月18日—11月30日
■秋のいろどり　■中谷千代子　絵本の世界

1999

● 3月1日—5月11日
■ちひろの春—自伝『わたしのえほん』展
■現代中国絵本画家展

● 5月14日—7月13日
■ちひろの雨　■大正の童画家展

● 7月16日—10月5日
■ちひろの夏　■ユゼフ・ヴィルコン展

● 10月8日—11月30日
■ちひろの秋—アンデルセンの世界
■1990年代の日本の絵本展

2000

● 3月2日—4月25日
■ちひろの花
■BIB絵本原画展

国際的な絵本原画展
「ブラティスラヴァ世界絵本原画展（BIB）」
を日本で初めて開催

● 4月20日—7月4日
■ちひろのあかちゃん　■バーナデット・ワッツ展

● 7月7日—9月26日
■未来を生きるこどもたちへ —ちひろの夏—
■ちひろ美術館コレクション絵本出版記念展
パツォウスカー・キアラ・ちひろ

● 9月29日—11月30日
■ちひろの秋—子どもの情景
■世界の絵本画家展—異次元の世界へようこそ
■斎藤清と子どもたち～流木アート展～

2001

※新館オープン以後、「世界の絵本画家」「絵本の歴史」
の展示も会期ごとに作品を入れ替えて行っている

● 3月1日—5月8日
■ちひろの少女–トットちゃんになったちひろの絵
■〈新館オープン記念特別展Ⅰ〉
ナンセンス絵本の王様　長新太の世界

新館オープンの最初の展示として、日本の絵本に
ナンセンスの分野を切り開いた長新太展を開催

■伊藤博敏　石のオブジェ展
ブティック・アインシュタイン　春のコレクション
■赤沼淳夫写真展　ちひろが愛した燕岳と安曇野Ⅰ

● 5月11日—7月17日
■ちひろのパレット
■〈新館オープン記念特別展Ⅱ〉
「紙のアーティスト クヴィエタ・パツォウスカー展」
■椅子はアートだ！座り心地だ！
—信州の若手作家　10人の椅子展
■赤沼淳夫写真展　ちひろが愛した燕岳と安曇野Ⅱ

● 7月20日—9月25日
■ちひろ・生命をみつめて
■ユゼフ・ヴィルコンの世界～音を奏でる色とかたち～
■増村征夫　安曇野写真展Ⅰ　安曇野　冬の華

● 9月28日—11月30日
■ちひろ・秋から冬へ
■茂田井武展—記憶の破片
■手しごとの製本　坂井えり展
■増村征夫　安曇野写真展Ⅱ　星降る安曇野

2002

● 3月1日—5月14日
■いのちの輝き～ちひろの春～
■ちひろの夢をはぐくんだ
大正の童画家　岡本帰一展

● 5月17日—7月16日
■ちひろの描いた日本の文学
■世界の絵本画家展
—絵本であちこち　世界の旅

● 5月12日―7月11日
■―小さきものはみなうつくし―いわさきちひろ展
■岡正子展 2004 Fashion for the Earth
―ちひろの世界が洋服になる―

● 7月14日―9月12日
■世界中のこどもみんなに平和としあわせを
ちひろと世界の絵本画家展
■小企画展示「イラクのこどもたち展」

● 9月15日―11月28日
■いわさきちひろ没後30年特別展　わたしが選んだちひろ展

初の参加型展覧会として、好きなちひろ作品とその理由を募集したところ、全国の方々から4000余通のリクエストが届く。それをもとに展覧会と関連書籍『ちひろBOX』を構成

● 12月1日―1月30日
■―虹色の軌跡―ちひろの色彩
■小企画展示『長田弘・いわさきちひろ詩画集　肩車』出版記念展/『ラブレター』出版記念展　ちひろの愛したものたち
■地球―ぼくらの大地　長倉洋海写真展

2005

● 3月1日―5月15日
■H.C.アンデルセン生誕200年記念
いわさきちひろ　アンデルセンへの旅
■詩画集出版記念展　江國香織＋いわさきちひろ

● 5月18日―7月10日
■戦後60年・ベトナム戦争終結30年
子ども・未来・いのちをみつめて―いわさきちひろ展
■写真家　田沼武能がとらえた
―黒柳徹子・ユニセフ親善大使の記録展

● 7月13日―9月11日
■佐藤忠良といわさきちひろ―共鳴するまなざし―

ちひろと同時代を生き、交流のあった彫刻家・佐藤忠良とちひろとの２人展を開催した

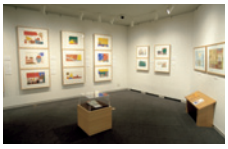
● 9月14日―11月13日
■お・い・し・い　ちひろ展
■世界のおいしい絵本展

● 11月16日―1月31日
■ちひろ・線のリズム
■リンドグレーン賞受賞記念　荒井良二のはじまりはじまり

2006

● 3月1日―5月14日
■ちひろ・子どもの時間
■コドモシャシン展 vol.1 高橋邦典―ぼくの出会った子どもたち―

● 5月17日―7月23日
■ちひろの花物語
■ありがとう！ チョーさん　長新太展ナノヨ



現代を代表する絵本作家であり、漫画家の長新太没後1年にあたり、代表作や初公開作品を含め展示、その業績を紹介した。没後1年に企画されたこの展覧会は、5会場を巡回した

● 7月26日―9月24日
■～あなたもちひろになれる!?～ちひろ画法のテクニック

● 9月27日―11月26日
■ちひろのファッション
■没後50年　茂田井武展 - お父さんの絵 -

● 11月29日―1月31日
■ちひろの子ども歳時記
■ノルシュテインの絵本づくり展

2007

● 3月1日―5月6日
■開館30周年記念展Ⅰ　ちひろの歩み

● 5月9日―7月1日
■開館30周年記念展Ⅱ
ちひろとアジアの絵本画家たち

● 7月4日―9月2日
■開館30周年記念展Ⅲ
世界中の子どもみんなに平和としあわせを

● 9月5日―11月18日
■開館30周年記念展Ⅳ　ようこそ！ ちひろの家へ

多目的展示ホールに、1951年の新築当時のちひろの自宅を一部復元した

● 11月21日―1月31日
■ちひろの構図―色・線・形
■生誕110年記念　初山滋展　線と色彩の詩人

大正から昭和にかけて「コドモノクニ」などを中心に活躍した初山滋の画業を紹介する初の大規模な回顧展を開催した

2008

● 3月1日―5月11日
■生誕90年記念展　ちいちゃんの絵本
■ちひろ美術館コレクション展Ⅰ　ロシアの絵本

● 7月19日―9月24日
■ちひろの夏・水と光のハーモニー
■木・遊・人　島添昭義展

初めて松川中学校の生徒がボランティアとして参加、
島添昭義の動く作品の実演解説を行った

● 9月27日―11月30日
■ちひろが愛した映画と音楽
■草のいのち・虫のいのち・線のいのち―瀬川康男展

2003

● 3月1日―5月6日
■ちひろの春～風にのって～
■荒井良二風　生き方の提案

斬新、大胆、自由な発想で新しい絵本の
世界を見せる荒井良二の展覧会を開催。
初公開のインスタレーションも展示した

● 5月9日―7月8日
■『となりにきたこ』―ちひろの絵本づくり―
■～ちひろ美術館コレクション～
物語から生まれる絵　世界の絵本画家展

● 7月11日―9月23日
■ちひろの夏・子どもたちの季節　■音の形―金沢健一展

● 9月26日―11月30日
■ちひろが描いたヒロイン
■～ちひろ美術館コレクション～　日本の絵本画家展

2004

● 3月1日―5月11日
■ちひろ・子どもは未来
■画集出版記念展　まど・みちおの絵 ―行間の宇宙―

● 5月14日―7月6日
■ちひろ・線のリズム
■～ちひろ美術館コレクション～
世界の絵本画家展　国境を超える絵本たち

● 7月9日―9月14日
■ちひろの花鳥風月
■原田和男展　―シデロイホス　鉄の響―

● 9月17日―11月30日
■いわさきちひろ没後30年特別展　わたしが選んだちひろ展
■知られざる絵本大国　ロシアの絵本画家展

2005

● 3月1日―5月10日
■戦後60年・ベトナム戦争終結30年　ちひろ　いのちの詩
■地球―ぼくらの大地　長倉洋海写真展

● 5月13日―7月5日
■ちひろと信州
■赤羽末吉・鬼の絵本展

● 7月8日―9月13日
■ちひろの夏休み
■～虹がいっぱい～吉田重信展

● 9月16日―11月29日
■H.C.アンデルセン生誕200年記念
ちひろが愛したアンデルセン
■画家たちが愛したアンデルセンとグリム

2006

● 3月1日―5月9日
■ちひろ・春の光のなかで　■中国とモンゴルの絵本展

● 5月12日―7月11日
■ちひろと金子みすゞ　■世界の絵本画家展

● 7月14日―9月12日
■ちひろ・絵のなかの音
■―絵が椅子になった!―
平面から立体へ　西尾路子展

● 9月15日―11月30日
■ちひろが愛した風景
■韓国の現代絵本原画展

2007

● 3月1日―5月8日
■開館10周年記念展Ⅰ 10のテーマ100のちひろ
■ノルシュテインの絵本づくり展

ロシアのアニメーション作家
ユーリー・ノルシュテインと
フランチェスカ・ヤールブソ
ワの絵本づくりに焦点をあ
てた展覧会を開催した

● 5月11日―7月10日
■開館10周年記念展Ⅱ　ちひろのふるさと・信州
■―ちひろ美術館コレクション―世界の絵本画家 Vol.1
■みんなで作る写真展　安曇野の原風景

● 7月13日―9月11日
■開館10周年記念展Ⅲ　ちひろの絵のひみつ
■―ちひろ美術館コレクション―世界の絵本画家 Vol.2

● 9月14日―11月30日
■開館10周年記念展Ⅳ　ちひろとケーテ・コルヴィッツ
―戦争と平和を描いた二人の女性画家―
■―ちひろ美術館コレクション―世界の絵本画家 Vol.3

2008

● 3月1日―5月13日
■ちひろ・花の香り
■生誕110年記念　初山滋　大回顧展
―色彩と線の詩人がおりなすモダニズムの世界―

● 5月16日―7月8日
■ちひろ・あそびの情景
■ちひろ美術館コレクション画家展Ⅰ　クラウス・エンヅィカート

● 7月11日―9月23日
■ちひろ・夏のパレット
■ちひろ美術館コレクション画家展Ⅱ　西村繁男

● 9月26日―11月30日
■ちひろ・愛の物語
■ちひろ美術館コレクション画家展Ⅲ
ヤナ・キセロヴァー・シテコヴァー

● 5月14日―7月13日
■ちひろと俳句　同時展示:ちひろと一茶
■ちひろ美術館コレクション展Ⅱ　絵本どうぶつ百態

● 7月16日―9月28日
■ちひろと世界の絵本画家たち –技法のひみつ–

● 10月1日―11月30日
■ちひろ・旅の絵本 –ヨーロッパを訪ねて–
■生誕100年　夢と記憶の画家　茂田井武展

● 12月3日―1月31日
■ちひろ生誕90年記念展　ちひろと水墨
■ちひろ美術館コレクション展Ⅲ　絵のなかの音

2009

● 3月1日―5月10日
■出版記念展　ちひろ・花の画集
■ミュンヘン国際児童図書館　架空の絵本展
–世界の絵本画家72人が描いた、本のない絵本–

● 5月13日―7月12日
■出版記念展　ちひろの昭和

● 7月15日―9月6日
■ちひろとローランサン

● 9月9日―11月15日
■出版記念展　ちひろ いのちの画集
■ちひろ美術館コレクション展　ねこねこ大集合

● 11月18日―1月31日
■ちひろ　冬の詩
■絵本はたのしい！ 武田美穂の絵本づくり

2010

● 3月2日―5月9日
■ちひろと金子みすゞ
■ポーランドの絵本画家たち

● 5月12日―7月11日
■ちひろの雨
■生誕100年　赤羽末吉展Ⅰ―絵本は舞台だ!―

● 7月14日―9月12日
■ちひろ・51歳の挑戦
■ちひろ美術館コレクション展　素材であそぶ

● 9月15日―11月14日
■出版記念展　ちひろ・秋のいろどり
■2000年代の日本の絵本展 2000–2009

2000年～2009年に出版された絵本のなかから、エポックメイキングとなった絵本の原画を展示した

● 11月17日―1月30日
■ちひろとちひろが愛した画家たち

2011

● 3月1日―5月15日
■おめでとう30周年！
―ちひろと黒柳徹子『窓ぎわのトットちゃん』展

ちひろの絵と共に世界30か国以上で愛されている、戦後最大のベストセラー『窓ぎわのトットちゃん』。世界中の子どもたちの幸せを願う、黒柳徹子といわさきちひろの世界を紹介した

■ちひろ美術館コレクション　国際アンデルセン賞受賞画家展

● 6月1日―7月31日
■ちひろが描いた世界の童話 ―アンデルセンを中心に―
■こどもの椅子展

● 8月3日―10月23日
■ちひろのあかちゃん
■瀬川康男遺作展 ―輝くいのち―

タブローと絵本の領域を超え、美しいものを熱心に探究し続けた瀬川康男。その没後1年にあたり、画業の全貌を紹介した

● 10月26日―1月29日
■ちひろの白
■谷川俊太郎と絵本の仲間たち
堀内誠一・長新太・和田誠

長年にわたり、絵本や子どもの本の仕事にも精力的に取り組んできた谷川俊太郎。本展では、谷川自身が「特別な存在」と語る、堀内誠一、長新太、和田誠との仕事を紹介した

2012

● 3月1日―5月20日
■ちひろと香月泰男 ―母のまなざし、父のまなざし―
■ピエゾグラフによる「わたしのちひろ」展

● 5月23日―8月26日
■ドキュメンタリー映画公開記念展　ちひろ　27歳の旅立ち
■ちひろ美術館コレクション　奇想の絵本 ―夢幻とナンセンス―

● 8月29日―11月11日
■ちひろ・子どもたちの情景
■国際アンデルセン賞受賞画家　アンソニー・ブラウン展
―ゴリラが好きだ―

● 11月14日―1月31日
■ちひろスタイル ―くらしのいろどり―
■―プラハでつむぐ幻想 ― 出久根育の絵本展
■子どものための工芸展

2009

● 3月1日―5月12日
■いわさきちひろ没後 35 年　出版記念展　ちひろと一茶

ちひろは、信州の俳人・小林一茶の俳句を愛していた。子どもや小さな生命への愛情、ふるさと・信州への想いを感じさせるふたりの絵と句を紹介した

■生誕 100 年　夢と記憶の画家　茂田井武展
■「フォト×俳句」展

● 5月15日―7月7日
■出版記念展　ちひろ　いのちの画集
■ミュンヘン国際児童図書館　架空の絵本展

● 7月10日―9月8日
■ちひろの四季
■出版記念　アンドレア・ペトルリック・フセイノヴィッチ展

● 9月11日―11月30日
■ちひろとちひろが愛した画家たち
■日本・ポーランド国交樹立90周年記念　ポーランドの絵本原画展

2010

● 3月1日―5月11日
■ちひろ・母のまなざし
■ちひろ美術館コレクション展　4 大陸 100 人の絵本画家たち

● 5月14日―7月13日
■ちひろ・野の花のささやき
■ 2000 年代の日本の絵本展　2000 – 2009

● 7月16日―9月28日
■ちひろ・色の世界
■生誕100年　赤羽末吉展Ⅱ ― 絵本は舞台だ!―

当館の主要なコレクションである赤羽末吉の生誕 100 年を記念し、画業の全貌を紹介した

● 10月1日―12月19日
■ちひろの昭和 ― なつかしの日々
■世界の絵本大集合！　国際絵本コンクール受賞画家展

2011

● 3月1日―5月10日
■ちひろの少女―記憶と心象―
■東欧と日本を結ぶ 色と線の幻想世界
ドゥシャン・カーライ×出久根育展
■ちひろと黒柳徹子『窓ぎわのトットちゃん』ピエゾグラフ展

● 5月13日―7月12日
■ちひろの旅物語
■茂田井武の世界旅行

● 7月15日―9月13日
■出版記念展　ちひろ・夏の画集
■ちひろ美術館コレクション　ようこそ！絵本水族館

● 9月16日―11月30日
■香月泰男生誕 100 年記念　ちひろと香月
― 母のまなざし、父のまなざし ―

ともに戦争を体験し、平和への願いを絵に込めたちひろと香月泰男の作品を展示した

■出版記念展 ― 三国志はおもしろい！
― 中国の絵本画家　干大武展

2012

● 3月1日―5月8日
■ドキュメンタリー映画公開記念展　ちひろ　27 歳の旅立ち
■瀬川康男遺作展　― 輝くいのち―
■開館 15 周年記念　ピエゾグラフによる「わたしのちひろ」展

● 5月11日―7月10日
■ちひろ・花の肖像
■国際アンデルセン賞受賞画家　アンソニー・ブラウン展
―ゴリラが好きだ―
■ちひろ美術館コレクション　人になった動物たち

● 7月13日―9月18日
■子どものしあわせと平和　―ちひろ+黒柳徹子―
■安曇野ちひろ美術館開館 15 周年記念　ちひろ美術館コレクション　ちひろ美術館が出会った世界と日本の絵本画家たち
■高橋和真　パッケージクラフト展

● 9月21日―11月30日
■ちひろ・和の心
■日中国交正常化 40 周年記念　中国の絵本画家展
■ちひろ美術館コレクション　絵本と訪ねる、世界の家

2013

● 3月1日―5月7日
■ちひろの軌跡
■手から手へ展
―絵本作家から子どもたちへ　3.11 後のメッセージ―

日本の絵本作家たちが中心となり、「3.11 後の世界から私たちの未来を考える」というテーマで世界の仲間たちに呼びかけて作品を募った展覧会。7ヵ国110名の絵本の画家たちが参加した

■ちひろ美術館コレクション
読みつがれる絵本　語り継がれる物語

2013

● 3月1日―5月19日
■ちひろの庭
■日中国交正常化 40 周年記念　中国の絵本画家展

● 5月22日―8月4日
■―平和で、豊かで、美しく、可愛いものが、ほんとうに好きで―
いわさきちひろ展
■手から手へ展
―絵本作家から子どもたちへ　3.11 後のメッセージ―

● 8月7日―10月27日
■ちひろ・絵本づくりの現場
■ずっと長さんとともに ―長新太が描いた子どもの本―

● 10月30日―1月31日
■ちひろと初山滋 ―永遠のコドモ―

2014

● 3月1日―5月18日
■ちひろ没後 40 年
―世界中のこどもみんなに平和としあわせを ―ちひろの願い
■― Paper Talks 紙のおしゃべり―　クヴィエタ・パツォウスカー展

● 5月21日―8月3日
■ちひろ没後 40 年
ちひろになれる！ 7つの法則 ―技法徹底解剖―
■ちひろ美術館コレクション　びっくり！ 絵本水族館

● 8月6日―11月3日
■いわさきちひろ×佐藤卓=展
はじめて見る、ちひろの世界。

グラフィック・デザイナー佐藤卓によるキュレーションで、斬新な展示づくりに挑戦。「ちひろ×佐藤卓の実験室」では、ふたりのコラボレーションから生まれた作品も紹介した

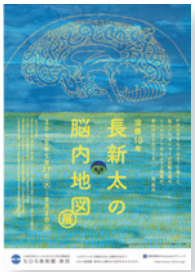
● 11月6日―1月31日
■夢二からちひろへ　―子どもの本の先駆者たち―

2015

● 3月1日―5月24日
■絵本になった！『窓ぎわのトットちゃん』展
■聖コージズキンの誘惑展

● 5月27日―8月2日
■ちひろの本棚
■没後10年「長新太の脳内地図」展

長新太の没後 10 年にあたり、奇想天外な絵本の数々を生み出したその脳内を、10 のテーマから解析。この展覧会は 5 会場を巡回した



● 8月5日―10月25日
■非戦 70 年　ちひろ平和への願い
■日ブラジル外交関係樹立 120 周年
旅する芸術家　ホジェル・メロ展

● 10月28日―1月31日
■―世界で最初の絵本美術館―まるごとちひろ美術館

2016

● 3月1日―5月22日
■ちひろのムーブマン
■『はしれ、トト！』チョウンヨンの絵本づくり展

● 5月25日―8月7日
■―絵のなかのわたし―　ちひろの自画像展
■村上春樹とイラストレーター
―佐々木マキ、大橋歩、和田誠、安西水丸―

村上春樹とイラストレーターに着目した世界初の展覧会として、SNS、TV、ラジオ、新聞、雑誌などの各メディアで大きな話題を呼んだ

● 8月11日―11月6日
■ Kawaii・ちひろ展
■あべ弘士の動物王国展

動物園の飼育員を長年務めた異色の経歴をもつあべ弘士が描く、動物たちの絵の数々を紹介した

● 11月9日―1月15日
■ちひろ・冬のしつらえ
■赤羽末吉・中国とモンゴルの大地
■トットちゃん広場オープン記念
ピエゾブラフによる『窓ぎわのトットちゃん』展

2017

● 3月1日―5月14日
開館 40 周年記念Ⅰ　日本デンマーク国交樹立 150 周年
■ちひろと世界の絵本画家コレクション　わたしのアンデルセン
■デンマークの心　イブ・スパング・オルセンの絵本

● 5月19日―8月20日
開館 40 周年記念Ⅱ
■高畑勲がつくるちひろ展
ようこそ！ちひろの絵のなかへ
■奈良美智がつくる　茂田井武展　夢の旅人

● 8月24日―11月5日
開館 40 周年記念 Ⅲ
■ちひろの詩（うた） ―絵は詩のように―
■奇喜怪快　井上洋介の絵本展

● 11月8日―1月31日
開館 40 周年記念 Ⅳ
■ちひろの歩み
■日本の絵本 100 年の歩み

● 5月10日―7月9日
■ちひろの子ども歳時記
■ちひろ美術館コレクション　絵本のつくり方
■絵本『ブルムカの日記』原画展
―子どもを愛したコルチャック先生―

● 7月12日―9月17日
■ちひろになれる! 7つの法則 ―技法徹底解剖―
■色の音　紙の詩　クヴィエタ・パツォウスカー展

■ちひろ美術館コレクション　貼る・塗る・摺る
―絵本画家たちの技法と画材―
● 9月20日―11月30日
■ちひろのアトリエ―東京・黒姫―
■ちひろ美術館コレクション　画家たちのアトリエ

2014

● 3月1日―5月13日
■ちひろ没後40年　絵本になった!『窓ぎわのトットちゃん』展
■ちひろ美術館コレクション　絵本・のりもの博覧会

● 5月16日―7月22日
■ちひろ没後40年　ちひろの愛したアンデルセンと宮澤賢治
■ブラジルからやってきた!　色彩の画家　ホジェル・メロ展

前年国際アンデルセン賞画家賞を受賞したブラジルのホジェル・メロの展覧会をミュンヘンの国際児童図書館との共同企画として開催

● 7月25日―9月16日
■ちひろ没後40年　ちひろの歩み
―平和を願い子どもを描き続けた画家―
■ちひろ美術館コレクション　びっくり！絵本動物園

● 9月19日―11月30日
■ちひろ没後40年 ちひろの絵本づくり
―表現の可能性を求めて―
■聖コージズキンの誘惑展

奇想天外な発想とダイナミックな描写で高い人気を博しているスズキコージの展覧会。会期中にはライブペインティングも開催した

■ちひろ美術館コレクション
絵本に耳をかたむけて

ちひろ美術館のコレクションや建物などの魅力をまるごと紹介する展覧会を開催した

2015

3月1日―5月12日
■―絵は見なくてもいい美術館―
まるごとちひろ美術館

● 5月15日―7月14日
戦後70年特別企画
■ちひろ・非戦の誓い
■戦争を描いた日本の絵本展
■ちひろ美術館コレクション
世界の絵本画家から未来を生きる子どもたちへ

● 7月17日―9月23日
■はじめて見る、ちひろの世界。いわさきちひろ×佐藤卓＝展
■ちひろ美術館コレクション　衣装あれこれ!? 世界の絵本展

● 9月26日―11月30日
■ちひろを語るこの一点「ぶどうを持つ少女」の魅力
■『はしれ、トト!』　チョ・ウンヨンの絵本づくり展
■ちひろ美術館コレクション
10人の絵本画家　10の絵本づくり

韓国の若手画家チョ・ウンヨンがBIBグランプリを受賞した絵本の絵本づくりを紹介した

2016

● 3月1日―5月10日
■ちひろ―その心、花にたくして
■ちひろ美術館コレクション
花の博覧会

● 5月14日―7月11日
■ちひろのスケッチ紀行
■あべ弘士の動物王国展
■ちひろ美術館コレクション　ふしぎな動物たち

● 7月15日―9月27日
■松川村・安曇野ちひろ公園トットちゃん広場オープン記念展
「みんな、いっしょだよ。」
■BIB 50周年　ちひろ美術館コレクション
絵本の歴史をつくった画家たち

● 10月1日―11月30日
■愛書総覧　ちひろの本棚
■没後10年「長新太の脳内地図」展
■ちひろ美術館コレクション　無限の夢幻
■わたしのトットちゃん　ピエゾグラフ展

2017

● 3月1日―5月9日
開館20周年記念Ⅰ
■高畑勲がつくるちひろ展　ようこそ! ちひろの絵のなかへ
■奈良美智がつくる　茂田井武展　夢の旅人
■ちひろ美術館コレクション　旅する絵本

● 5月13日―7月4日
開館20周年記念Ⅱ
■走る！跳ねる！　ちひろ・子ども百態
■ちひろ美術館コレクション　子どもの世界・世界の子ども

● 7月8日―9月12日
開館20周年記念Ⅲ
■いわさきちひろの歩み
■日本の絵本100年の歩み
■ちひろ美術館コレクション　貼る！コラージュの絵本

● 9月16日―11月7日
開館20周年記念Ⅳ
■ちひろと旅する信州
■日本デンマーク国交樹立150周年
イブ・スパング・オルセンの絵本展
■ちひろ美術館コレクション　よりどりみどり世界の鳥

館外展一覧（国内）

ちひろ美術館では、東京・練馬や長野・安曇野まで足を運べない方々のために、全国の公立美術館やアートスペースと協力していわさきちひろ展を開催。2000 年からはちひろ美術館コレクションを紹介する展覧会、2006 年からはピエゾグラフ展も行っています。

いわさきちひろ展

種類	会場	会期
いわさきちひろ展	福井県立美術館	1979.7.14-8.5
いわさきちひろ展　ちひろが描く アンデルセンとソビエトスケッチ	東京国際美術館	1979.7.25-8.22
いわさきちひろの世界展	船橋西武美術館	1979.8.17-8.29
いわさきちひろ展	福島県立美術館	1986.7.12-8.24
ちひろ展Ⅰ	大阪大丸ミュージアム	1987.3.18-3.30
ちひろ展Ⅰ	福岡県立美術館	1987.7.21-8.16
ちひろ展Ⅰ	大分県立芸術会館	1987.9.1-9.27
ちひろ展Ⅰ	倉敷市立美術館	1988.4.19-5.15
ちひろ展Ⅰ	豊橋市美術博物館	1988.7.23-8.21
ちひろ展Ⅱ	山口県立美術館	1990.3.10-4.8
ちひろ展Ⅱ	姫路市立美術館	1990.4.21-5.20
ちひろ展Ⅱ	愛知県美術館	1990.7.20-8.1
ちひろ展Ⅲ	伊勢丹美術館	1991.4.18-5.7
ちひろ展Ⅲ	大丸大阪ミュージアム	1991.9.11-9.23
ちひろ展Ⅲ	愛媛県立美術館	1991.8.27-9.23
ちひろ展Ⅱ	長崎県立美術博物館	1993.4.28-5.23
ちひろ展Ⅱ	豊科町立近代美術館	1993.7.24-8.29
ちひろ展Ⅱ	高松市美術館	1994.3.30-4.24
ちひろ展Ⅱ	浦添市美術館	1994.8.4-9.11
ちひろ展Ⅱ	大丸ミュージアムKYOTO	1994.9.29-10.11
ちひろ展Ⅲ	岡山県立美術館	1995.3.23-4.23
ちひろ展Ⅲ	松坂屋美術館	1995.4.27-5.16
ちひろ展Ⅲ	福岡市美術館	1995.7.18-8.13
ちひろ展Ⅱ	岩手県民文化会館	1996.3.31-4.21
ちひろ展Ⅱ	熊本県立美術館	1996.4.26-5.26
ちひろ展Ⅱ	高崎シティギャラリー	1996.7.13-8.11
ちひろ展Ⅱ	おぶせミュージアム	1996.9.20-10.20
ちひろ展Ⅳ	伊勢丹美術館	1997.3.13-4.8
ちひろ展Ⅳ	大丸ミュージアム梅田	1997.4.16-5.12
ちひろ展Ⅱ	大丸ミュージアムKOBE	1998.3.12-3.31
ちひろ展Ⅳ	上越市立総合博物館	1998.5.30-6.14
ちひろ展Ⅳ	福井県立美術館	1998.7.18-8.16
ちひろ展Ⅳ	やまがた美術館	1999.8.6-8.29
ちひろ展Ⅳ	北九州市立美術館	1999.12.23-2000.1.30
ちひろ展Ⅳ	都城市立美術館	2000.10.6-11.5
ちひろ展Ⅳ	熊本県立美術館	2001.4.19-5.20
ちひろ展Ⅱ	島根県立美術館	2001.5.25-7.1
ちひろ展Ⅱ	グランシップ静岡コンベンション&アーツセンター	2001.7.27-8.26
ちひろ展Ⅳ	郡山市立美術館	2002.7.20-8.24
ちひろ展Ⅱ	天心記念茨城県立五浦美術館	2003.4.26-6.1
ちひろ展Ⅱ	石川県立美術館	2003.8.22-9.16
ちひろ展Ⅳ	名古屋松坂屋美術館	2004.3.24-4.13
わたしが選んだちひろ展	大丸ミュージアム梅田	2005.4.20-5.9
わたしの中のいわさきちひろ展	岡山県立美術館	2005.7.15-8.15
わたしが選んだちひろ展	長崎県立美術館	2006.8.4-9.3
色のある水墨画・いわさきちひろ展	富山県立水墨美術館	2006.10.6-11.5
わたしが選んだちひろ展	福井市美術館	2007.7.21-8.19
いわさきちひろ展	美術館「えき」KYOTO	2007.10.13-11.11
いわさきちひろ展 ようこそ！ちひろの家へ	山口県立美術館	2008.4.17-5.25
わたしが選んだいわさきちひろ展	宇都宮美術館	2008.7.26-8.31
わたしが選んだいわさきちひろ展	平塚市美術館	2009.7.18-8.30
わたしが選んだいわさきちひろ展	刈谷市美術館	2009.9.19-10.25
いわさきちひろ展	沖縄県立博物館・美術館	2010.4.3-5.9
-わたしが選んだ-いわさきちひろ展 ～こどもたちへのまなざし	ひろしま美術館	2010.7.24-8.29
いわさきちひろ展 未来へつなぐやさしさのために	松坂屋美術館	2011.4.27-5.17
わたしが選んだちひろ展 ～子どものしあわせを願って～	新潟県立近代美術館	2011.7.23-8.28
いわさきちひろ展　母のまなざし・ 子どもたちへのメッセージ	兵庫県立美術館ギャラリー	2012.3.31-5.6
いわさきちひろ展	北九州市立美術館	2012.9.15-10.21
いわさきちひろ展	北海道立近代美術館	2013.4.27-6.2
いわさきちひろ展	岩手県立美術館	2013.7.25-8.25
没後 40 年　いわさきちひろ展	岡山シティミュージアム	2014.7.18-8.24

ちひろ美術館コレクション展・企画展

種類	会場	会期
パツォウスカー展Ⅰ	西武セゾンフォーラム（高槻）	1990.4.27-5.8
パツォウスカー展Ⅰ	東広島市立美術館	1990.7.14-8.12
ちひろと絵本の世界展	北海道立近代美術館	1992.2.7-3.8
パツォウスカー展Ⅱ	大丸ミュージアム・梅田	1995.4.5-4.18
パツォウスカー展Ⅱ	高崎シティギャラリー	1995.7.20-8.13
パツォウスカー展Ⅱ	伊勢丹美術館	1995.9.27-10.11
パツォウスカー展Ⅱ	萬鉄五郎記念美術館	1995.10.18-11.19
パツォウスカー展Ⅱ	ふくやま美術館	1996.1.4-2.11
赤羽末吉遺作展	姫路市立美術館	1991.4.27-5.26
赤羽末吉遺作展	ふくやま美術館	1991.8.10-9.8
ヨーロッパ絵本原画展	北網圏北見文化センター	1996.4.27-5.26
ヨーロッパ絵本原画展	滝川市美術自然史館	1996.6.15-7.21
瀬川康男展	板橋区立美術館	1997.11.29-1998.1.11
瀬川康男展	刈谷市美術館	1998.12.19-1999.1.24
ちひろと世界の絵本画家	伊勢丹美術館	2000.7.1-7.30
ちひろと世界の絵本画家	大丸ミュージアム梅田	2000.8.3-8.20
ちひろと日本の絵本画家	伊勢丹美術館	2002.1.31-3.5
ちひろと日本の絵本画家	大丸ミュージアム梅田	2002.4.26-5.12
ちひろと日本の絵本画家	大丸ミュージアム KYOTO	2002.10.9-10.22
ちひろと日本の絵本画家	ふくやま美術館	2004.7.16-8.22
ちひろと日本の絵本画家たち	山形美術館	2006.4.7-5.7
長新太展	出雲市立平田本陣記念館	2006.8.2-10.1
長新太展	刈谷市美術館	2006.11.4-2007.1.14
長新太展	大丸ミュージアムKYOTO	2007.8.15-8.27
ちひろとアジアの絵本画家たち	福岡アジア美術館	2007.8.25-9.25
長新太展	横浜そごう美術館	2007.9.8-10.8
生誕 100 年　夢と記憶の画家 茂田井武の世界展	喜多方市美術館	2008.12.20-2009.2.1
ちひろ美術館コレクション ミリオンセラーの 絵本原画と世界の絵本画家たち	損保ジャパン東郷青児美術館	2009.7.11-8.30
手のひらのモダン コドモノクニと童画家たち	横須賀美術館	2009.6.27-8.23
茂田井武展　子どもたちへの贈りもの	県立神奈川近代美術館	2009.8.8-9.27
ちひろ美術館コレクション 世界の絵本大集合！	松本市美術館	2010.10.9-11.28
ちひろ美術館コレクション 世界の絵本をめぐる旅	島根県立石見美術館	2011.4.16-5.23
ちひろ美術館コレクション ちひろと世界の絵本画家たち	損保ジャパン東郷青児美術館	2012.7.7-8.26
クヴィエタ・パツォウスカーと チェコの絵本展	美術館「えき」KYOTO	2013.12.6-12.27
ちひろ美術館コレクション 世界をめぐる絵本の旅	福島県立美術館	2014.4.26-6.1
ちひろ美術館コレクション ちひろと世界の絵本画家たち	明石市立文化博物館	2015.8.1-8.30
ちひろ美術館コレクション 絵本をひらくと	静岡市美術館	2015.10.10-11.23

国内でのピエゾグラフ展

種類	会場	会期
ピエゾグラフ作品による 私の中のいわさきちひろ展	リアスアーク美術館	2006.6.1-6.30
ピエゾグラフによるわたしが選んだ いわさきちひろ展in豊岡	伊藤清永美術館	2008.3.7-4.7
ちひろとみつをのギャラリー展	相田みつを美術館	2008.9.2-12.14
ピエゾグラフ作品による いわさきちひろ展	ふくい南青山 291	2008.12.15-12.28
いわさきちひろ生誕 90 年記念 ゆきのひのたんじょうび いわさきちひろと母文江の武生展	越前市武生公会堂記念館	2009.11.22-12.20
いわさきちひろ展	ナガサキピースミュージアム	2010.4.20-5.9
いわさきちひろ展	可児市文化創造センター	2011.1.8-1.23
ピエゾグラフによるいわさきちひろ展 子どもたちへのまなざし	丸亀市立資料館	2013.7.27-9.1
香月泰男といわさきちひろ 「ふるさとと小さな仲間たち展」	香月泰男美術館	2013.7.26-9.1
ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	高鍋町美術館	2014.8.2-8.31
ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	白高町文化交流センター 「あゆーむ」	2014.9.27-10..26
ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	西田美術館	2015.4.17-5.24
ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	滑川市立博物館 / 滑川市こども図書館	2015.7.26-8.30
ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	公益財団法人 ギャラリーエークワッド	2015.10.17-11.23
ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	福知山市佐藤太清記念美術館	2016.9.3-10.10
ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	「ちひろの生まれた家」記念館	2016 年（通年）
ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	剣淵町絵本の館	2016.7.30-9.30
ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	福知山市佐藤太清記念美術館	2016.9.3-10.10
ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	公益財団法人ギャラリーエークワッド	2016.10.7-11.7
ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	「ちひろの生まれた家」記念館	2017年（通年）
ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	戦争と平和の資料館 ピースあいち	2017.7.18-8.31
ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	高梁市歴史美術館	2017.7.22-8.22（予定）
日本の絵本のあゆみ展	国立国会図書館 国際子ども図書館	2017.11.1-11.30（予定）

ちひろ美術館コレクション

Collection

ちひろ美術館コレクションの総数は、現在約2万7,200点にのぼります。いわさきちひろをはじめとする日本の絵本画家の作品のほか、欧米、アジア、東欧やロシア、南米やアフリカなど34の国と地域、207名の画家の作品を収蔵しています*。この数は絵本の専門美術館としては世界最大規模であり、国際アンデルセン賞画家賞受賞者12名を含む各国の代表的な絵本画家の作品がそろっています。

＊2017年3月現在

いわさきちひろ

Chihiro Iwasaki

チューリップのなかのあかちゃん　1971 年

ちひろは、第二次世界大戦後、子どもの本を舞台に活躍し、観察力とデッサン力を駆使して、子どものあらゆる姿を描き出し、生涯、「子ども」をテーマに描き続けました。ちひろは自らの作品を大切に守り、手元に残しました。現在、当館で所蔵するちひろの作品は約 9,500 点におよびます。40 冊あまりの絵本の原画のほか、絵雑誌や童話集、教科書、広告、初期から晩年までのスケッチや素描、油彩画なども含まれ、画業の全貌を俯瞰することができます。

アヒルとクマとあかちゃん　1971 年

たたずむ少年　1972 年『戦火のなかの子どもたち』（岩崎書店）より

貝がらと赤い帽子の少女　1967 年

王子を想う人魚姫　1967 年『にんぎょひめ』（偕成社）より

小犬と雨の日の子どもたち　1967 年

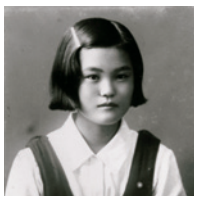
十五夜の月　1965 年

ランドセルをしょって並んで歩く 1 年生　1966 年

いわさきちひろの生涯

生後 57 日目／ 1919 年

昭和天皇即位の記念式典に出席した両親と（左端）／ 1928 年（9 歳）


第六高等女学校 5 年生のとき／ 1935 年（16 歳）

見合い写真／ 1938 年（19 歳）

勃利の森岡部隊長宿舎にて／ 1944 年 6 月（25 歳）

夫・善明と／ 1950 年（31 歳）

練馬区下石神井の新居予定地にて／ 1951 年 11 月 27 日（32 歳）

1918	大正 7 年	0 歳	●12月15日、岩崎正勝・文江の長女として母の単身赴任先・福井県武生市（現・越前市）で生まれる。本名知弘。父・正勝は陸軍築城本部の建築技師、母・文江は女学校の教師（博物家事・理科）。	6月、「赤い鳥」創刊。11 月、第一次世界大戦終わる。
1919	大正 8 年	0 歳	●東京府渋谷町道玄坂に移る。	
1920	大正 9 年	1 歳	●妹・世史子生まれる。	
1922	大正 11 年	3 歳		「コドモノクニ」創刊。
1923	大正 12 年	4 歳	●妹・準子生まれる。	9月、関東大震災。
1925	大正 14 年	6 歳	●渋谷町立長谷戸小学校に入学。	
1927	昭和 2 年	8 歳	●学芸会等で席画をよくする。●岡本帰一、初山滋、武井武雄らの絵を好む。	武井武雄の呼びかけで日本童画家協会結成。
1931	昭和 6 年	12 歳	●東京府立第六高等女学校（現・都立三田高校）に入学。●スポーツは万能でバスケ ットボール、水泳、弓道などをよくし、スキー、登山を好む。	9月、満州事変始まる。
1932	昭和 7 年	13 歳		3月、満州国建国宣言。5月、五・一五事件。
1933	昭和 8 年	14 歳	●目黒区中目黒に移る。●岡田三郎助に師事。デッサン、油絵の勉強を始める。	3月、日本が国際連盟を脱退。
1936	昭和 11 年	17 歳	●3月、府立第六高等女学校卒業。同補習科に入学。●5月、朱葉会女子洋画展に入選。	2月、二・二六事件。「講談社の絵本」の刊行開始。
1937	昭和 12 年	18 歳	●小田周洋について藤原行成流の書を習い始める。	7月、盧溝橋事件（日中戦争始まる）。
1939	昭和 14 年	20 歳	●４月、婿養子を迎え結婚。６月、夫の勤務地である旧満州大連（中国遼寧省大連市）に渡る。	9月、ドイツ、ポーランドへ侵攻。第二次世界大戦始まる。
1940	昭和 15 年	21 歳	●母・文江、府立第六高等女学校を退職し、大日本連合女子青年団（のちの大日本青少年団）主事となる。	9月、日独伊三国同盟締結。
1941	昭和 16 年	22 歳	●２月、夫の自殺により帰国。●書家をめざし、再び小田周洋のもとで書を学ぶ。この頃、文化服装学院で習字を教える。●中野区千代田町（現・本町付近）に移る。	12 月、太平洋戦争始まる。
1942	昭和 17 年	23 歳	●中谷泰に師事、再び油絵を描き始める。	
1944	昭和 19 年	25 歳	●4月、女子義勇隊に同行して、中谷泰、妹・世史子らとともに旧満州勃利（中国黒龍江省）へ渡る。●夏、戦況悪化のため帰国。	11 月、B29 による東京空襲始まる。
1945	昭和 20 年	26 歳	●5月、母の実家（長野県松本市）に疎開、ここで終戦を迎える。●秋、両親が長野県北安曇郡松川村（現・安曇野ちひろ美術館所在地）で開拓を始める。	3月、東京大空襲。8月、第二次世界大戦終わる。
1946	昭和 21 年	27 歳	●長野県松本市で日本共産党に入党。●春、上京し、人民新聞の記者となる。日本共産党宣伝部・芸術学校に入る。●赤松俊子（丸木俊）に師事。	7月、日本童画会創立。11 月、日本国憲法公布。
1947	昭和 22 年	28 歳	●前衛美術会創立に参加。日本美術会、日本童画会のメンバーとなる。●5月、初めての単行本『わるいキツネそのなはライネッケ』（霞ヶ関書房）の挿絵を描く。●日本民主主義文化連盟（文連）の依頼により、紙芝居『お母さんの話』を描く。●この頃、画家として立つことを決意する。	
1948	昭和 23 年	29 歳	●新聞等のカット、挿絵、絵雑誌、教科書の仕事を数多く手がける。油絵もよく描く。●神田のブリキ屋の二階に下宿。	9月、朝鮮民主主義人民共和国成立。
1949	昭和 24 年	30 歳	●日本共産党の活動の中で松本善明と知り合う。	7月、下山事件／三鷹事件。8月、松川事件。10 月、中華人民共和国成立。
1950	昭和 25 年	31 歳	●1月、松本善明と結婚。●紙芝居『お母さんの話』を教育紙芝居研究会より出版、文部大臣賞受賞。	6 月、朝鮮戦争始まる。
1951	昭和 26 年	32 歳	●4月、長男・猛誕生。●６月、経済的事情のため、やむなく息子を長野県松川村の両親に預ける。この間、息子に会うため、頻繁に松川村に通い、多くのスケッチを描く。	9月、対日講和条約、日米安全保障条約調印。
1952	昭和 27 年	33 歳	●東京都練馬区下石神井（現ちひろ美術館・東京所在地）に家を建て、家族３人で暮らし始める。以後22年間、この地で制作活動を行う。	

1953	昭和 28 年　34 歳	●1月、父・正勝死去。	「岩波こどもの本」刊行開始。
1956	昭和 31 年　37 歳	●絵雑誌等に発表した作品を対象に、小学館児童文化賞受賞。●絵本の仕事として初めての『ひとりでできるよ』（福音館書店）を描く。	12 月、日本、国際連合加盟。「こどものとも」（福音館書店）刊行開始。
1958	昭和 33 年　39 歳	●至光社の月刊絵雑誌「こどものせかい」に描き始める。●紙芝居『お月さまいくつ』（童心社）を描き、翌年、厚生大臣賞受賞。	
1960	昭和 35 年　41 歳	●『あいうえおのほん』（童心社）を描き、翌年、サンケイ児童出版文化賞受賞。	日米新安保条約調印。翌年、日本童画会解散。
1962	昭和 37 年　43 歳	●最後の油絵作品「こども」を描く。●教科書の絵の再使用に対して、太田大八、久保雅勇らとともに抗議、以後解決に至るまでねばり強く戦う。	
1963	昭和 38 年　44 歳	●雑誌「子どものしあわせ」（草土文化）の表紙を描きはじめる。●3月、「ぐるうぷ堅（かべ）」を、赤羽末吉、遠藤てるよ、柿本幸造、中尾彰、渡辺三郎、丸木俊らと結成。●6月、世界婦人会議参加のため、ソビエトを訪れる。	
1964	昭和 39 年　45 歳	●「童画ぐるーぷ車」を、安泰、遠藤てるよ、久米宏一、滝平二郎、東本つね、箕田源二郎らと結成。10月、日本児童出版美術家連盟（童美連）発足。理事として画家の著作権擁護に積極的に取り組む。	10 月、オリンピック東京大会開催。
1965	昭和 40 年　46 歳	●『りゅうのめのなみだ』（偕成社）『おはなしアンデルセン』（童心社）を刊行。	2月、アメリカの北ベトナム攻撃開始。
1966	昭和 41 年　47 歳	●３月、母・文江をともなってヨーロッパ旅行。●帰国後、アンデルセンの『絵のない絵本』（童心社）を描く。●長野県の黒姫高原に山荘を建て、以後毎年ここで絵本制作を行う。●『おやゆび姫』（ひかりのくに昭和出版）『つるのおんがえし』（偕成社）を刊行。	
1967	昭和 42 年　48 歳	●『わたしがちいさかったときに』（童心社）を描く。●夫・善明が衆議院議員となる。●『しらゆきひめ』（集英社）『りこうなおきさき』（講談社）『にんぎょひめ』『うらしまたろう』（ともに偕成社）を刊行。	6月、第三次中東戦争始まる。
1968	昭和 43 年　49 歳	●絵で展開する絵本を試みた最初の作品『あめのひのおるすばん』（至光社）を描く。以後、至光社で武市八十雄とともに意欲的に絵本を制作する。●自伝的絵本『わたしのえほん』（みどり書房・現在は新日本出版社）を描く。●『はくちょうのみずうみ』（世界出版社）『あかいふうせん』『あかいくつ』（ともに偕成社）『愛かぎりなく―デカブリストの妻抄』（童心社）を刊行。	
1969	昭和 44 年　50 歳	●『おにたのぼうし』（ポプラ社）『あかちゃんのくるひ』（至光社）『花の童話集』（童心社）などを描く。●『ふたりのぶとうかい』（学習研究社）『あおいとり』（世界文化社）『鯉のいる村』（新日本出版社）を刊行。	
1970	昭和 45 年　51 歳	●パステルで描いた絵本『となりにきたこ』（至光社）を描く。●現存するパステル画のほとんどは、この年に描く。●『おふろでちゃぷちゃぷ』『もしもしおでんわ』『万葉のうた』（いずれも童心社）『にじのみずうみ』（偕成社）を刊行。●「ベトナムの子供を支援する会」主催の反戦野外展に出品。●前年脳血栓で倒れた母・文江を、下石神井の自宅にひきとる。	3月、日本万国博覧会開催。日航機よど号ハイジャック事件。
1971	昭和 46 年　52 歳	●『ことりのくるひ』（至光社）を描き、1973 年ボローニャ国際児童図書展にてグラフィック賞を受賞。●この頃から十二指腸潰瘍をわずらう。●『あかちゃんのうた』『たけくらべ』（ともに童心社）『ゆきごんのおくりもの』（新日本出版社）を刊行。	
1972	昭和 47 年　53 歳	●『ひさの星』（岩崎書店）『ゆきのひのたんじょうび』（至光社）などを描く。●夏、代々木病院に入院。	9月、日中国交正常化。
1973	昭和 48 年　54 歳	●『ぽちのきたうみ』（至光社）、『戦火のなかの子どもたち』（岩崎書店／翌年ちひろの没後、ライプチヒ国際書籍展銅賞受賞）を描く。●雑誌「子どものしあわせ」（草土文化）の表紙絵をまとめた『こどものしあわせ画集』（岩崎書店）出版。●秋、ガンのため代々木病院に入院。小康を得て退院。	1月、ベトナム和平協定調印。
1974	昭和 49 年　55 歳	●3月、病状が悪化し、再入院。●6月、あかちゃんの絵を描き絶筆となる。●8月8日、原発性肝ガンのため死去。	

アトリエで新聞を読むちひろと、その背にもたれる猛／1956 年晩秋（37 歳）

マーガレットの咲く自宅の庭で、夫・善明と／1968 年 5 月（49 歳）

愛犬チロとアトリエにて／1971 年（52 歳）

「ひざを抱える少年」を描くちひろ／1971 年（52 歳）

増築した母・文江の居室の縁側にて／1972 年（53 歳）

ボローニャ国際児童図書展でグラフィック賞を受賞したお祝いの席にて／1973 年（54 歳）

自宅にて／1973 年 4 月（54 歳）

日本の絵本画家

ちひろ美術館では、大正期に黄金期を迎え、その後の日本の絵本文化の礎となった岡本帰一、初山滋、清水良雄らの童画作品と、1945 年以降に活動を始めた絵本画家の作品を収蔵しています。なかでも、茂田井武、赤羽末吉、長新太、瀬川康男のまとまった遺作群は、現代日本の絵本研究に欠くことのできない貴重なコレクションとなっています。これらの作品群と歴史資料から、日本独自の豊かな絵本の歩みをたどることができます。

岡本帰一

Kiichi Okamoto 1888-1930

『コドモノクニ』表紙原画　1926 年

黒田清輝らが主宰した白馬会研究所に学び、のちに岸田劉生らとフュウザン会創立に参加。大正・昭和の絵雑誌「コド モノクニ」創刊時の絵画主任。1927 年日本童画家協会の結成に参加。

初山滋

Shigeru Hatsuyama 1897-1973

「不思議の国のアリス」1928 年

金属商、模様画工房で奉公、のちに日本画家・井川洗厓に学ぶ。「おとぎの世界」「コドモノクニ」など、子どもの本の仕事を数多く手がけた。1927 年日本童画家協会、1946 年日本童画会結成に参加。

茂田井武

Takeshi Motai 1908-1956

『セロひきのゴーシュ』（福音館書店）より　1956 年

太平洋画会研究所、川端画学校などで絵を学ぶ。1930 ～ 33 年渡仏。職を転々としたのち、雑誌「新青年」などに絵を描く。1946 年日本童画会入会。戦後日本の復興期に絵本、絵雑誌等の仕事で活躍。1954 年小学館児童出版文化賞受賞。

『月夜とめがね』より「青空の下の原っぱ」　1954 年

赤羽末吉

Suekichi Akaba 1910-1990

『つるにょうぼう』（福音館書店）より　1979 年

1932 年旧満州（中国東北部）に渡る。独学で絵を学び、満州国展特選賞を 3 回受賞。1947年帰国。50歳から絵本を描き始め、『スーホの白い馬』で 1968 年サンケイ児童出版文化賞、1975 年ブルックリン美術館絵本賞など受賞。1980 年全業績に対し、国際アンデルセン賞画家賞受賞。

『かさじぞう』（福音館書店）表紙　1961 年

長新太

Shinta Cho 1927-2005

『キャベツくん』（文研出版）表紙　1980 年

1948 年東京日日新聞のマンガコンクールに一等入選し、漫画家となる。1959 年『おしゃべりなたまごやき』で文藝春秋マンガ賞、1981 年『キャベツくん』で絵本にっぽん大賞、『ないた』で日本絵本賞大賞をはじめ受賞多数。日本におけるナンセンス絵本の第一人者。

瀬川康男

Yasuo Segawa 1932-2010

『いないいないばあ』（童心社）表紙　1967 年

13 歳より日本画、17 歳で油絵を始める。1967 年『ふしぎなたけのこ』で第 1 回 BIB グランプリ、1987 年『ぼうし』で絵本にっぽん大賞、1992 年『平家物語（全 9 巻）』で産経児童出版文化賞大賞ほか、国内外で受賞多数。絵本と平行してタブローも制作した。

井上洋介
Yosuke Inoue 1931-

『でんしゃえほん』（ビリケン出版）表紙　2000 年

武蔵野美術学校西洋画科卒業。1994 年『月夜のじどうしゃ』で講談社出版文化賞絵本賞、2001年『でんしゃえほん』で日本絵本賞大賞などを受賞。

西巻茅子
Kayako Nishimaki 1939-

『わたしのワンピース』（こぐま社）より　1969 年／2002 年

東京藝術大学美術学部卒業。美術家連盟版画工房に学び、1966 年日本版画協会展新人賞、同奨励賞を受賞。絵本や童話の挿絵のなど、幅広く活動している。

谷内こうた
Kota Taniuchi 1947-

『なつのあさ』（至光社）より　1970 年

東京生まれ。多摩美術大学油絵科中退。『なつのあさ』で 1971 年ボローニャ国際児童図書展グラフィック賞、『のらいぬ』で 1979 年 BIB 金のりんご賞などを受賞。現在はフランス在住、油彩画制作を中心に活動。

田島征三
Seizo Tashima 1940-

『ふきまんぶく』（偕成社）より　1973 年

幼少年期を高知県で過ごす。1962 年の『しばてん』以後、多数の絵本を制作。1969 年より日の出村のごみ処分場建設反対運動に関わる。2009 年十日町市鉢集落の廃校を「絵本と木の実美術館」、2013 年大島のハンセン病収容所を「青空水族館」として再生させ、アート活動を行っている。

和田誠
Makoto Wada 1936-

『ねこのシジミ』（ほるぷ出版）より　1996 年

多摩美術大学図案科卒業。1968 年よりフリーのグラフィック・デザイナー、イラストレーターに。絵本も多数手がける。デザイン、映画、書籍、展覧会など多分野にわたり受賞多数。

西村繁男
Shigeo Nishimura 1947-

『にちよういち』（童心社）より　1979 年

中央大学商学部在籍中からセツ・モードセミナーでクロッキー、水彩画を学ぶ。1985 年『絵で見る日本の歴史』、1990 年『ぼくらの地図旅行』で絵本にっぽん大賞、1996 年『絵で読む広島の原爆』で産経児童出版文化賞など受賞。

田島征彦
Yukihiko Tajima 1940-

『ふしぎなともだち』（くもん出版）より　2014 年

大阪府生まれ。京都市立美術大学染色図案科修了。1976 年『祇園祭』で BIB 金牌受賞、1978 年『じごくのそうべえ』で第 1 回絵本にっぽん賞受賞、2015 年『ふしぎなともだち』で日本絵本賞大賞受賞。型染の絵本や版画染色作品を制作している。

スズキコージ
Koji Suzuki 1948-

「やまのディスコティック」　2013 年

1972 年最初の絵本『ゆきむすめ』を発表。1987 年小学館絵画賞、1989 年『やまのディスコ』で絵本にっぽん賞、2008 年『ブラッキンダー』で日本絵本賞大賞をはじめ受賞多数。

荒井良二
Ryoji Arai 1956-

『ユックリとジョジョニ』（ほるぷ出版）表紙　1991 年

日本大学藝術学部卒業。2005 年アストリッド・リンドグレーン記念文学賞、2006 年「スキマの国のポルタ」で文化庁メディア芸術祭アニメーション部門優秀賞など国内外の受賞多数。

『となりのせきのますだくん』（ポプラ社）より　1991 年

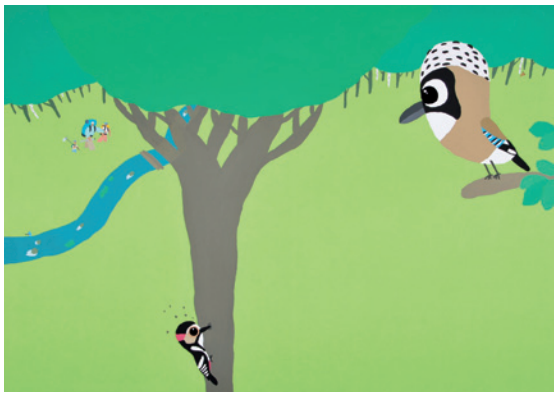
武田美穂
Miho Takeda 1959-

日本大学芸術学部中退。1992 年『となりのせきのますだくん』で講談社出版文化賞、2007 年『おかあさん、げんきですか。』で日本絵本賞大賞などを受賞。「ざわざわ森のがんこちゃん」（NHK）などのキャラクターデザインも手がける。

『ライオンのながいいちにち』（校成出版社）より　2004 年

あべ弘士
Hiroshi Abe 1948-

旭川市に生まれる。1972 年から 25 年間、旭山動物園の飼育係として勤務。1981 年『旭山動物園日誌』で絵本画家としてデビュー。1995 年『あらしのよるに』で講談社出版文化賞絵本賞、1999 年『ゴリラにっき』で小学館児童出版文化賞など受賞多数。

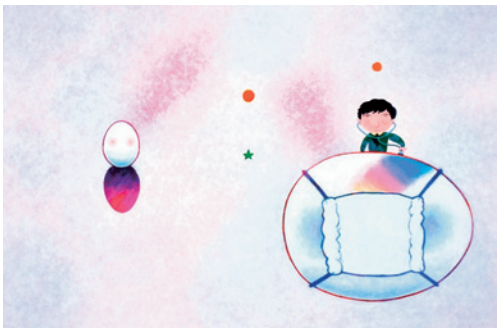


『ようこそ森へ』（福武書店／改訂版 2001 年　徳間書店）より　1988 年

村上康成
Yasunari Murakami 1955-

1989 年『ようこそ森へ』でボローニャ国際児童図書展グラフィック賞、1991 年『ピンク！パール！』で BIB 金牌、2003 年『なつのいけ』で日本絵本賞大賞などを受賞。

杉浦範茂
Hammo Sugiura 1931-



『かぜひきたまご』（講談社）より　1986 年

愛知県に生まれる。東京藝術大学図案科卒業。1970 年頃から絵本や児童書の仕事に着手する。1983 年『まつげの海のひこうせん』で絵本にっぽん賞大賞、1985 年芸術選奨文部大臣新人賞などを受賞。

出久根育
Iku Dekune 1966-

『マーシャと白い鳥』（偕成社）より　2005 年

武蔵野美術大学油絵学科卒業。2003 年『あめふらし』で BIB グランプリ、2006 年『マーシャと白い鳥』で日本絵本賞大賞受賞。現在、チェコのプラハを拠点に活動している。

Collection コレクション 3

世界の絵本画家

ちひろ美術館では、幅広い国の絵本画家の作品を収蔵しています。国際的な絵本賞の受賞者が多数含まれるほか、日本ではあまり知られていないアジア、中南米、アフリカの画家たちの作品もあります。そこには、画家たちの多様な個性とともに、それぞれの国や地域の文化的な伝統や風土が反映されています。ちひろ美術館のコレクションは、どの国や地域にも優れた絵本があり、その豊かな表現は国や世代を超えて人々の心に響くことを物語っています。

Eric Carle

エリック・カール 1929-［アメリカ］

ドイツ・シュツットガルト市の造形美術大学を卒業。初めての絵本『1,2,3 どうぶつえんへ』で 1970 年ボローニャ国際児童図書展グラフィック賞受賞。2002 年エリック・カール絵本美術館がアメリカに開館。

おんどり 1985 年

Anthony Browne

アンソニー・ブラウン 1946-［イギリス］

リーズ美術大学でグラフィックデザインを学ぶ。1983 年『すきですゴリラ』、1992 年『どうぶつえん』でケイト・グリーナウェイ賞を受賞。2000 年国際アンデルセン賞画家賞受賞。

『ウィリーはチャンピオン』より 1996 年

Klaus Ensikat

クラウス・エンヅィカート 1937-［ドイツ］

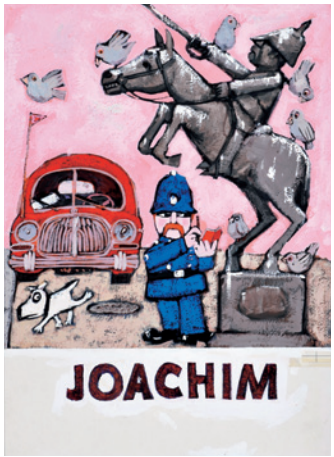
『4人の子ども、世界をまわる』表紙 1990-1992 年

ルーペを片手に描く細密描写が特徴。1979 年『ペロー童話集 おやゆび小僧』で BIB グランプリ、1972 年と 1992 年にはボローニャ国際児童図書展でグラフィック大賞、1996 年には国際アンデルセン賞画家賞受賞。

David McKee

デビット・マッキー 1935-［イギリス］

美術学校在学中から風刺漫画を手がける。1989 年『ぞうのエルマー』を発表。以後、20ヵ国以上で出版され、シリーズ19冊を出版。



『おまわりさんのヨアヒム』より 1975 年

Bimba Landmann

ビンバ・ランドマン 1968-［イタリア］

『ジョットという名の少年　羊がかなえてくれた夢』（西村書店）より 2002-2003 年

ブレラ美術アカデミーを卒業。1996 年イタリアのカステッロ賞特別賞受賞。『ジョットという名の少年〜羊がかなえてくれた夢』は各国で翻訳され、日本では 2000 年日本絵本賞翻訳賞を受賞。

Jana Kiselová-Siteková

ヤナ・キセロヴァー・シテコヴァー 1942-［スロヴァキア］

『おやゆびひめ』より　2001 年

ブラティスラヴァ美術工芸大学でグラフィックとイラストレーションを学ぶ。自然を愛し、植物や動物などを取り入れた作品が特徴。1995 年、2001 年に BIB 金のりんご賞受賞。

Dušan Kállay

ドゥシャン・カーライ 1948-［スロヴァキア］

『王女の誕生日』より　2001 年

ブラティスラヴァ美術大学で、ブルノウスキーに師事。現在、同大学教授。1973 年に BIB 金のりんご賞、1983 年に同展グランプリ、1988 年には国際アンデルセン賞画家賞を受賞。

Květa Pacovská

クヴィエタ・パツォウスカー 1928-［チェコ］

第二次大戦後、プラハの美術学校で応用美術を学ぶ。色彩に対する鋭敏な感覚と自由な発想で旺盛な創作活動を行い、絵本のほか、リトグラフや立体作品の制作も多い。1992 年国際アンデルセン賞画家賞受賞。

『紙の町のおはなし』（小学館）より　1999 年

Józef Wilkoń

ユゼフ・ヴィルコン 1948-［ポーランド］

『ミンケパットさんと小鳥たち』（習作）　1965 年

クラクフ美術大学で絵画を、ヤギェヴォ大学で美術史を学ぶ。1969 年 BIB 金牌、1987 年画業全体に対するポーランド出版協会大賞、その他国際展の受賞多数。

Andrea Petrlik Huseinović

アンドレア・ペトルリック・フセイノヴィッチ 1966-［クロアチア］

『いつか空のうえで』（小学館）より　2001 年

ザグレブ芸術アカデミー卒業。2001 年ユネスコ BIB ワークショップにて初の自作絵本『いつか空のうえで』を制作し、『不思議の国のアリス』とともに、2003 年度 BIB 金牌受賞。

Evgenii Rachev

エフゲーニー・ラチョフ 1906-1997［ロシア］

1930 年代後半からモスクワの児童文学出版所に入り、精力的に絵本制作に取り組む。戦後は次々と大作を発表。動物たちに人間的性格を重ねた表現が特徴。

『てぶくろ』（福音館書店）より　1950 年

Tatyana Mavrina

タチヤーナ・マーヴリナ 1902-1996［ロシア］

『メルヘン・アルファベット』より　1969 年

モスクワの高等美術工芸工房絵画部に学ぶ。制作の一方で民衆芸術の研究やイコンの模写にも取り組んだ。1975 年ソビエト国家賞、1976 年国際アンデルセン賞画家賞受賞。

Yuriy Norshteyn Francheska Yarbusova

ユーリー・ノルシュテイン 1941-
&フランチェスカ・ヤールブソワ 1942-［ロシア］

ノルシュテインはアニメーションの監督、妻のヤールブソワは美術監督として「きりのなかのはりねずみ」、「話の話」などの作品をふたりで制作している。

『きりのなかのはりねずみ』（福音館書店）より　2000 年

Wen Hsu

ウェン・シュウ 1976-［コスタリカ］

『ナディとシャオラン』より　2008 年

台湾に生まれ、2歳のときにコスタリカに渡る。米国ロードアイランド・スクール・オブ・デザインでイラストレーションを学ぶ。『ナディとシャオラン』で 2008 年野間国際絵本原画コンクール大賞を受賞。

Claudia Legnazzi

クラウディア・レニャッツィ 1956-［アルゼンチン］

『わたしの家』より　2001 年

国立プリリディアーノ・プエレドン芸術大学で美術を学ぶ。1992 年アルゼンチン児童文学カウンシルで最優秀挿絵賞、2002 年野間国際絵本原画コンクール大賞を受賞。

『ぼくのうちはゲル』より　2004 年

Bolormaa Baasansuren

ボロルマー・バーサンスレン 1982-［モンゴル］

モンゴル美術学院卒業。『馬上の話』がモンゴルで1999 年最優秀図書に選定。『ぼくのうちはゲル』で2004 年の野間国際絵本原画コンクール大賞受賞。

『舌ながばあさん』より　2001 年

Wu Jianhua

武建華 1942-［中国］

文化大革命中は炭坑労働や教師をしながら、連環画などを手がけた。『神女峰』で 1989 年 BIB 佳作受賞、『舌ながばあさん』で 2002 年講談社出版文化賞絵本賞受賞。

『姫君と望遠鏡』　2008 年

Ta Huy Long

タ・ヒー・ロン 1974-［ベトナム］

ハノイ工業美術大学卒業。専攻は建築学。イラストレーターとしてキムドン出版社に勤務している。2006 年ハノイ美術協会グランプリをはじめ、ベトナム国内で複数の賞を受賞。2008 年『姫君と望遠鏡』で第 16 回野間国際絵本原画コンクール佳作を受賞。

『怪物を捕りに行きたい』より　2004-2005 年

Park Chul Meen

パク・チョルミン 1966-［韓国］

秋渓芸術大学東洋画科卒業。絵本に『トラを捕まえた息子』など。1995 年韓国出版美術展特別賞受賞、1999 年韓国児童書文化大臣賞受賞。

絵本とイラストレーションの歴史資料

①

②

③

絵本とイラストレーションの歴史的価値をもった資料も約1,000点収蔵しています。安曇野ちひろ美術館の絵本の歴史展示室では、古くは紀元前エジプトでパピルスに描かれた『死者の書』の断簡から、中世ヨーロッパの時祷書の零葉、江戸時代の絵巻物や絵草子、19世紀末から大きく広まった子どものための書籍まで、各時代や地域で現代の絵本につながる作品や資料を展示し、絵本のルーツの奥深さを紹介しています。

④

⑤

⑥

⑦

⑧

❶『死者の書』断簡　年代不明　❷イスラム王朝系（ムガール）・ヒンドゥー教系（ラージプト）の細密画　16世紀　❸時祷書　写本1葉　15世紀　❹アーサー・ラッカム『イギリス妖精物語』1918年　❺ランドルフ・コールデコット『ジョン・ギルピンのゆかいなお話』1878年　❻リチャード・ドイル『妖精の国で』1870年　❼おもちゃ絵　明治時代　❽ヨハネス・アモス・コメニウス『世界図絵』1535年　❾赤本『枯木に花さかせ親仁』〈復刻版〉❿村山知義・表紙画「子供之友」第11巻第3号（婦人之友社）1924年　⓫奈良絵本『大織冠』江戸時代前期

⑨

⑩

世界各国の絵本の歴史に関する資料を収集

⑪

ちひろ美術館　収蔵作家一覧

ちひろ美術館コレクションには、現代絵本画家たちの作品や、絵本の歴史に関する作品の他にも、ちひろに影響を与えた画家の作品、館内に設置された立体作品なども含まれています。ここでは、画家名を国別に紹介します。 ＊1 寄託作品約6,500点を含む　＊2 2017年3月現在

イラン［2名］
ヌーレディン・ザリンケルク／フィールーゼ・ゴルモハンマディ

トルコ［1名］
ジョン・ギョクニル

イギリス［23名］
アーサー・ラッカム／アーネスト・シェパード／アンソニー・ブラウン／ウィリアム・ニコルソン／ウォルター・クレーン／エドワード・アーディゾーニ／エロール・ル・カイン／ケイト・グリーナウェイ／C. メアリー・バーカー／ジェニー・ウィリアムズ／ジョージ・クルックシャンク／ジョン・バーニンガム／チャールズ・キーピング／チャールズ・ドイル／デビット・マッキー／バーナデット・ワッツ／パット・ハッチンス／ビアトリクス・ポター／ブライアン・ワイルドスミス／ヘレン・オクセンバリー／マーガレット・タラント／ランドルフ・コールデコット／リチャード・ドイル

ロシア［14名］
イワン・ビリービン／ヴィクトル・ドゥヴィードフ／エフゲーニー・チャルーシン／エフゲーニー・ラチョフ／ジオドーロフ／スヴェトザール・オーストロフ／タチヤーナ・マーヴリナ／ニキータ・チャルーシン／ニコライ・ポポフ／ボリス・ディオドロフ／マイ・ミトゥーリッチ／マルク・シャガール／ユーリー・モギレフスキー／ユーリー・ノルシュテイン

スウェーデン［1名］
イロン・ヴィークランド

フィンランド［3名］
カーリナ・カイラ／ハンヌ・タイナ／ペッカ・ヴオリ

デンマーク［1名］
イブ・スパング・オルセン

スーダン［3名］
アラエルディン・エルジズーリ・ナイム／セイフ・エディーン・ロウタ／フセイン・ジャマアーン

南アフリカ共和国［2名］
フィオナ・ムーディ／ピエト・フロブラー

ドイツ［4名］
イヴァン・ガンチェフ／ビネッテ・シュレーダー／クラウス・エンヅィカート／ケーテ・コルヴィッツ

ポーランド［4名］
エルジュベータ・ガウダシンスカ／スタシス・エイドリゲヴィチュス／ヤヌシ・グラビャンスキ／ユゼフ・ヴィルコン

フランス［12名］
アントワーヌ・ブールデル／アンリ・ド・トーゥルーズ=ロートレック／エリック・バトゥー／オノレ・ドーミエ／J.J. グランヴィル／ジャン・クラヴリィ／トミー・ウンゲラー／フレデリック・クレマン／ピエール・ラプラード／マリー・ローランサン／モーリス・ドニ／モーリス・アスラン

チェコ［5名］
アドルフ・ボルン／イジー・トゥルンカ／ヴラスタ・バラーンコヴァー／クヴィエタ・パツォウスカー／ミルコ・ハナーク

スイス［1名］
ジータ・ユッカー

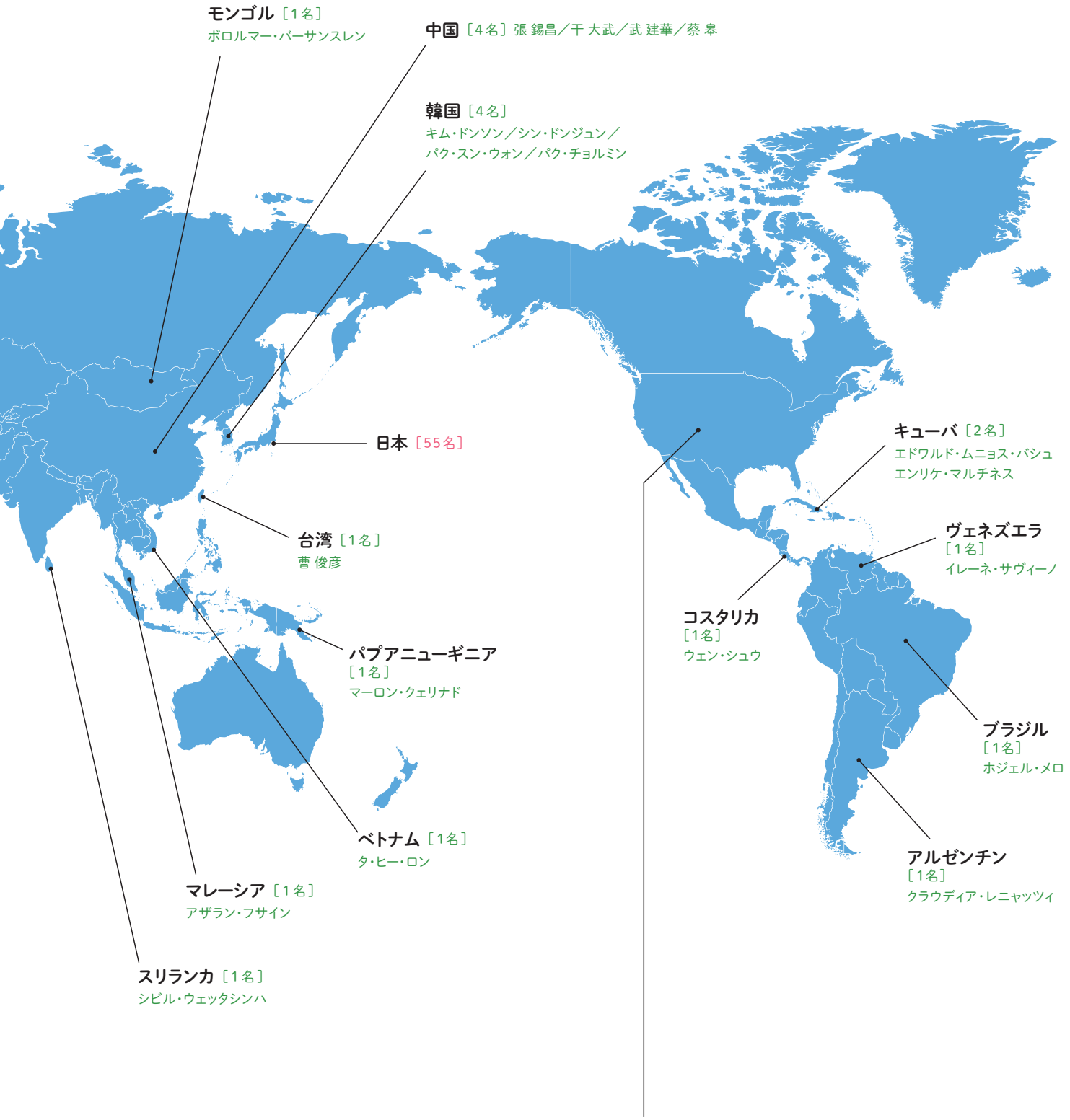
オーストリア［1名］
リスベス・ツヴェルガー

スロヴァキア［7名］
アルビーン・ブルノウスキー／ドゥシャン・カーライ／フランティシェック・ブラシュコ／カミラ・シュタンツロヴァー／ミロスラウ・ツィパール／ローベルト・ブルン／ヤナ・キセロヴァー＝シテコヴァー

イタリア［6名］
ベニ・モントレソール／マウリツィオ・オリヴォット／キアラ・ラパッチーニ／ロベルト・イノチェンティ／ビンバ・ランドマン／フルヴィオ・テスタ

スペイン［2名］
エミリオ・ウルベルアーガ／カルメ・ペリス

クロアチア［1名］
アンドレア・ペトルリック・フセイノヴィッチ



日本［55名］

藍澤ミミ子／赤羽末吉／秋野亥左牟／あべ弘士／荒井良二／有元利夫／石川豊雅／伊藤博敏／井上洋介／いわさきちひろ／岡本帰一／小笠原寛三／織茂響子／木村荘八／黒田征太郎／桑原宏／小林清親／清水良雄／杉浦範茂／杉田豊／鈴木珊吉／鈴木淳／スズキコージ／瀬川康男／清宮質文／武井武雄／武田美穂／田島征三／田島征彦／多田ヒロシ／田中英幸／谷内こうた／長新太／出久根育／寺内萬二郎／中野滋／中谷千代子／中谷　泰／西村繁男／西巻茅子／長谷川潔／初山滋／原田和男／深澤省三／本田庄太郎／前島とも／松山文雄／丸木位里／丸木俊／箕田源二郎／村上康成／茂田井武／八島太郎／山本新太郎／和田誠

アメリカ［39名］

アーノルド・ローベル／アニタ・シーガル／アニタ・ローベル／アリキ／ヴァレンティ・アンジェロ／ヴィクトリア・チェス／エイドリアン・アダムス／エヴァリン・ネス／エリザベス・マイルズ／エリック・イングラハム／エリック・カール／エレン・ラスキン／ジェームズ・スティーブンソン／ジェームズ・マーシャル／ジェラルド・マクダーモット ／シミアン・シミン／ジャン・シャロー／ジョーン・ウォルシュ・アングランド／シンディ・ゼッカーズ／ターシャ・テュードァ／デァ・ライト／トミー・デ・パオラ／ナンシー・グロスマン／ピーター・シス／フランク・ボッゾ／ヘレン・スウエル／ベン・シャーン／ポール・ゴルドン／マーク・シモント／マーチン&アリス・プロベンセン／マーティン・シャーロット／マービン・ビレック／モーリス・センダック／ユリー・シュルヴィッツ／リック・シュライター／ルートヴィッヒ・ベーメルマンス／レオ&ダイアン・ディロン／ロバート・クァッケンブッシュ／ワンダ・ガアグ

Photo Album ちひろ美術館と絵本画家たち

1988年11月
［東京館］
展示にあわせて来日した
ビネッテ・シュレーダーさん（ドイツ）
を囲んで

1990年3月
［東京館］
中庭で立体作品を制作する
クヴィエタ・パツォウスカーさん
（チェコ）

1998年10月
［東京館］
「中国の絵本原画展」会場にて
蔡皋さん（中国）自身による
ギャラリートーク

1999年5月
［安曇野館］
ユゼフ・ヴィルコンさん（ポーランド）を迎えて

2000年4月24日
［東京館］
「ちひろとあんの展」
レセプション会場の
安野光雅さんと佐藤忠良さん

2000年1月25日
［安曇野館］
エリック・カールさん、バーバラ・カールさん夫妻
（アメリカ）を囲んで

2002年11月5日
［東京館］
立体「ゴムあたまポンたろう」を
製作中の長新太さん

2004年10月26日
［安曇野館］
ウルフ・スタルクさんほか、スウェーデンの画家、
作家たちが来館

2006年12月2日
［東京館］
「ノルシュテインの絵本づくり展」会期中に来日、
対談中のユーリー・ノルシュテインさんと
高畑勲さん

2009年7月11日
［安曇野館］
個展に合わせて来日、トップバナーに
サインをするアンドレア・ペトルリック・
フセイノヴィッチさん（クロアチア）

2009年10月12日
［安曇野館］
ゲストブックにサインをする
シン・ドンジュンさん（韓国）

2009年11月29日
［東京館］
「武田美穂の絵本づくり」展で
ワークショップをする武田美穂さん

2014年5月17日
［安曇野館］
来日して制作した野外作品の前に立つ
ホジェル・メロさん（ブラジル）

2014年9月19日
［安曇野館］
「聖コージズキンの誘惑展」で
ライブペインティングをするスズキコージさん

2015年10月1日
［安曇野館］
ゲストブックを手にする
ジャン・クラヴリィさん（フランス）

2015年10月10日
［安曇野館］
「はしれ、トト！」展会場にて
チョ・ウンヨンさん（韓国）自身による
ギャラリートーク

2015年7月4日
［安曇野館］
サインをするファブリツィオ・ヴァン・
デン・ブレックさん（メキシコ）

2016年8月11日
［東京館］
「あべ弘士の動物王国」展会場にて、
あべさん自身によるギャラリートーク

教育普及活動
ちひろ美術館・東京

絵本に関する講演会のほか、ちひろが心を寄せた「平和」や「いのち」をテーマにした講座、子どもたちが人生で初めて訪れる「ファーストミュージアム」として親しんでもらえるよう、親子で参加できるイベントも年間を通じて開催しています。

1977
- 10月29日、12月17日　開館記念コンサート　vol.1（出演：佐藤紀雄）、vol.2（出演：甲斐説宗、鈴木昭男）

1978
- 2月3日　開館記念コンサート vol.3（出演：崎元譲）
- 9月20日、10月6日　開館1周年記念コンサート Ⅰ（出演：山下和仁）、Ⅱ（出演：佐藤紀雄）

1979
- 3月20日　上條恒彦リサイタル
- 4月7日　原田力男プロデュースによる音楽会（御喜美江、渡辺香津美、清水高師など、新進気鋭の音楽家によるコンサートを1986年まで14回開催）
- 6月2日、9日、16日、23日、30日　講演会「いわさきちひろの世界」 講師：箕田源二郎、永井潔、渡辺泰子、武市八十雄、飯沢匡

1981
- 8月15日　講演会「考えてみませんか　へいわときょういく　明日をつくる子どもたちのために…」飯沢匡 / 岩崎京子 / 小山内美江子 / 黒柳徹子（都市センターホールにて）

1984
- 7月10日　いわさきちひろ没後10年記念講演会「いわさきちひろの魅力―インターナショナルということ―」飯沢匡 /「ちひろさんの想い出」来栖良夫・渡辺泰子

1989
- 5月29日　マーガレット・マローニ氏講演会「オズボーン・コレクションについて」

1994
- 5月14日～6月25日　朝日カルチャーセンター　松本猛特別講座「子どもの本のイラストレーション」（全4回）
- 11月12日～12月24日　朝日カルチャーセンター　松本猛・松本由理子　特別講座「いわさきちひろ―人と人生」（全4回）

1997
- 7月29日、8月5日　夏休み鑑賞教室「ちひろ・水彩の秘密」「パツォウスカー・形の発見」
- 12月22日　瀬川康男絵本研究会

1998
- 1月12日　瀬川康男絵本研究会
- 8月16日　吉田ルイ子と山田洋次　記念対談「地球家族」

1999
- 9月26日　「絵本のじかん」が始まる（毎月第4土曜11:00から。2002年からはNCBN（ねりま子どもと本ネットワーク）の協力を得て、第2・第4土曜日。
- 11月23日　茂田井武展　ギャラリーツアー（解説：伊藤昭）とフリートーク

2000
- 3月4日　1990年代の日本の絵本を楽しむ会
- 4月22日　「ちひろとあんの」展記念「子どもをみつめて―絵と彫刻のはなし」佐藤忠良・安野光雅（朝日カルチャーセンター新宿にて）

2002
- 9月15日　開館記念講演会　黒柳徹子「世界の子どもたちは、今」
- 10月26日　ちひろが愛した「さとうきび畑」コンサート　寺島尚彦　寺島夕紗子　ピアノ：江川真理子
- 11月3日　「パーカッションとピアノが奏でるちひろと山本正道の世界」パーカッション：神田佳子　ピアノ：門光子

2003
- 1月11日　「長新太と西巻茅子の新春豪華対談」

- 5月16日～6月28日　「山田洋次セレクション・シネマ倶楽部」第1期　①5月16・17日『黄金狂時代』　②5月30・31日『自転車泥棒』　③6月13・14日『商船テナシチー』　④6月27・28日『道』（山田洋次講演日　5月17日）
- 6月21日　「世界の子どもたちは、今 2003 ―イラクの子どもたちは?」（講師：黒柳徹子）
- 10月4日～11月15日　「山田洋次セレクション・シネマ倶楽部」第2期　①10月4日『幸福の黄色いハンカチ』　②10月18日『第三の男』③11月1日『民族の祭典』④11月15日『キッド』『チャップリンの移民』『サニーサイド』（山田洋次講演日　10月4日、11月1日）

- 10月11日　開館1周年記念　内藤廣講演会「安曇野から東京まで」
- 12月5日　対談「まどさんを語る」河合隼雄・谷川俊太郎

2004
- 3月12日　没後30年記念「いわさきちひろの生涯をたどる旅」（毎日新聞社主催）中原ひとみ　お話と朗読（こけし屋にて）
- 7月24日　国境なき医師団　西野るり子講演会
- 8月4日　没後30年記念黒柳徹子講演会「ちひろと世界のこどもたち」（イイノホールにて）
- 10月2日～10月30日　「山田洋次セレクション・シネマ倶楽部」第3期　①10月2日『暗黒外街の顔役』②10月9日『無防備都市』③10月24日『君の名は』④10月30日『アイリス』（山田洋次講演日　10月2日、24日）

- 11月6日　ちひろと中国～ちひろと勃利に渡った栗原貞子さんに聞く「大陸の花嫁」　語り手：栗原貞子さん　聞き手：松本由理子
- 12月11日、25日、2005.1月8日、15日　長倉洋海講演会
- 12月23日　詩画集『肩車』出版記念　長田弘講演会

2005
- 3月12日　原田力男追悼コンサート
- 3月26日　詩画集『パンプルムース!』出版記念トークイベント　対談　江國香織と松本猛（紀伊国屋ホールにて）
- 5月28日　中村梧郎講演会「枯葉剤の30年―母は枯葉剤を浴びた―」
- 6月4日　黒柳徹子講演会「世界の子どもたちは、いま　2005」
- 7月16日　憲法フェスティバル　松本善明講演会
- 8月7日　アニメーション作家・高畑勲が語る　佐藤忠良といわさきちひろ

● 9月3日　松本由理子講演会「ちひろとベトナム」
● 9月19日　山田洋次セレクション・シネマ倶楽部 2005
「映画はこうしてつくられる―
『隠し剣鬼の爪』のメイキング映像を見ながら」

2006

● 1月8日　荒井良二×いしいしんじ　新春対談
● 4月1日　対談　高橋邦典×松本猛
● 6月24日　ありがとうチョーさん―旧友　長新太を語る―
大田大八×多田ヒロシ
● 7月29日　吉田恭子コンサート
（ヴァイオリン：吉田恭子、ピアノ：白石光隆）
● 9月16日　山田洋次セレクション・シネマ倶楽部 2006
「戦艦ポチョムキン」上映と講演会
● 12月2日　ユーリー・ノルシュテイン×高畑勲対談

2007

● 3月25日、4月8日、4月22日
開館30周年記念連続講演Ⅰ
講師：新井満×松本猛、佐藤卓、内藤廣
● 6月27日　黒柳徹子講演会
「世界の子どもたちは、いま　2007」
● 8月4日　講演　アーサー・ビナード
「ベン・シャーンの絵のあたらしさ」
● 8月18日　田島征三×西村繁男
「ぼくらの青春　汗とほこりにまみれた反戦野外展」
● 9月17日、10月14日
開館30周年記念連続講演Ⅱ
講師：太田治子、武市八十雄

2008

● 6月14日　ちひろと一茶関連企画「一茶俳句の魅力とふるさと柏原」
講師：中村敦子（一茶記念館学芸員）
● 7月21日　ロバの音楽座によるこどもコンサート
「愉快なコンサート」
● 8月1日　サントリー「水育」親子わくわく体験教室 in お台場「ちひろの水彩画にチャレンジ！」
● 8月3日ほか　なつ！こどもワークショップ「積木のラビリンス」
講師：森哲弥、ほか
● 10月25日　トーク「茂田井とコドモタチ」及川賢治（100%ORANGE）×広松由希子

2009

● 5月28日　日野原重明講演会「いのち―親と子の絆」
● 5月30日　「わらべうたあそび」が始まる。（講師：服部雅子。以後、毎年4～5回開催の恒例イベントに）
● 7月19日　スライドトーク「マリー・ローランサンの絵と人生」
講師：富安玲子（マリー・ローランサン美術館学芸員）
● 7月26日　アン・サリーコンサート
● 8月8日　松本由理子講演会「ちひろが教えてくれたこと」
● 11月29日　武田美穂のワークショップ「ともだちおばけをつくろう！」
● 12月19日　谷川俊太郎・谷川賢作親子コンサート

2010

● 3月13日　対談　山田洋次×松本春野
「映画と絵本の『おとうと』を語る」
● 4月4日　太田治子講演会
「ちひろとみすゞ」
● 5月29日　赤羽茂乃講演会「赤羽末吉の人生」
● 7月16日　対談　上野千鶴子×松本由理子
● 9月20日　長谷川義史講演会
「ぼくが描いた絵本たち」

● 10月16日　シンポジウム「2000年代の日本の絵本を語る」
パネリスト：土井章史、広松健児

2011

● 1月15日　講演会「ちひろとちひろが愛した画家たち
丸木位里、俊とちひろ」
講師：岡村幸宣（原爆の図丸木美術館学芸員）
● 3月21日　ピアニカ王子がやってくる！
大友剛が奏でる『窓ぎわのトットちゃん』
● 5月18日　国際博物館の日記念行事　ちひろ美術館・東京
たてもの探検ツアー
● 5月28日　紺野美沙子によるおはなしの会
● 9月3日　パパ's絵本ライブ
● 11月12日　谷川俊太郎と絵本の仲間たち関連イベント　対談
谷川俊太郎×和田誠

2012

● 4月7日　ちひろと香月泰男展
関連イベント　特別対談　野見山暁治×大石芳野
● 3月11日　講演会「福島県いわき市　震災の現場から」
講師：織田好孝（いわき放射能市民測定室代表）
● 7月14日　ドキュメンタリー映画公開記念関連イベント　海南友子講演会「映画制作を通して出会ったちひろ」
● 7月22日　鎌田實講演会「困難な時代をどう生きるか
―チェルノブイリ、フクシマをみつめて―」
● 9月8日　東京館開館35周年記念　内藤廣講演会
「人・暮らし・建築」
● 9月23日　末盛千枝子講演会「絵本を通して伝えたいこと」

2013

● 1月12日　講演会「被災地からの子どもの声」　講師：太田久美（チャイルドライン支援センター代表理事）
● 8月10日　大塚敦子講演会「ともに生きるということ」

2014

● 4月20日　クヴィエタ・パツォウスカー展関連トークイベント
「チェコの文化と子どもの本の魅力」
講師：三浦太郎、高嶺エヴァ
● 4月29日　ちひろ没後40年記念　平山知子講演会
「ちひろさんとわたし、そして憲法の話」
● 5月22日　『窓ぎわのトットちゃん』朗読と対談の集い
対談：黒柳徹子×山田洋次、聞き手：内藤廣
● 6月7日　山田真講演会「福島について伝えたいこと」
● 7月26日、27日
ちひろになれる！7つの法則―技法徹底解剖―関連
ちひろの水彩技法体験ワークショップ
● 8月30日　鼎談　佐藤卓×面出薫×松本猛
“ちひろとデザイン”を語る
● 12月6日　没後40年記念　酒井京子講演会
「いわさきちひろと紙芝居」

2015

● 1月15日　「感じる、気づく、そして未来を考える―表現者が問いかけるもの　いわさきちひろ×松本猛・大島ミチル・村治佳織・高畑勲」（津田ホールにて）
● 9月27日　非戦70年記念　高畑勲講演会
「いわさきちひろの絵が語るもの」

2016

● 7月3日　〈企画展〉村上春樹とイラストレーター関連イベント
担当編集者が語る村上春樹の作品とイラストレーション
講師：寺島哲也（新潮社）
● 8月11日　あべ弘士の動物王国展関連イベント
あべ弘士講演会「旅と絵本と動物と」
● 11月13日　あかちゃん鑑賞会
講師：冨田めぐみ
（NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表）

教育普及活動
安曇野ちひろ美術館

絵本や美術、美術館をより身近に感じてもらうための活動を中心に、美術大学や地元の小中学校など学校と連携した教育活動にも取り組んでいます。また自然豊かな地域の特色をいかした活動にも力を入れています。

1998
- 6月10日　特別講演「赤羽末吉の世界」　講師：松本猛
- 11月11日　岸田衿子講演会「中谷千代子さんの絵本」

1999
- 3月～　第2・4土曜日の「おはなしの会」「ギャラリートーク」開始
- 4月18日　安曇野ちひろ美術館コンサート「上條恒彦　ちひろを歌う」

2000
- 7月30日、9月10日　親子で楽しむワークショップ　流木アートⅠ―動物―　講師：齊藤清

2001
- 2月28日　新館オープン記念「黒柳徹子／山田洋次トークの夕べ」（松本市音楽文化ホールにて）
- 5月26日　ギャラリートーク「椅子はアートだ！座り心地だ！信州の若手作家10人の椅子展」　語り手：上野英彦（家具工房クラポ）
- 6月9日　ユゼフ・ヴィルコンと松川村中学生との交歓会
- 11月30日　松川小学校5年生の公開授業

2002
- 3月24日　松川村民のための安曇野寄席
- 4月～　松川村民への「赤ちゃんと絵本の出会い活動」開始
- 7月27日～8月19日　中学生ボランティアによる島添昭義展展覧会ボランティア
- 8月24日、25日　安曇野アートラインサマースクール～あなたの感じる安曇野をかたちに～　講師：島添昭義
- 10月6日、10月27日、11月10日、11月24日　ちひろが愛した映画上映会

2003
- 4月5日　荒井良二ワークショップ「自分を応援する旗をつくろう」
- 4月6日　対談「荒井良二さんと小野明さんの絵本対談」
- 5月10日　講演会「松本とちひろを語る」　講師：平山知子、松本猛（あがたの森文化会館講堂にて）
- 7月12日、7月13日　公開授業「音のかけらをつくろう」講師：金沢健一
- 7月26日～8月20日　松川中学生による金沢健一展展覧会ボランティア
- 8月30日、8月31日　安曇野アートラインサマースクール「のぞいてみようよ安曇野を！つくってみようよぼくらの王国！」
- 11月～　「安曇野スケッチセット」貸出し開始

2004
- 3月21日、4月11日　スライドレクチャー「ちひろ・平和への願い」
- 4月17日　寺島尚彦さん追悼―ちひろが愛した歌―さとうきび畑コンサート　演奏：寺島夕紗子、江川真理子
- 7月24日～8月19日と8月20日以降の会期中の土日祝日　松川中学生による原田和男展展覧会ボランティア
- 7月31日、8月1日　安曇野アートラインサマースクール「みんなでさけぼうあずみっけ！音ぬしさまみーつけた」講師：原田和男
- 10月3日　没後30年記念対談「いわさきちひろの素顔を語る」　松本善明・松本猛

2005
- 4月28日　松川中学校での長倉洋海講演会「君の笑顔が世界に広がる」（松川中学校体育館）
- 5月～1年間　松川小学校3年ろ組「安曇野ちひろ美術館をテーマにした総合学習での取り組み」
- 7月17日　出前授業「ちひろ・平和への願い」（辰野高校；辰野町）
- 7月16日～8月21日　多目的ギャラリーに「中学生ボランティアと楽しむ夏休み体験コーナー」設置（ちひろの水彩技法・吉田重信「らくがき」ワークショップ体験）
- 7月30日、7月31日　安曇野アートラインサマースクール「風、青い空、ぼくもわたしもひらひらたなびく」

2006
- 4月15日　原語で楽しむおはなしの会～中国とモンゴルの絵本～
- 4月15日、6月23日、9月1日、9月22日、11月27日　museum concert vol.1 ～5　中国の民族楽器　二胡ギャラリーコンサート、ほか
- 6月10日　女優・渡辺美佐子による　金子みすゞ詩の朗読会
- 6月18日　出前授業と複製画展「スクールミュージアム」（上田市立第四中学校にて）
- 7月14日　西尾路子公開授業「絵で椅子を作る」
- 7月27日～8月21日　松川中学生による西尾路子展展覧会ボランティア
- 7月29日、30日　安曇野アートラインサマースクール「村にとびだせ！イロイロワイワイ色職人」
- 10月7日他　原語で楽しむおはなしの会～韓国の絵本～
- 10月20日　松川村わんぱく探偵団　美術館探検と水彩技法体験

2007
- 3月11日、3月25日、4月8日、4月22日　chihiro cinemaⅠ ノルシュテインの映画上映会
- 4月7日　原語で楽しむおはなしの会～ノルシュテイン（ロシア）の絵本～
- 4月21日　吉田恭子ヴァイオリンコンサート～いわさきちひろと吉田恭子の世界～
- 5月20日、6月3日、6月17日、7月1日　スライドトーク「ちひろのふるさと・信州」
- 6月24日、7月7日　原語で楽しむおはなしの会～スリランカの絵本～
- 7月27日～8月21日　松川中学生による夏休み体験コーナーボランティア
- 7月28日、7月29日　安曇野アートラインサマースクール「チョキチョキ、ペッタンただいま安曇野はりかえ中！」
- 10月27日、11月24日　chihiro cinemaⅡ ちひろが愛した映画上映会「トップハット」、Ⅲ 日本の名画上映会「愛染かつら」

2008
- 6月7日、7月5日　原語で楽しむおはなしの会～ドイツ語で絵本を楽しもう！～
- 7月26日～8月18日　松川中学生による夏休み体験コーナーボランティア（松川中学校図書委員による絵本の読み聞かせが始まる）

● 7月27日　中川美保サクソフォンギャラリーコンサート
● 8月9日～10日
安曇野アートラインサマースクール
「みんなで見上げよう、今日だけの空」
● 10月4日　絵本作家武田美穂のワークショップ
「みんなでつくろう！ぼくたち・わたしたちの町」

2009

● 4月11日　「フォト×俳句」展関連企画　「フォト×俳句」を語る対談
中谷吉隆（写真家）×坊城俊樹（俳人）
● 7月12日　アンドレア・ペトルリック・フセイノヴィッチ
「自作絵本を語る」
● 7月18日　『いのちのバトン』出版記念
日野原重明「いのち―親と子の絆」
● 7月28日～8月17日
松川中学生による夏休み体験コーナーボランティア
● 8月8日～9日　安曇野アートラインサマースクール
● 8月9日　吉永小百合　原爆詩の朗読会　講師：吉永小百合、山田洋次
● 11月7日　原語で楽しむおはなしの会　（ポーランド語）

2010

● 3月20日　アン・サリーコンサート
「母のまなざし」
● 6月12日　対談「絵本と子育て」
佐々木宏子×竹迫祐子
～子どもの成長にとって絵本とは?～
● 7月21日～8月17日
松川中学生による夏休み体験コーナーボランティア
● 7月31日～8月1日
安曇野アートラインサマースクール
● 8月29日　対談「いわさきちひろ、平塚らいてう、母の想い」
太田治子×飯島ユキ
● 12月12日　谷川俊太郎・谷川賢作　クリスマスコンサート

2011

● 5月22日、29日
工芸の五月2011「子どものための工芸」展
関連ワークショップ「再生紙でつくるモビール」
講師：森友見子ほか
● 6月4日　茂田井武の幻灯会とミニトーク　講師：後藤暦
● 7月23日～8月17日
松川中学生による夏休み体験コーナーボランティア
（美術館探検ツアーガイドが始まる）
● 7月30日～31日
安曇野アートラインサマースクール

2012

● 7月15日　高橋和真パッケージクラフト展関連企画
作家によるギャラリートーク
● 7月27日～8月18日
松川中学生による夏休み体験コーナーボランティア
● 8月25日　子どものしあわせと平和―ちひろ+黒柳徹子―展示関連イベント「ピアニカ王子のマジックと音楽で奏でるいのちのコンサート」

2013

● 4月14日　「手から手へ」展出品作家による
ワークショップ「HANDMADE（手で作る）」
講師：アレックス・デ・ウォルフ
● 5月18日、19日
絵本『ブルムカの日記』原画展関連企画　ポーランドの画家イヴォナ・フミェレフスカによるギャラリートークとワークショップ
● 6月30日　「ちひろの子ども歳時記」展関連イベント
わらべうたあそび

● 7月27日～8月17日
松川中学生による夏休み体験コーナーボランティア
● 10月13日　絵本画家・武田美穂による絵本講座

2014

● 4月20日　絵本『窓ぎわのトットちゃん』朗読会
読み手：蔵田玲子（abn長野朝日放送アナウンサー）
● 6月21日　絵本作家ホジェル・メロの世界を楽しむブラジルの夕べ
● 7月26日～8月17日
松川中学生による夏休み体験コーナーボランティア
● 7月27日　「びっくり！絵本動物園」関連企画
動物のこと教えて！飼育員さん
● 8月8日　ちひろ没後40年記念講演「長男・猛が語るちひろ」
● 9月20日　聖コージズキンの誘惑展関連ワークショップ　ズキンDEパレード ～イカス服とイカス王冠をつくろうぜぃ～
● 10月11日～12日
絵本体験ワークショップ　トットちゃんの電車がやってくる！

2015

● 4月18日　まるごとちひろ美術館展関連企画
「建築家・内藤廣が語るちひろ美術館」
● 4月29日、5月23日、6月6日、7月11日、8月9日、8月29日、9月22日、10月25日、11月8日
『窓ぎわのトットちゃん』展関連活動：「飯ごう炊さんの会」「トットちゃんのリトミック体操」「トットちゃんの肝だめし」「畑の先生・収穫祭」ほか

● 7月4日　ちひろ・非戦の誓い展関連企画「写真家・石川文洋　平和を語る」―講演会&ドキュメンタリー映画上映会―
● 7月17日　佐藤卓によるアーティストトーク

● 7月29日～8月16日
松川中学生による
いわさきちひろ×佐藤卓=展展覧会ボランティア
「ちひろの絵と箱（ハコ）ラボレーション」
● 10月10日、11日
チョ・ウンヨン展関連イベント
「チョ・ウンヨンと絵本を楽しもう」

2016

● 3月～　トットちゃんの部屋　「海のものと山のもののお弁当をつくろう」ワークショップ
● 5月14日　「あべ弘士の動物王国」展関連イベント　あべ弘士によるワークショップ
● 7月30日～8月16日
松川中学生による夏休み体験コーナーボランティア
● 10月10日　「わたしのトットちゃん」　ピエゾグラフ展関連イベント
世界のことばで楽しむトットちゃん

● 11月13日　「長新太の脳内地図」展関連イベント
パパ's絵本プロジェクトの絵本ライブ！

国際交流活動

ちひろ美術館では、1977年の開館以来、日本国内にとどまらず海外にむけてもさまざまな形でいわさきちひろや絵本文化の発信を続けています。各国で開催される絵本原画展、ブックフェア等への参加や、世界各地の画家、絵本美術館、図書館への訪問、当館での研修受入等を通じて、多くの交流を重ねてきています。

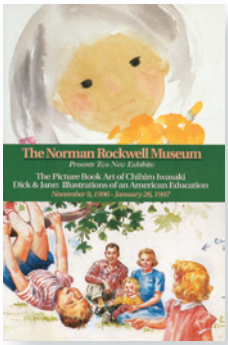
1985年	9月	●第10回BIB（ブラティスラヴァ世界絵本原画展）のシンポジウムに参加
1986年	8月	●IBBY（国際児童図書評議会：International Board on Books for Young People）の「子どもの本世界大会」東京開催に際し、各国からの絵本関係者50名を館に迎え、交流する
1987年	9月	●BIBに国際審査員として参加
1988年	9月	●プレミ・カタロニア（バルセロナ世界絵本原画展）に国際審査員として参加。チェコのクヴィエタ・パツォウスカー氏がグランプリを受賞
	11月	●特別展「幻想へのいざない　ビネッテ・シュレーダー展」開催にあたり、シュレーダー氏を日本に招き、交流
1989年	4月	●イタリア・ボローニャで開催された「国際児童図書展」に参加、世界の子どもの本のイラストレーション、文化に関する情報交換を行い、各国の絵本関係者と交流
1990年	3月	●クヴィエタ・パツォウスカー氏が、展覧会にあわせ初来日●チェコスロヴァキアにて、現代日本絵本画家展開催に協力、講演を行う
1991年	5月/10月	●アメリカ（5月）、ヨーロッパとロシア（10月）を中心に10ヵ国を巡り、コレクションに努める
	11月	●アジア圏で初めて開催されたイランのテヘランでの国際絵本原画展（TIBI）に絵本賞の審査委員として参加
1993年	11月	●ノーマン・ロックウェル美術館、チルドレン・ミュージアムなどを訪問、視察と交流を行う
1995年	8月	●アメリカ・ミネソタ大学にて開催された日米児童文学セミナーに参加。日本の絵本文化に関する普及に努め、当地研究者と交流するとともに、カーラン・コレクションを調査
	12月	●ユゼフ・ヴィルコン氏（ポーランド）を訪ね、交流を深めるとともに作品72点を購入
1996年	11月	●ノーマン・ロックウェル美術館（アメリカ）にて、ちひろ展開催。（海外の美術館での最初のちひろ展）
1997年	4月	●安曇野ちひろ公園の石のオブジェ制作と、安曇野ちひろ美術館のオープニング出席のためにクヴィエタ・パツォウスカー氏が来日
1999年	5月	●パツォウスカー氏再び来日。安曇野館でワークショップを行ったあと、東京館にも来館。箕田源次郎理事長、山田洋次理事（いずれも当時）、職員たちと交流を深める
	7月	●中国を訪問、子どもの本の出版状況を調査するとともに、絵本画家、研究者、出版関係者との交流を深める
	9月	●ミュンヘンの国際児童図書館（ドイツ）を訪問、ちひろ関連図書を寄贈するなど普及活動を行う
	11月	●東京で開催されたIBBY国際理事会に際し、来日中の役員らの安曇野ちひろ美術館視察を受け入れ、交流を深める
2002年	11月	●エリック・カール美術館（アメリカ）開館記念式典に出席、姉妹館提携の可能性を視野に入れ交流を深める

BIBシンポジウムに松本猛が初参加［1985.5］

BIBの審査風景［1986.6］

ロシアのラチョフ氏を訪問［1991.10］

テヘラン開催のTIBIでの審査風景［1991.11］



ノーマン・ロックウェル美術館でのちひろ展のポスター［1996.11］

パツォウスカー氏を囲む会［1999.5］

2003 年	1 月	●エリック・カール美術館（アメリカ）での研修に職員を派遣
	11 月	●中国の大連、ハルピン、勃利、七台河を訪れ、旧満州でのいわさきちひろの足跡をたどる調査を行う
2004 年	4 月	●ノーマン・ロックウェル美術館（アメリカ）での研修に職員を派遣
	7 月	●中国・大連　遼寧師範大学で「いわさきちひろピエゾグラフ展」を開催する
2005 年	3 月	●ベトナムを訪問し、ベトナム女性同盟や子ども基金との交流を深める。絵本『母さんはおるす』の舞台となったチャビン省タム・ガイ村も訪問、主人公の子どもたちと交流を深める／3 月 13 日～ 3 月 18 日
	9 月	● BIB のシンポジウムに参加。「いわさきちひろをはじめ日本におけるアンデルセンの絵本」について講演 ●韓国ソウルのパジュ・ブックシティにて、ちひろ美術館の絵本の歴史資料と、いわさきちひろのピエゾグラフ作品を展示する
	11 月	●戦後 60 年、ベトナム戦争終結 30年を記念して、ベトナム女性博物館（ハノイ市）とベトナム南部女性博物館（ホーチミン市）にて、ベトナムではじめてのピエゾグラフによる、いわさきちひろ展を開催／11 月 21 日（月）～ 11 月 27 日（日）、12 月 2 日（金）～ 12 月 10 日（土）
2006 年	9 月	●中国・南京芸術大学で絵本に関する講演と交流会を行う／9 月 19 日（火） ●中国・マカオで開催された IBBY 世界大会に参加し、絵本関係者との交流を深める
	11 月	●ベトナム・チャビン総合博物館で「いわさきちひろピエゾグラフ展」を開催する／11 月 21 日（火）～ 27 日（月）
	12 月	●ベトナムホーチミン市の戦争証跡博物館、ほか 1 館にて、「いわさきちひろピエゾグラフ展」を開催／12 月 20 日（水）～ 2007 年 2 月 10 日（土）
2008 年	10 月	●ベトナム・ハノイ市の女性同盟出版より『戦火のなかの子どもたち』『母さんはおるす』をベトナム語でチャリティー出版する
2009 年	1 月	●韓国ソウルでの CJ 絵本文化フェスティバルに国際審査員として参加
	2 月	●台湾・台北国際ブックフェアに出展、当財団の理念や美術館の活動、いわさきちひろの紹介を行う
	4 月	●ベトナム・ハノイにて国際交流基金の協力のもと、「いわさきちひろピエゾグラフ展」を開催／4 月 28 日（火）～ 5 月 22 日（金）
	5 月	●韓国ソウルの国際ブックフェスティバルにて、日本の絵本の歩み展開催
	9 月	● BIBのシンポジウムに参加。「日本におけるアリスの絵本」について講演 ●ベトナム・ホーチミンのツーヅー病院より医師らを東京館に迎える
2010 年	1 月	●「いわさきちひろピエゾグラフ展」を韓国ソウル国際交流基金ソウル日本文化センターにて開催、講演を行う／1 月 25 日（月）～ 2 月 20 日（土）。 その後の巡回先は次の通り。 在韓国日本大使館広報文化院 2 月 23 日（火）～ 3 月 13 日（土）、ソッパ子ども図書館（ソウル）3 月 17 日（水）～ 4 月 7 日（水）、ロッテギャラリー（アニャン）7 月 15 日（木）～ 7 月 26 日（月）、ロッテギャラリー（テジョン）7 月 29 日（木）～ 8 月 11 日（水）、アートセンター（ソンサン）10 月 1 日（金）～ 10 月 9 日（土）

ノーマン・ロックウェル美術館での研修に参加［2004.4］

遼寧師範大学（中国・大連）でいわさきちひろピエゾグラフ展開催［2004.7］

ベトナム南部女性博物館（ホーチミン市）でいわさきちひろピエゾグラフ展開催［2005.12］

ベトナム戦争証跡博物館（ホーチミン市）でいわさきちひろピエゾグラフ展開催［2005.6］

ベトナム、ホーチミン市の医師らが東京館来館［2009.9］

イスラエルのギャラリー・ヒビノにちひろの紹介コーナー誕生［2010.7］

国立中央図書館台湾分館でいわさきちひろピエゾグラフ展開催［2010.7］

北京国立中央美術学院で「ちひろと日本の絵本展」開催［2010.9］

2010 年	7 月	●日本の工芸品を取り扱うイスラエルのギャラリー・ヒビノに、ちひろの紹介コーナーが誕生。ちひろの絵葉書や額絵、ちひろの言葉、ちひろ美術館の案内等が紹介される●年間 200 万人が利用する台湾最大の公共図書館、国立中央図書館台湾分館（現・国立台湾図書館）で「いわさきちひろピエゾグラフ展」を開催する／ 7 月 31 日（土）～ 9 月 12 日（日）
	9 月	●台湾・国立台東教育会館にて「いわさきちひろピエゾグラフ展」を開催する／ 9 月 18 日(土)～ 10 月 3 日(日)●中国・北京 の国立中央美術学院で、同学院と当財団の共催で、「ちひろと日本の絵本展」を開催する／ 9 月 24 日（金）～ 9 月 29 日（水）
	10 月	●中国・北京の国際交流基金日本文化センターにおいて、同センターと当財団の共催で、「いわさきちひろと日本の絵本展」を開催する／ 10 月 29 日（金）～ 11 月 20 日（土）
	11 月	●国立台東大学児童文学研究所、誠品書店と当財団の共催で、台湾・台中　ギャラリー CMP BLOCK にて「いわさきちひろピエゾグラフ展」を開催する／ 11 月 5 日（金）～ 11 月 21 日（日）●韓国南部にある、慶北大学美術館、国際交流基金ソウル日本文化センターと当財団の共催で、韓国・慶北大学美術館にて「ピエゾグラフによるいわさきちひろ展」と、日本の絵本の歩みの展示を開催する／ 11 月 8 日（月）～ 12 月 10（水）
2011 年	5 月	●韓国、キメ（金海）市、キメ芸術スポーツセンター、国際交流基金ソウル日本文化センター、韓国の本文化財団（Book Culture Foundation）と当財団の共催で、同センターにて「ピエゾグラフによるいわさきちひろ展と日本の絵本の歴史展」を開催する／ 5 月 1 日（日）～ 6 月 12 日（日）
	6 月	●韓国の済州島の済州現代美術館にて、済州現代美術館、在韓国釜山日本総領事館、国際交流基金ソウル日本文化センターと当財団の共催で、「ピエゾグラフによるいわさきちひろ展」を開催する／ 6 月 18 日（土）～ 7 月 26 日（火）
	8 月	●台湾の国立台湾図書館で、当館のコレクション画家の一人でもある、曹俊彦氏の大規模な回顧展開会式に参加し、台湾の絵本画家たちと交流する●ベトナム・ハノイの国際交流基金ベトナム日本文化交流センターにおいて、同センター、ニャーナム出版、そして当財団の共催にて、ピエゾグラフによる「ちひろとトットちゃん展」を開催する／ 8 月 9 日（火）～ 31 日（水）
	8 ～ 9 月	●「ピエゾグラフによるいわさきちひろ展」を開催した、戦争証跡博物館（ホーチミン）、南部女性博物館（ホーチミン）、女性博物館（ハノイ）の各館を再訪し、活動協力について意見交換、交流を深める
2012 年	1 月	●イギリスのニューキャッスル市にある、子どもの本の美術館とアーカイヴ、セブン・ストーリーズを視察するとともに、学芸員と相互の館についての情報を交換する
	3 月	●中国・杭州の杭州図書館の児童書閲覧室で、日中交流センター、杭州図書館、当財団の共催で、「日中国民交流友好年 杭州のふれあいの広場開設記念ちひろとトットちゃん展」を開催する／ 3 月 17 日（土）～ 4 月 15 日（日）
	4 月	●展示を経て交流の始まった、韓国のキメ（金海）市図書館政策課を訪問し、キメ奇跡の図書館を視察
	5 月	●韓国のキメ（金海）市から、キメ奇跡の図書館司書の方 4 名が安曇野館に来館●中国・広州の中山大学外語学院で、日中交流センター、中山大学外語学院、当財団の共催にて「ちひろとトットちゃん展」を開催する／ 5 月 7 日（月）～ 6 月 2 日（土）

韓国・キメ芸術スポーツセンターでいわさきちひろピエゾグラフ展と日本の絵本の歴史展開催［2011.5］

中国・杭州の杭州図書館にて「ちひろとトットちゃん展」開催［2012.3］

韓国・キメ奇跡の図書館より司書の方らが安曇野館に来館［2012.5］

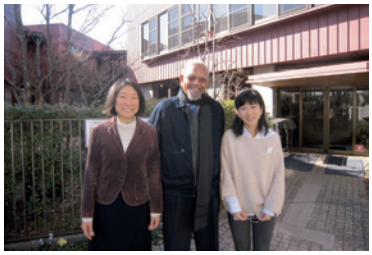
中国・南京の金陵図書館で「ちひろとトットちゃん展」開催［2012.6］

ハノイの国際交流基金ベトナム日本文化交流センターにて、いわさきちひろピエゾグラフ展開催［2013.9］

2012 年	6 月	●中国・南京の金陵図書館で、日中交流センター、金陵図書館、当財団の共催にて「ちひろとトットちゃん展」を開催する／6月16日（土）～7月15日（日）
	12月～2月	●ミュンヘンの国際児童図書館（ドイツ）での研修に職員を派遣
2013 年	4 月	●国立サンクトペテルブルグ歴史と文化児童図書館にて、ロシアで初の複製画による「いわさきちひろの絵本展」を開催／4月2日（火）～5月18日（土）
	9 月	●ベトナムと日本の外交樹立40周年を迎えた2013年、日越友好年を記念して、ハノイの国際交流基金ベトナム日本文化交流センターにて、「ピエゾグラフによるいわさきちひろ展」を開催／9月28日（土）～10月27日（日）
	10 月	●ドイツ・フランクフルトで開催されたブックフェアを視察／10月9日（水）～13日（日）
2014 年	5 月	●シンガポールにおける AFCC アジア子どもコンテンツフェスティバルへ参加、講演を行う／5月30日（金）～6月4日（水）
	10 月	●タイではじめての「ピエゾグラフによるいわさきちひろ展」と「いわさきちひろと日本の絵本の歴史 ―絵因果経から現代の絵本まで―」展を、バンコクアートアンドカルチャーセンター BACC（タイ）にて開催／10月5日（日）～11月6日（木）●来日中の、AFCC事務局長、ラマチャンドラン氏が東京館に来館
	11 月	●韓国で絵本美術館建設を計画している絵本美術館準備委員16名の当館での視察、研修を受け入れ、館の活動や理念を伝えるとともに、合同研修会を持ち、絵本美術館のあり方や役割についての討議・意見交換を行う／11月22日（土）～23日（日）●インド国内各所で開催される子どもの本のフェスティバル BOOKAROO のデリー大会に参加、インドの子どもたち約60名を対象に、いわさきちひろの作品を紹介するとともにその水彩技法体験のワークショップを行う／11月29日（土）
2015 年	5月/10月	●中国東北部におけるいわさきちひろの足跡を訪ね、大連、ハルピン、勃利、長春の各地にて調査を行う。10月には、勃利公立図書館において、「いわさきちひろ複製画展」を開催／5月24日（日）～29日（金）、10月13日（火）～19日（月）
	10 月	●中国北京で開催された絵本セッションに参加し、日本の絵本文化といわさきちひろについて講演を行う／10月20日（火）、21日（水）
	12 月	●インドではじめてピエゾグラフによる「いわさきちひろと日本の絵本展」を、国際交流基金ニューデリー日本文化センターにて開催。講演を行うとともに、地元の小中学生を招いて水彩技法体験のワークショップを開催 2016年には、ジャイプールに巡回／12月1日（火）～2016年1月15日（金）
2016 年	5 月	●シンガポールにおける AFCC アジア子どものコンテンツフェスティバルのカントリー オブ フォーカス：JAPAN の日本国内委員会として参画、多彩な講師陣ととも にセッションを行い交流。星日50周年記念展示「日本の絵本のあゆみ－絵因果経から『14ひきのあさごはん』までを開催●デンマークのコペンハーゲン、オーデンセを訪問し、当時の旅行記録をもとにちひろの足跡を訪ね、調査を行う／5月27日（金）～6月3日（金）
2017 年	4 月	●韓国ソウル市立図書館での「いわさきちひろピエゾグラフ展」を開催予定／4月26日（水）～5月28（日）
	8 月	●国立台湾図書館にて「日本の絵本のあゆみ展」を開催予定／8月5日（土）～9月10日（月）

ドイツ・フランクフルトのブックフェアにて、パツォウスカー氏と［2013.10］

タイ・バンコクの BACC にて「いわさきちひろと日本の絵本の歴史」展開催［2014.10］



AFCC 事務局長・ラマチャンドラン氏が東京館に来館［2014.10］

韓国・絵本美術館建設構想チーム、東京館に来館［2014.11］

中国・勃利公立図書館にて、いわさきちひろ複製画展を開催［2015.10］

インド・国際交流基金ニューデリー日本文化センターで開催した、地元の小中学生を招いての水彩技法体験のワークショップ［2015.12］

シンガポール・AFCC アジア子どもコンテンツフェスティバルへ参加。記念展示「日本の絵本のあゆみ―絵因果経から『14ひきのあさごはん』まで」を開催［2016.5］

いわさきちひろブックリスト

＊は品切れ中（2017 年 3 月現在）

絵本

1 **ひとりでできるよ**（こどものとも）＊　小林純一・作／福音館書店／ 1957 年
2 **みんなでしようよ**（こどものとも）＊　小林純一・作／福音館書店／ 1957 年
3 **あいうえおのほん**　浜田廣介・著／童心社／ 1960 年（改訂新版 1975 年）
4 **りゅうのめのなみだ**　浜田廣介・文／偕成社／ 1965 年
5 **つるのおんがえし**　松谷みよ子・文／偕成社／ 1966 年
6 **絵のない絵本**　アンデルセン・原作／山室静・訳／童心社／ 1966 年
7 **うらしまたろう**　松谷みよ子・文／偕成社／ 1967 年
8 **にんぎょひめ**　アンデルセン・原作／曽野綾子・文／偕成社／ 1967 年
9 **わたしがちいさかったときに**　長田新・編「原爆の子」他より／童心社／ 1967 年
10 **あかいくつ**　アンデルセン・原作／神沢利子・文／偕成社／ 1968 年
11 **あかいふうせん**　ラモリス・原作／岸田衿子・文／偕成社／ 1968 年
12 **あめのひのおるすばん**　岩崎ちひろ・文／武市八十雄・案／至光社／ 1968 年
13 **愛かぎりなく―デカブリストの妻 抄―**　ネクラーソフ・詩／谷耕平・訳／童心社／ 1968 年
14 **青い鳥**　メーテルリンク・原作／高田敏子・文／世界文化社／ 1969 年（改訂新版 2001 年）
15 **おにたのぼうし**　あまんきみこ・文／ポプラ社／ 1969 年
16 **花の童話集**　宮沢賢治・作／童心社／ 1969 年
17 **あかちゃんのくるひ**　岩崎ちひろ・文／武市八十雄・案／至光社／ 1970 年
18 **おふろでちゃぷちゃぷ**（松谷みよ子 あかちゃんの本）　松谷みよ子・文／童心社／ 1970 年
19 **にじのみずうみ**　イタリアむかし話／坂本鉄男・文／偕成社／ 1970 年
20 **もしもしおでんわ**（松谷みよ子 あかちゃんの本）　松谷みよ子・文／童心社／ 1970 年
21 **万葉のうた**　大原富枝・文／童心社／ 1970 年
22 **あかちゃんのうた**　松谷みよ子・文／童心社／ 1971 年
23 **たけくらべ**　樋口一葉・文／童心社／ 1971 年
24 **となりにきたこ**　岩崎ちひろ・文／武市八十雄・案／至光社／ 1971 年
25 **ゆきごんのおくりもの**　長崎源之助・作／新日本出版社／ 1971 年

1

3

4

5

6

7

8

9

10

12

14

15

16

17

18

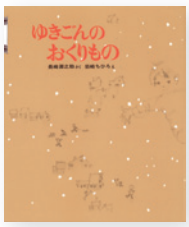
20

21

22

23

24

25


26

27

28

29

30

31

36

37

38

26 ことりのくるひ　岩崎ちひろ・文／武市八十雄・案／至光社／ 1972 年
27 ひさの星　斎藤隆介・作／岩崎書店／ 1972 年
28 ゆきのひのたんじょうび　岩崎ちひろ・文／武市八十雄・案／至光社／ 1973 年
29 戦火のなかの子どもたち　岩崎ちひろ・文／岩崎書店／ 1973 年
30 ぽちのきたうみ　岩崎ちひろ・文／武市八十雄・案／至光社／ 1974 年
31 赤い蝋燭と人魚　小川未明・作／童心社／ 1975 年
32 げんきになったひ　松本猛・文／武市八十雄・案／至光社／ 1978 年（改訂版 2006 年）
33 あおいとり　メーテルリンク・原作／立原えりか・文／講談社／ 1984 年（オリジナル版 1969 年）
34 絵のない絵本（フォア文庫）アンデルセン・原作／山室静・訳／童心社／ 1984 年
35 おやゆびひめ（いわさきちひろ・おはなしえほん）アンデルセン・原作／立原えりか・文／講談社／ 1984 年（オリジナル版 1966 年）
36 しらゆきひめ（いわさきちひろ・おはなしえほん）＊ グリム・原作／立原えりか・文／講談社／ 1984 年（オリジナル版 1967 年）
37 はくちょうのみずうみ（いわさきちひろ・おはなしえほん）＊ チャイコフスキー音楽より／立原えりか・文／講談社／ 1984 年（オリジナル版 1968 年）
38 ふたりのぶとうかい（いわさきちひろ・おはなしえほん）＊ ウェーバー音楽より／筒井敬介・文／講談社／ 1984 年（オリジナル版 1969 年）
39 りこうなおきさき（いわさきちひろ・おはなしえほん）＊ ガスター・原作／立原えりか・文／講談社／ 1984 年（オリジナル版 1967 年）
40 うたの絵本 2　おかあさんといっしょ＊ リブロポート／ 1986 年
41 はじめてのなつやすみ（いわさきちひろ・おはなしえほん　夏）＊ 立原えりか・文／講談社／ 1986 年
42 あきかぜのおくりもの（いわさきちひろ・おはなしえほん　秋）＊ 立原えりか・文／講談社／ 1987 年
43 たんぽぽのサラダ（いわさきちひろ・おはなしえほん　春）＊ 立原えりか・文／講談社／ 1987 年
44 ふたりのゆきだるま（いわさきちひろ・おはなしえほん　冬）＊ 立原えりか・文／講談社／ 1987 年
45 花の童話集（フォア文庫）宮澤賢治・作／童心社／ 1987 年
46 わたしがちいさかったときに（フォア文庫）長田新・編「原爆の子」他より／童心社／ 1989 年
47 マッチうりの少女　アンデルセン・原作／木村由利子・文／偕成社／ 1992 年
48 世界の名作①青い鳥　メーテルリンク・原作／高田敏子・文／いわさきちひろ・絵／世界文化社／ 2001 年

43

47

紙芝居

1 お母さんの話　稲庭桂子・文／教育紙芝居研究所／ 1950 年（改訂版・童心社／ 1964 年）
2 雪の女王　稲庭桂子・文／教育紙芝居研究所／ 1954 年（改訂版・童心社／ 1976 年）
3 のみのかわでつくった王さまの長ぐつ　高橋五山・文／童心社／ 1956 年
4 お月さまいくつ　稲庭桂子・文／童心社／ 1958 年
5 人魚ひめ　稲庭桂子・文／童心社／ 1960 年

2

5

画集

1 こどものしあわせ画集＊　田辺徹，小西正保・編／岩崎書店／ 1973 年
2 花とこども画集＊　松本猛，田辺徹，小西正保・編／岩崎書店／ 1975 年
3 母と子の画集＊　松本猛，小西正保・編／岩崎書店／ 1975 年
4 いわさきちひろ抒情画集＊　童心社／ 1975 年

13

24

いわさきちひろ作品集

中谷泰，箕田源二郎，武市八十雄，松本善明，松本猛・編／岩崎書店／ 1976 ～ 77 年

5　1　素描の世界＊
6　2　ソビエトの旅・日本の旅（スケッチ集Ⅰ）＊
7　3　ヨーロッパの旅・ハワイの旅（スケッチ集Ⅱ）＊
8　4　にじいろの童画集（初期童画集）＊
9　5　むらさきいろの童画集（中期童画集）＊
10　6　ぎんいろの童画集（晩期童画集）＊
11　7　詩・エッセイ・日記ほか＊

26

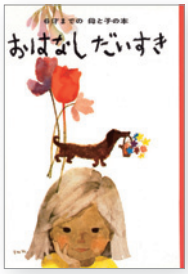
40

12 愛と平和の画集＊ 松本猛、松本由理子・編／岩崎書店／1983 年
13 あかちゃん画集＊ 松本猛、松本由理子・編／岩崎書店／1983 年
14 こども百態画集＊ 松本猛、松本由理子・編／岩崎書店／1983 年
15 子どものしあわせ 1～12＊ 草土文化／1983 年
16 いわさきちひろ全集 1971 Ⅰ～Ⅱ＊
飯沢匡・監修／ほるぷ出版／1984 年
17 いわさきちひろ全集 1972＊
飯沢匡・監修／ほるぷ出版／1984 年
18 いわさきちひろ全集 1973～74 Ⅰ～Ⅱ＊
飯沢匡・監修／ほるぷ出版／1984 年
19 いわさきちひろ全集 1969 Ⅰ～Ⅲ＊
飯沢匡・監修／ほるぷ出版
20 いわさきちひろ全集 1970 Ⅰ～Ⅲ＊
飯沢匡・監修／ほるぷ出版／1985 年
21 いわさきちひろ画集＊ 毎日新聞社／1994 年
22 ちひろと子どものしあわせ 1963-1968＊ 草土文化／1994 年
23 ちひろと子どものしあわせ 1969-1974＊ 草土文化／1994 年

ちひろ美術館
松本猛・監修／いわさきちひろ絵本美術館・編／講談社／1997～1998 年

24 1 花のパレット＊
25 2 春のよろこび＊
26 3 夢みる少女＊
27 4 きらめく夏＊
28 5 子どもたちの季節＊
29 6 秋のいろどり＊
30 7 あかちゃんと動物＊
31 8 冬のおくりもの＊
32 9 日本のおはなし＊
33 10 世界のおはなし＊
34 11 いのちの詩＊
35 12 ちひろの旅ものがたり＊
36 別巻 アルバム・いわさきちひろ＊
37 ちいさなちひろ画集 1 こどものしあわせ 岩崎書店／1997 年
38 ちいさなちひろ画集 2 花と子ども 岩崎書店／1997 年
39 ちいさなちひろ画集 3 母と子 岩崎書店／1997 年
40 ちひろ BOX ちひろ美術館・編／講談社／2004 年
41 ちひろ 花の画集 ちひろ美術館・編／講談社／2009 年
42 ちひろ いのちの画集 ちひろ美術館・編／講談社／2009 年
43 ちひろ 秋の画集 ちひろ美術館・編／講談社／2010 年
44 ちひろ 冬の画集 ちひろ美術館・編／講談社／2010 年
45 ちひろ 春の画集 ちひろ美術館・編／講談社／2011 年
46 ちひろ 夏の画集 ちひろ美術館・編／講談社／2011 年

2



4

5

7

8

絵童話

1 ゆびきり＊ 早乙女勝元・作／理論社／1961 年
2 ね、おはなしよんで 与田準一、川崎大治、乾孝・編／童心社／1962 年
3 続 ね、おはなしよんで 与田準一、川崎大治、乾孝・編／童心社／1963 年
4 おはなしだいすき 与田準一、周郷博、石黒修・編／童心社／1964 年
5 おはなしアンデルセン
アンデルセン・原作／与田準一、川崎大治、松谷みよ子・編／乾孝・解説／童心社／1965 年
6 鯉のいる村 岩崎京子・著／岩崎ちひろ・東本つね・絵／新日本出版社／1969 年
7 貝の鈴＊ 山口勇子・作／大日本図書／1970 年
8 あかまんまとうげ 岩崎京子・文／童心社／1972 年（新装版 1994 年）
9 母さんはおるす グェン・ティ・作／高野功・訳／新日本出版社／1972 年
10 きつねみちは天のみち あまんきみこ・作／大日本図書／1973 年（新版 1987 年）
11 とべたら本こ（フォア文庫）＊ 山中恒・作／理論社／1979 年
12 アンデルセン わたしの少年のころ＊
アンデルセン・原作／高橋健二・訳／実業之日本社／1981 年（オリジナル版 1967 年）
13 ちいさいちいさい（おやすみまえのえほん1）
川崎大治・文／与田準一、西郷竹彦・訳／童心社／1988 年
14 百ぴきのくまさん（おやすみまえのえほん 2）
新美南吉、村山籌子、浜田廣介、村山桂子、川崎大治・作／童心社／1988 年
15 おなかのかわ（おやすみまえのえほん 3） 川崎大治、鈴木三重吉、新美南吉・作／童心社／1988 年
16 おばあさんとこぶたのぶうぶう（おやすみまえのえほん 4） 川崎大治、与田準一・作／野上彰・訳／童心社／1990 年
17 あおむしだれのこ（おやすみまえのえほん 5） 川崎大治、与田準一、中川李枝子・作／北原白秋・訳／童心社／1990 年
18 ひよこのともだちだれとだれ（おやすみまえのえほん 6） 川崎大治、与田準一、奈街三郎・作／童心社／1990 年
19 アルプスの少女ハイジ（青い鳥文庫） ヨハンナ・スピリ作／池田香代子・訳／講談社／2005 年（オリジナル版 1961 年）
20 ぼくのものがたり（アンデルセン自伝） アンデルセン・原作／高橋健二・訳／講談社／2005 年

9

10

12

13

14

ちひろを知る本

1 **わたしのえほん** いわさきちひろ・文／みどり書房／1969 年（改訂版　新日本出版社　1978 年）
2 **いわさきちひろの世界＊** 松本猛、月間絵本編集部・編／すばる書房／1975 年
3 **いわさきちひろの青春＊** 松本猛・編／すばる書房／1976 年
4 **いわさきちひろの想い出＊** 松本善明・著／すばる書房／1977 年
5 **いわさきちひろ＊** 堀尾青史・編／すばる書房／1978 年
6 **いわさきちひろの絵と心** 松本猛・文／講談社／1978 年
7 **ちひろのことば** いわさきちひろ・文／講談社／1978 年
8 **ちひろとわたし** 松本善明・文／新日本出版社／1978 年
9 **旅といわさきちひろさんの思い出＊** 東本つね・著／岩崎書店／1979 年
10 **ちひろへの手紙＊** 松本猛・編／講談社／1982 年
11 **ちひろ愛の絵筆＊** 滝いく子・文／労働旬報社／1983 年
12 **ちひろのひきだし―母の絵を語る** 松本猛・文／新日本出版社／1983 年
13 **ちひろのパレット―母の絵を語る** 松本猛・文／新日本出版社／1988 年
14 **思い出のちひろ―二人で歩んだ日々** 松本善明・文／新日本出版社／1988 年
15 **CHIHIRO'S ALBUM＊** いわさきちひろ・文／ドロシー・ブリトン・訳／講談社／1989 年
16 **つば広の帽子をかぶって**（いわさきちひろ伝）＊ 飯沢匡、黒柳徹子・著／講談社／1989 年
17 **18 枚のポートレート―ちひろさんを語る**
黒柳徹子、山田洋次、俵万智他・文／松本猛・編／新日本出版社／1989 年
18 **ちひろの手鏡―母の絵を語る** 松本猛・文／新日本出版社／1990 年
19 **ちひろの世界―やさしさの扉をひらく** 松本猛，松本由理子・著／講談社／1991 年
20 **つば広の帽子をかぶって　文庫版＊** 飯沢匡，黒柳徹子・著／講談社／1992 年
21 **いわさきちひろ―子どもに夢をたくして―＊** 松永伍一・文／松本猛・解説／佑学社／1993 年
22 **ちひろ　子どもの情景**（文庫ギャラリー） いわさきちひろ絵本美術館・編／講談社／1993 年
23 **ちひろ　紫のメッセージ**（文庫ギャラリー） いわさきちひろ絵本美術館・編／講談社／1993 年
24 **てのひらの虹―とても私的な「いわさきちひろ」論―＊** 永田萠・著／大和書房／1993 年
25 **ちひろ美術館物語＊** 松本由理子・著／講談社／1994 年
26 **ちひろのアンデルセン**（文庫ギャラリー） いわさきちひろ絵本美術館・編／講談社／1994 年
27 **ちひろの花ことば**（文庫ギャラリー） いわさきちひろ絵本美術館・編／講談社／1994 年
28 **いわさきちひろの願ったこと**（岩波ブックレット）
松本由理子・文／岩波書店／1995 年（改訂増刷 2008 年）
29 **ちひろ・平和への願い**（文庫ギャラリー） いわさきちひろ絵本美術館・編／講談社／1995 年
30 **ちひろの信州＊** 松本猛・監修／安曇野ちひろ美術館・編／郷土出版社／1997 年）
31 **いわさきちひろ 知られざる愛の生涯**（＋α文庫） 黒柳徹子、飯沢匡・著／講談社／1999 年
32 **母ちひろのぬくもり**（＋α文庫） 松本猛・著／講談社／1999 年

1

6

7

10

12

13

14

16

18

19

20

21

23

25

27

28

29

30

31

32

33

35

34

37

38

41

33 **妻ちひろの素顔**（+α文庫） 松本善明・著／講談社／ 2000 年
34 **いわさきちひろ　若き日の日記「草穂」** 松本由理子・編／講談社／ 2002 年
35 **若きちひろへの旅（上・下）** 平山知子・著／ちひろ美術館・協力／新日本出版社／ 2002 年
36 **ちひろ美術館ものがたり**（+α文庫） 松本由理子・著／講談社／ 2003 年
37 **ラブレター** いわさきちひろ・文／講談社／ 2004 年
38 **『戦火のなかの子どもたち』物語** ＊ 松本猛・著／岩崎書店／ 2004 年
39 **ちひろのアトリエ** 松本猛・文／新日本出版社／ 2004 年
40 **いわさきちひろ　子どもに夢をたくして**（火の鳥文庫）
松永伍一・文／ちひろ美術館・監修／講談社／ 2005 年
41 **ちひろの絵のひみつ** ちひろ美術館・編／講談社／ 2006 年
42 **別冊太陽　いわさきちひろ** ちひろ美術館・監修／平凡社／ 2007 年
43 **ちひろ—絵に秘められたもの** 松本善明・著／新日本出版社／ 2007 年
44 **ちひろの昭和** 竹迫祐子　ちひろ美術館・編／河出書房新社／ 2009 年
45 **らいてうの姿　ちひろの想い** 飯島ユキ・編著／一兎舎／ 2009 年
46 **e-MOOK いわさきちひろ** ＊ 宝島社／ 2012 年
47 **e-MOOK いわさきちひろ** ＊ 宝島社／ 2013 年
48 **新装版ちひろの世界** 松本猛　松本由理子・著／講談社／ 2013 年
49 **マンガ世界の偉人 61** いわさきちひろ　ちひろ美術館・監修／朝日新聞出版／ 2013 年
50 **文藝別冊いわさきちひろ** ちひろ美術館・監修／河出書房新社／ 2013 年
51 **ちひろさんと過ごした時間（ちひろをよく知る 25 人の証言）**
ちひろ美術館・監修／新日本出版社／ 2014 年
52 **伝記を読もう　いわさきちひろ　子どもの幸せと平和を絵にこめて**
松本由理子・作／あかね書房／ 2016 年
53 **ちひろと歩く信州** 安曇野ちひろ美術館・編／新日本出版社／ 2017 年

42

44

46

47

49

50

51

52

その他

1 **私は赤ちゃん** 松田道雄・著／岩波書店／ 1960 年
2 **私は二歳** 松田道雄・著／岩波書店／ 1961 年
3 **育児の百科** ＊ 松田道雄・著／岩波書店／ 1967 年
4 **子どものしつけ百話** ＊ 近藤薫樹、橋本宏子、好永邦夫、天野章・著／新日本出版社／ 1970 年
5 **いわさきちひろ詩画集** ＊ いわさきちひろ、谷川俊太郎、高田敏子他・詩／松本猛・編／すばる書房／1977年
6 **窓ぎわのトットちゃん** 黒柳徹子・著／講談社／ 1981 年
7 **TOTTO - CHAN** ＊ 黒柳徹子・文／ドロシー・ブリトン・訳／講談社／ 1982 年
8 **TOTTO - CHAN**（英語文庫版） 黒柳徹子・文／ドロシー・ブリトン・訳／講談社／ 1984 年
9 **窓ぎわのトットちゃん**（文庫版） 黒柳徹子・文／講談社／ 1984 年
10 **あなたがうまれたとき** ちひろのあかちゃん日記 岩崎書店／ 1986 年

6

7

9

10

11 **あなたがうまれたとき**＊ ちひろのあかちゃん日記（特装版） 岩崎書店／1986 年
12 **最新 育児の百科**＊ 松田道雄・文／岩波書店／1987 年（オリジナル版 1967 年）
13 **風になる**＊ 俵万智・短歌／河出書房新社／1988 年
14 **サトウハチロー詩画集　あかちゃん** サトウハチロー・詩／講談社／1989 年
15 **サトウハチロー詩画集　おかあさん** サトウハチロー・詩／講談社／1989 年
16 **窓ぎわのトットちゃん**（青い鳥文庫版） 黒柳徹子・文／講談社／1991 年
17 **ちひろのニットの絵本**＊ 講談社／1992 年
18 **ちひろのあかちゃんニット**＊ 講談社／1993 年
19 **ももいろのクレヨン―大切なあなたへ―**＊ いわさきちひろ・文／大和書房／1993 年
20 **鏡のなかの私―もう一度みつめて―**＊ いわさきちひろ・文／大和書房／1994 年
21 **金曜夜6時半のちひろ美術館**＊ 藤島淳・文／岩崎書店／1994 年
22 **ちひろのバースデーブック**＊ いわさきちひろ絵本美術館・編／講談社／1995 年
23 **あおい空に** 松永伍一・編／童心社／1996 年
24 **こどもたちよ！** 高田宏・編／童心社／1996 年
25 **ちひろのあかちゃんダイアリー**＊ いわさきちひろ絵本美術館・編／講談社／1996 年
26 **ベスト・オブ窓ぎわのトットちゃん** 黒柳徹子・文／ドロシー・ブリトン・訳／講談社インターナショナル／1996 年
27 **愛について―On love** 落合恵子・編／童心社／1996 年
28 **少年に帰る日**＊ 藤島淳・文／岩崎書店／1997 年
29 **ちひろの詩** ちひろ美術館・編／童心社／1998 年
30 **風になる**（ポケット版） 俵万智・短歌／河出書房新社／1998 年
31 **わが家の歴史**＊ 結城順一、岸田葉子、吉田秀徳・編／ちひろ美術館・協力／世界文化社／1998 年
32 **子どもは見ている**＊ 吉田ルイ子・写真／文／講談社／1999 年
33 **小さいときから考えてきたこと** 黒柳徹子・著／新潮社／2001 年
34 **こんにちは赤ちゃん** 黒柳徹子・構成 / 文／岩崎書店／2003 年
35 **おくにことばで憲法を** 大原穣子・著 / 監修／新日本出版社／2004 年
36 **肩車** 長田弘・詩／講談社／2004 年
37 **パンプルムース！** 江國香織・文／講談社／2005 年
38 **不思議の国のトットちゃん** 黒柳徹子・著／新潮社／2005 年
39 **井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法** 井上ひさし・文／講談社／2006 年
40 **命のノート　ぼくたち、わたしたちの「命」についての 12 のお話** 細谷亮太・著／講談社／2006 年
41 **千の風になって　ちひろの空** 原詩・不明／新井満・日本語訳／講談社／2006 年
42 **トットちゃんとカマタ先生のずっとやくそく** 黒柳徹子、鎌田實・著／ソフトバンククリエイティブ／2007 年
43 **みんなほんもの** 相田みつを・書 / 詩／ダイヤモンド社／2008 年
44 **いのちのバトン** 日野原重明・詩 / 文／ダイヤモンド社／2008 年
45 **パンプルムース！**（+α文庫） 江國香織・文／講談社／2008 年
46 **ちひろと一茶** 松本猛、ちひろ美術館・編著／信濃毎日新聞社／2009 年
47 **アートを楽しむ生き方** 日野原重明、松本猛・著／新日本出版社／2010 年
48 **母のまなざし・父のまなざし　いわさきちひろと香月泰男** ちひろ美術館・編／講談社／2011 年
49 **ゆびきり**（再版）早乙女勝元・著／新日本出版社／2013 年（初版 1961 年、新装版 1972 年／理論社）
50 **絵本窓ぎわのトットちゃん**（1・2 巻セット）黒柳徹子・文／講談社／2014 年
51 **窓ぎわのトットちゃん**（新組版） 黒柳徹子・文／講談社／2015 年
52 **しかえししないよ** 日野原重明・詩／朝日新聞出版／2016 年

13

14

15

19

20

22

25

33

34

37

39

41

51

ちひろ美術館コレクション

1 ぼくの出会った絵本作家―子どもをみつめたアーティストたち＊
松本猛・著／大和書房／1995 年
2 心にパシャッ＊ いわさきちひろ・絵／ゆうきまさこ・構成 / 文 小学館／2000 年
3 紙の町のおはなし クヴィエタ・パツォウスカー作 / ゆうきまさこ・訳／小学館／2000 年
4 ねぇ こっちむいて！＊ キアラ・ラパッチーニ作 / おしばやすじ&ゆみ・訳／小学館／2000 年
5 おへそがえる・ごん 赤羽末吉・作 / 絵／小学館／2001 年
6 舌ながばあさん 武建華・絵／千葉幹夫・文／小学館／2001 年
7 みつけたよ＊ いわさきちひろ・絵 / ゆうきまさこ・構成 / 文／小学館／2001 年
8 天下一の弓使い 武建華・絵／松本猛・再話／小学館／2005 年
9 ちひろと世界の絵本画家たち―ちひろ美術館コレクション＊
ちひろ美術館・編／著／講談社／2000 年
10 ぼくが安曇野ちひろ美術館をつくったわけ＊ 松本猛・著／講談社／2002 年
11 ちひろ美術館の絵本画家たち 松本猛・著／新日本出版社／2003 年
12 ちひろBOX 2 世界の絵本画家たち ちひろ美術館・編 / 著／講談社／2009 年
13 画集 赤羽末吉の絵本 講談社／2010 年
14 まるごとちひろ美術館 世界で最初の絵本美術館 コレクションガイド
高橋明也・監修／ちひろ美術館・編集／東京美術／2014 年
15 長新太の脳内地図 東京美術／2015 年

1

2

9

10

12

14

15

評伝

1 NHK日曜美術館第 8 集（私といわさきちひろ）＊ 黒柳徹子・対談／学習研究社／1978 年
2 女性芸術家の人生 7（午年編） 滝いく子・文／集英社／1981 年
3 日本の童画家たち 上笙一郎・著／くもん出版／1994 年
4 知ってるつもり 20 子どもの心の語り部たち
（良寛 / 野口雨情 / いわさきちひろ / アンデルセン / 澤田美喜 / コルチャック先生） 日本テレビ／1995 年
5 ふくい女性の歴史 松本由理子・文／福井県／1996 年
6 毎日ムック 生き方達人ファイル 毎日新聞社／1996 年
7 20 世紀のすてきな女性たち 2
（与謝野晶子・ビアトリクス・ポター・リリアン・ヘルマン・いわさきちひろ） 松本由理子・文／岩崎書店／2000 年
8 鏡の中の女たち（女性画家の自画像） 堀尾眞紀子・著／文化出版局／2002 年
9 世界の女性名言事典 PHP研究所／2004 年

雑誌の特集号

1 月刊誌「絵本」特集：いわさきちひろ追悼＊（1974 年 11 月号） すばる書房盛光社／1974 年
2 月刊誌「絵本」特集：いわさきちひろ青春の軌跡＊（1975 年 8 月号） すばる書房盛光社／1975 年
3 月刊誌「絵本」いわさきちひろ絵本美術館＊（1977 年 12 月号） すばる書房／1977 年
4 月刊絵本別冊 絵本の作家たち 2＊（いわさきちひろ・滝平二郎） すばる書房／1977 年
5 月刊誌「絵本とおはなし」特集：いわさきちひろ絵本美術館特別展＊（1982 年 6 月号） 偕成社／1982 年
6 季刊「銀花」特集：いわさきちひろの世界＊（1987 年冬号） 松本猛、立原えりか、山田洋次・文／文化出版局／1987 年
7 信濃教育 特集いわさきちひろ＊（1356 号） 信濃教育会／1999 年
8 芸術新潮 いわさきちひろ Love, Love, Love（2012 年 7 月号） 新潮社／2012 年

8

関連書籍

1 トットちゃんが出会った子どもたち 田沼武能・写真 / 文／岩崎書店／1996 年
2 トットちゃんとトットちゃんたち 黒柳徹子・著／講談社／1997 年
3 ちひろ美術館が選んだ親子で楽しむ絵本 100 冊 ちひろ美術館・編／メイツ出版／1999 年
4 トットちゃんとトットちゃんたち（青い鳥文庫） 黒柳徹子・作／田沼武能・写真／講談社／2001 年
5 トットちゃんとアフガニスタンの子どもたち 田沼武能・著／岩崎書店／2002 年
6 村上春樹とイラストレーター ちひろ美術館・監修／ナナロク社／2016 年

3

6

いわさきちひろブックリスト（外国語版）

The Tears of the Dragon Parents' Magazine Press ／アメリカ／りゅうのめのなみだ／ 1967 年
The Crane Maiden Parents' Magazine Press ／アメリカ／つるのんがえし／ 1968 年
The Dragon' s Tears Paul Hamlyn ／イギリス／りゅうのめのなみだ／ 1968 年
The Little Mermaid Paul Hamlyn ／イギリス／にんぎょひめ／ 1969 年
The Fisherman Under the Sea Parents' Magazine Press ／アメリカ／うらしまたろう／ 1969 年
Momoko's Lovely Day Bodley Head ／イギリス／あめのひのおるすばん／ 1969 年
Staying Home Alone On A Rainy Day McGraw-Hill ／アメリカ／あめのひのおるすばん／ 1969 年
A Brother For Momoko Bodley Head ／イギリス／あかちゃんのくるひ／ 1970 年
A New Baby Is Coming To My House McGraw-Hill ／アメリカ／あかちゃんのくるひ／ 1972 年
Neighbours Adam and Charles Black ／イギリス／となりにきたこ／ 1972 年
Momoko And The Pretty Bird The Bodley Head ／イギリス／ことりのくるひ／ 1972 年
Momoko und der Vogel Dr.Hans Peters Verlag ／ドイツ／ことりのくるひ／ 1972 年
Mon Oiseau Est Revenu Les éditions du Cerf ／フランス／ことりのくるひ／ 1972 年
Will You Be My Friend McGraw-Hill ／アメリカ／となりにきたこ／ 1973 年
Momoko And The Pretty Bird Follett ／アメリカ／ことりのくるひ／ 1973 年
Momoko's Birthday The Bodley Head ／イギリス／ゆきのひのたんじょうび／ 1973 年
Mon Anniversaire Dans La Neige Les éditions du Cerf ／フランス／ゆきのひのたんじょうび／ 1973 年
Momokos Geburtstag Dr.Hans Peters Verlag ／ドイツ／ゆきのひのたんじょうび／ 1973 年
Vi Fyller År IPC ／スウェーデン／ゆきのひのたんじょうび／ 1973 年
Invitation to the Dance Frederick Warne ／イギリス／ふたりのぶとうかい／ 1973 年
Aufforderung zum Tanz Dr.Hans Peters Verlag ／ドイツ／ふたりのぶとうかい／ 1973 年
Un Bébé Arrive Dans Ma Maison Les éditions du Cerf ／フランス／あかちゃんのくるひ／ 1974 年
The Birthday Wish McGraw-Hill ／アメリカ／ゆきのひのたんじょうび／ 1974 年
What's Fun Without A Friend? McGraw-Hill ／アメリカ／ぽちのきたうみ／ 1974 年
Momoko und Chibi Dr.Hans Peters Verlag ／ドイツ／ぽちのきたうみ／ 1974 年
Christine et Kiki Les éditions du Cerf ／フランス／ぽちのきたうみ／ 1975 年
Ik Krijg een Broertje Spectrum ／オランダ／あかちゃんのくるひ／ 1975 年
Emmie And Chips Adam and Charles Black ／イギリス／ぽちのきたうみ／ 1976 年
Ein Bruder für Momoko Dr.Hans Peters Verlag ／ドイツ／あかちゃんのくるひ／ 1977 年
Onito's hat Adam and Charles Black ／イギリス／おにたのぼうし／ 1978 年
Momoko e il bell' Uccellino The Bodley Head ／イタリア／ことりのくるひ／ 1979 年
H Μομόko Και τό' `Ομορψο Πουλάκι The Bodley Head ／ギリシャ／あめのひのおるすばん／ 1979 年
Τά Γενέθλια της Μομόko The Bodley Head ／ギリシャ／あかちゃんのくるひ／ 1979 年
Il Compleanno di Momoko The Bodley Head ／イタリア／ゆきのひのたんじょうび／ 1979 年
Momoko ist krank Dr.Hans Peters Verlag ／ドイツ／げんきになったひ／ 1979 年
The Day I got Better Adam and Charles Black ／イギリス／げんきになったひ／ 1980 年
Die roten Schuhe Verlag Neugebauer Press ／ドイツ／あかいくつ／ 1980 年
The Crane's Reward Adam and Charles Black ／イギリス／つるのおんがえし／ 1983 年
The Red Shoes Neugebauer Press USA ／アメリカ／あかいくつ／ 1983 年
The Little Mermaid Picture Book Studio ／アメリカ／にんぎょひめ／ 1984 年
Die kleine Meerjungfrau Verlag Neugebauer Press ／オーストリア／にんぎょひめ／ 1984 年
Snow White and the Seven Dwarves Picture Book Studio ／アメリカ／しらゆきひめ／ 1985 年
Swan Lake Picture Book Studio ／アメリカ／はくちょうのみずうみ／ 1986 年
Schwanensee Verlag Neugebauer Press ／オーストリア／はくちょうのみずうみ／ 1986 年
The Wise Queen Picture Book Studio ／アメリカ／かしこいおきさき／ 1986 年
Der Dank des Kranich Verlag an der Este ／ドイツ／つるのおんがえし／ 1988 年
Clémentine est malade Les éditions du Cerf ／フランス／げんきになったひ／ 1993 年
Der Tag, an dem das Vögelchen kam Naumann ／ドイツ／ことりのくるひ／ 1998 年
비 오는 날 집 보기 Prometeus Publishers ／韓国／あめのひのおるすばん／ 2002 年
이웃에 온 아이 Prometeus Publishers ／韓国／となりにきたこ／ 2002 年
작은 새가 온 날 Prometheus Publishers ／韓国／ことりのくるひ／ 2002 年
눈 오는 날의 생일 Prometeus Publishers ／韓国／ゆきのひのたんじょうび／ 2002 年
치치가 온 바다 Prometeus Publishers ／韓国／ぽちのきたうみ／ 2002 年
빨간 구두 Hangilsa Publishing ／韓国／あかいくつ／ 2002 年
人魚公主 青林国際出版股份有限公司／台湾／にんぎょひめ／ 2002 年
久兒之星 和英出版社／台湾／ひさのほし／ 2003 年
꼬마 도깨비 오니타 Better Books ／韓国／おにたのぼうし／ 2003 年
아기 오는 날 Prometeus Publishers ／韓国／あかちゃんのくるひ／ 2003 年
寶寶的歌 Taiwan Mac Educational ／台湾／あかちゃんのうた／ 2005 年
洗澡嘩啦啦 Taiwan Mac Educational ／台湾／おふろでちゃぷちゃぷ／ 2005 年
鈴鈴鈴、電話響了 Taiwan Mac Educational ／台湾／もしもしおでんわ／ 2005 年
엄지공주 鶴山文化社／韓国／おやゆびひめ／ 2005 年
파랑개 鶴山文化社／韓国／あおいとり／ 2005 年
백설공주 鶴山文化社／韓国／しらゆきひめ／ 2005 年
백조의 호수 鶴山文化社／韓国／はくちょうのみずうみ／ 2005 年
봄 아이 鶴山文化社／韓国／タンポポのサラダ／ 2005 年
여름 아이 鶴山文化社／韓国／はじめてのなつやすみ／ 2005 年
가을 아이 鶴山文化社／韓国／あきかぜのおくりもの／ 2005 年
겨울 아이 鶴山文化社／韓国／ふたりのゆきだるま／ 2005 年
용의 눈물 Dahli Children's Books ／韓国／りゅうのめのなみだ／ 2006 年
따르릉 여보세요 Prometeus Publishers ／韓国／もしもしおでんわ／ 2007 年
목욕탕에서 첨벙첨벙 Prometeus Publishers ／韓国／おふろでちゃぷちゃぷ／ 2007 年
Mẹ vắng nhà Nhà Xuất bản Phụ nữ ／ベトナム／母さんはおるす／ 2008 年
Trẻ em trong ngọn lửa chiến tranh
Nhà Xuất bản Phụ nữ ／ベトナム／戦火のなかのこどもたち／ 2008 年
小鬼的帽子 二十一世紀出版社／中国／おにたのぼうし／ 2009 年
哗啦哗啦，洗澡喽 新経典文化有限公司／中国／おふろでちゃぷちゃぷ／ 2011 年
叮铃铃，来电话了 新経典文化有限公司／中国／もしもしおでんわ／ 2011 年
戰火中的孩子 青林國際出版股份有限公司／台湾／戦火のなかのこどもたち／ 2012 年
紅舞鞋 九州出版社／中国／あかいくつ／ 2014 年
彩虹湖 九州出版社／中国／にじのみずうみ／ 2014 年
人魚公主 九州出版社／中国／にんぎょひめ／ 2015 年
星星久儿 新経典文化有限公司／中国／ひさの星／ 2015 年
家里有了新宝宝 颶風社／中国／あかちゃんのくるひ／ 2016 年
鸟儿来的那一天 颶風社／中国／ことりのくるひ／ 2016 年
生日那天下雪啦 颶風社／中国／ゆきのひのたんじょうび／ 2016 年
小狗波奇来海边 颶風社／中国／ぽちのきたうみ／ 2016 年
天鵝湖 親子天下／台湾／はくちょうのみずうみ／ 2016 年
白雪公主 親子天下／台湾／しらゆきひめ／ 2016 年
拇指姑娘 親子天下／台湾／おやゆびひめ／ 2016 年
青鳥 親子天下／台湾／あおいとり／ 2016 年

窓ぎわのトットちゃん

TOTTO-CHAN:The Little Girl at the Window
講談社 USA（初版：講談社インターナショナル）／アメリカ／窓ぎわのトットちゃん／ 1982 年
창가의 토토 Prometeus Publishers ／韓国／窓ぎわのトットちゃん／ 2000 年
窗邊的小荳荳 新潮社文化事業有限公司／台湾／窓ぎわのトットちゃん／ 2002 年
窗边的小豆豆 新経典文化有限公司（初版：南海出版公司）／中国／窓ぎわのトットちゃん／ 2003 年
Totto-chan : la petite fille à la fenêtre Presses de la Renaissance/ フランス／ 2006 年
Totto-Chan：la bambina alla finestra Excelsior 1881 ／イタリア／ 2008 年
Totto-Chan Bên Cửa Sổ Nhã Nam Publishing ／ベトナム／窓ぎわのトットちゃん／ 2012 年
窗邊的小荳荳 親子天下／台湾／窓ぎわのトットちゃん／ 2015 年
繪本 窗邊的小荳荳 親子天下／台湾／絵本 窓ぎわのトットちゃん／ 2015 年
일러스트 창가의 토토 Gimm-Young Publishers ／韓国／絵本 窓ぎわのトットちゃん／ 2015 年
โต๊ะโตะจัง เด็กหญิงข้างหน้าต่าง Butterfly Publishing ／タイ／窓ぎわのトットちゃん／ 2015 年

その他

토토의 새로운 세상 文化思想社／韓国／小さいときから考えていたこと／ 2002 年
토토와 함께 한 내 인생 최고의 약속
Random House ／韓国／トットちゃんとカマタ先生のずっとやくそく／ 2008 年
岩崎知弘 繪畫的 33 個秘密 親子天下／台湾／ちひろの絵のひみつ／ 2016 年

あとがき

安曇野ちひろ美術館副館長　竹迫祐子

ちひろ美術館の 40 年を振り返ると、創設の時代に比べ世の中が大きく変化してきたことを実感します。絵本のための絵が、美術作品だと考えられていなかった 1970 年代。人々が望むのなら、いわさきちひろの作品を、「ささやかであっても人類の遺産のひとつとして位置付けたい」と考えた松本善明。その具体的な形として絵本の専門美術館を構想し、実現させた松本猛、松本由理子。遺族はすべての遺作と、著作権と資産の一部を寄贈し財団を設立して美術館を運営していくという公益的なあり方を示しました。それに賛同する多くの人たちに支えられて、設立された美術館は、「絵本を中心とする文化の民主的多面的発展に寄与する」ことを目的に掲げスタートします。初代館長の飯沢匡は、画壇の既成概念にとらわれることなく、市井の仏師・円空や放浪の画家・横井弘三を見出した慧眼でいわさきちひろを評価し、同時に、美術館というものの明確なビジョンを持って、今日の基礎を築きました。

これまでに東京、安曇野の両美術館へ足を運んでくださった方は６６３万人。遠い地で応援して下さる方々を含め、支えてくださったすべてのみなさまに、心からの感謝を申し上げます。

今日、日本では 30 を超える絵本美術館が誕生し、公立美術館からギャラリーまで、年間 400 近い絵本原画展が開催され、多種多様な活動が展開する絵本文化の土壌が培われてきています。今秋、国際子ども図書館で開催される、国立国会図書館所蔵の絵巻や奈良絵本から当館所蔵の現代の絵本まで、両館コレクションで辿る「日本の絵本の歩み展――絵巻から現代の絵本まで」は、そのひとつのあらわれと言えるかもしれません。

その一方で、世界には絵本を読むことなど想像もできない境遇に置かれた子どもたちが、今もたくさんいます。日本でも、再び戦争への道が危惧される今日この頃です。

絵本が読めるのは平和だからこそ。ちひろ美術館は、これからも世界中のすべての子どもが安全に暮らし、安心して学べ、遊び、育ち、夢ふくらむ未来を思い描くことができる明日をめざして、活動を行っていきたいと思います。

（公益財団法人いわさきちひろ記念事業財団事務局長）

ちひろ美術館 40年の歩み
1977-2017

発行日　2017年4月10日

編集　ちひろ美術館（東京・安曇野）
編集協力　久保恵子
印刷　（株）オノウエ印刷
デザイン　島内泰弘デザイン室
写真提供　中川敦玲、嶋本麻利沙、大槻志穂

発行　ちひろ美術館・東京
〒177-0042
東京都練馬区下石神井4-7-2
TEL.03-3995-0612

安曇野ちひろ美術館
〒399-8501
長野県北安曇野郡松川村西原3358-24
TEL.0261-62-0777

Copyright © 2017 CHIHIRO ART MUSEUM